

令和2年度復興・創生期間後に向けた東北の  
ブランド価値向上及び関係人口創出に関する調査事業

報告書

令和3年3月

経済産業省 東北経済産業局

(委託先：信金中央金庫)

## はじめに

東北地域の経済情勢は、東日本大震災により大きく減退しましたが、その後着実に回復を果たしてきたところ、昨今の新型コロナウイルスの感染拡大に伴う全世界的な経済低迷により、回復基調に歯止めがかかっているのと同時に、震災被災地に対する世間的な関心も低下しています。

そのような中、2020年4月から、政府の復興・創生期間の最終年度でもある「10年目」という節目の年度を迎え、「ポスト復興・創生」の議論も本格化する中で、これまで以上に、地域の自律的発展に向けた取組が急務であります。

本調査では、復興・創生期間後を見据えた、東北地域の自律的発展に向けて、「地域資源」と「関係人口」に着目した調査、及び調査内容を踏まえた実証的な取組を実施することにより、復興・創生期間後の東北地域の「あるべき姿」を検討し、新たなアクションに繋げることを目的とし、次の10年に向けた方向性を示すものであります。

## 目 次

第1章	東北地域の「地域資源」に関する事業者調査.....	1
1.	素材生産の変化.....	1
2.	商品づくり・製造手法の変化.....	2
3.	消費者・マーケットの変化.....	4
4.	事業主体の変化.....	7
5.	地域ブランド・地域商社等の設立.....	8
第2章	東北地域の「関係人口」創出事例調査.....	9
1.	関係人口とは.....	9
2.	関係人口創出の分類.....	10
3.	関係人口創出の段階.....	13
4.	関係人口創出の効果.....	15
第3章	「東北の新たな価値」創造に向けたワーキンググループ設立・運営.....	19
1.	関係人口創出に関するWG.....	19
2.	地域ブランド化に関するWG.....	19
第4章	「東北の新たな価値」創造に向けたイベント開催.....	21
1.	東北コーディネーター・フォーラムの開催.....	21
2.	TOHOKU リブランディング会議.....	21
第5章	ポスト復興創生に向けた総括.....	23
1.	関係人口創出に向けた諸課題と方向性.....	23
2.	地域資源活用および地域ブランド化に向けた諸課題と方向性.....	23
3.	おわりに.....	24

### 参考資料

参考資料1：事業者事例調査

参考資料2：東北コーディネーター・フォーラムチラシ

参考資料3：TOHOKUリブランディング会議チラシ

## 第1章 東北地域の「地域資源」に関する事業者調査

本章では、東北地域の地域資源活用に関する食と技を中心とした事業者事例に対し、具体的な商流に基づき「素材生産、商品開発・製造、販売・消費」のそれぞれの変化について、傾向分析を行うとともに、それらに取り組む事業主体の変化やその他傾向を分析し、取りまとめていく。

### 1. 素材生産の変化

#### (1) 東日本大震災による変化

東日本大震災による津波および原発事故によって、素材生産に大きな影響があった。

津波の被害については、農地および設備への物理的な被害のほか、塩害による土壌への影響があった。一方で、塩害の中でも育てられる作物や塩害を軽減する作物を協働で栽培する事例や、塩害被害のあった農地で大規模施設園芸に取り組む事例など、被害に負けずに前を向く素材生産者の取組が創出された。

また、福島県を中心として、原発事故の風評被害により、一次産業（農業・漁業）における素材生産に大きな影響があった。すべての生産者が販売先に苦勞しながらも、事業を継続するために知恵を絞り、相互に応援し合う機運が醸成され、困っている生産者・加工者同士での商流構築や、生産者と消費者を結ぶ新たな情報・販売チャネルが創出されるなど、素材生産者・食産業従事者・消費者がダイレクトに繋がり、顔の見える関係に変化した動きも見られた。

図表1：株式会社デ・リーフデ北上  
塩害農地でトマト・パプリカを栽培

株式会社デ・リーフデ北上 「先進技術・再生可能エネルギーを活用したトマト・パプリカ栽培」	
<ul style="list-style-type: none"> <li>当社代表者の鈴木嘉悦氏は、もともと農業農家であったが、東日本大震災で田んぼが流され、その後塩害が懸念されたため、稲作の再開を断念せざるを得ない状態であった。</li> <li>こうした中、震災後に復興支援で来日していたオランダの事業者を通じて、オランダの施設園芸に触れる機会があり、そこで施設園芸に興味を持った。沿岸部石巻の豊富な日射量が施設園芸へ有効活用できるとわかり、オランダ型の大規模施設園芸の取り組みを決め当社を設立した。</li> <li>石巻地区の特産品であったトマトについては、オランダ式の先進的栽培技術の導入することで品質だけでなく、収量を向上させることができた。また、再生可能エネルギーの活用により持続可能な栽培を行っている。</li> <li>また従業員についても、ほとんどが石巻市(半分が旧北上町)在住であり、被災地の雇用創出の役割も果たしている。</li> </ul>	
<p>【会社概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称：株式会社デ・リーフデ北上</li> <li>設立：2014年</li> <li>代表者：鈴木 嘉悦 部長</li> <li>所在地：宮城県石巻市北上町橋浦 北登谷崎226</li> </ul> <p>● 再生可能なエネルギーを使用したトマトとパプリカの生産および販売</p>	

図表2：有限会社仁井田本家  
原発被害で困る米農家の契約栽培を拡大

有限会社仁井田本家 「日本の田んぼを守る酒蔵へ～自然酒が醸す自然と地域社会～」	
<ul style="list-style-type: none"> <li>当社は、創業300年を超える老舗酒蔵であり、米づくりを大事にした「自然酒」を造っている。</li> <li>「自然酒」は、代表の仁井田稲彦氏の父・稲光氏が語を受け、自然の力で育った米での酒造りに取り組み、1967年から販売を開始した。その後、自社田で自然農法による米作りに取り組みながら、農業生産法人を設立して自然の力を活かした田んぼや自然環境づくりに取り組み、2011年には全ての酒造りを自然由来の素材にすることを決意した。</li> <li>その後、2011年の東日本大震災により、福島原発の風評被害によって県内の農産物や食品加工品の販売が激減する中、自然農法に取り組み農家を助けながら、地元で田んぼでの酒造りから逃げず、古い種類の米の栽培や商品リニューアルにより、既存顧客から若年層・海外顧客にも目を向けた商品づくりに取り組んだ。こうした中で、こうじチョコやあまさけなどの発酵商品の開発・販売にも取り組み、醸すことによるスローな顧客からの共感を獲得し、自社のコミュニティの拡大が進んでいる。</li> <li>また、地域の集いにも心がけ、子供やお酒を飲まない人も集まれるスイーツを震災後に開催したほか、震災前から自社田で「田んぼのがっこう」を10年以上開催し、教育面でも地域に貢献している。</li> </ul>	
<p>【会社概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称：有限会社仁井田本家</li> <li>設立：1711年</li> <li>代表者：仁井田 稲彦</li> <li>所在地：福島県郡山市田村町金沢字高 原蔵139番地</li> </ul> <p>● 日本酒(自然米を原料とした純米酒)の醸造販売 ● 甘酒、発酵食品の製造販売</p>	

#### (2) 技術進歩および地方創生による変化

2014年にまち・ひと・しごと創生法が成立し、国のまち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」という。)が策定され、2015年以降には都道府県および市区町村でそれぞれ地方版総合戦略が策定された。

同法に基づき、地域の活力を取り戻すための財政措置が講じられる中、東北地域の農村・漁村部などで、素材生産に関する新たな取組が加速したほか、農業のICT化や首都圏企業

と連携した一次産業の革新やブランド化が行われた。

また、農業分野を中心に、メガ園芸などの大規模な取組や、農業生産法人等実施主体の規模拡大による効率経営など、安定雇用・担い手確保に向けた動きが進んでいる。

図表3：西和賀町内生産者等

西わらびの買取制度構築・ポット苗の定着化

西わらび生産販売ネットワーク・西和賀産業公社		地域資源	岩手県
<p><b>「西和賀町のブランド山菜「西わらび」の生産改革・市場拡大」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岩手県の中西部に位置する西和賀町では、古くから山菜の産地として有名であり、中でも「わらび」は、他地域と比べてアアやスジが少なく、柔らかくて粘りがあることから「西わらび」と呼ばれ、高く評価されている。</li> <li>同町では、「西わらび」の特産品化・販路拡大に向けて2002年から取り組み、2006年から西和賀産業公社による買取制度を構築していたが、山林からの移転による対応で生産量を確保できない状況であった。</li> <li>そこで、生産方法の改良が進み、2016年よりポット苗を使った栽培が本格化し、生産が容易であることを理由に栽培面積が拡大した。2020年度には、地理的表示(GI)制度の登録を目指している。</li> <li>また、西わらびは、西和賀産業公社にて販売推進されるほか、町内事業者で連携し、根っこを加工したわらび粉(西わらびのねっ粉)およびわらび餅の製造が推進されるなど、活用の幅が広がっている。</li> </ul>			
<p><b>【団体概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称 西わらび生産販売ネットワーク</li> <li>設立 2008年</li> <li>代表者 湯沢 正</li> <li>活動内容</li> <li>◆ 西わらびの生産・研究・販売</li> </ul>	<p><b>ポット苗が育つまで</b></p>  <p>西わらびのポット苗の栽培の様子</p>	<p><b>ポット苗の定着化</b></p>  <p>ポット苗の定着化の様子</p>	<p><b>西わらびのねっ粉</b></p>  <p>西わらびのねっ粉の製品</p>
<p><b>【会社概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称 株式会社西和賀産業公社</li> <li>設立 1988年</li> <li>代表者 福井 洋行</li> <li>所在地 岩手県和賀郡西和賀町川尻40地割73番地11</li> <li>事業内容</li> <li>◆ 農産物・加工品の製造・販売</li> <li>◆ レストラン運営</li> </ul>	<p>出所：西和賀町HP、広輪にしわが、西和賀町へのヒアリング等より作成</p>		

図表4：あきた白神農業協同組合  
農事組合法人轟ネオファーム

秋田県の園芸メガ団地によるねぎ生産の推進

あきた白神農業協同組合・農事組合法人轟ネオファーム		地域資源	秋田県
<p><b>「園芸メガ団地による白神ねぎの生産」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋田県は稲作依存度が高く、米価の下落がそのまま農業に大きな影響を与えていたため、米依存から脱却し、収益性の高い農業構造への転換を目指していたが、これまでの取組みでは限界があった。そこで「園芸メガ団地」と呼ばれる大規模経営による園芸経営体の育成・連携による産地化を目指した。</li> <li>JAあきた白神では、秋田県の事業を活用し、白神の名を冠した戦略作物のうち、白神ねぎを取組む対象として定め、「園芸メガ団地」の生産者を募り、(農)轟ネオファームを含めた4事業者が参加することとなった。</li> <li>JAが事業主体となり、施設や機械をリースする形を取ることで、営農者の費用負担を軽減し、参入を促進している。また、事業計画の策定段階からフォローアップ支援に至るまで、熟練者から初心者へのノウハウの共有を図っている。</li> <li>様々な地域の事業者が営農者として参加することで、多様な作型につながり、地域の雇用に貢献している。</li> </ul>			
<p><b>【組合概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称 あきた白神農業協同組合</li> <li>設立 1998年</li> <li>代表者 佐藤 謙悦</li> <li>所在地 秋田県能代市富町2番3号</li> <li>事業内容</li> <li>◆ 信用・共済・販売・購買事業</li> </ul>	<p><b>【組合概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称 農事組合法人轟ネオファーム</li> <li>設立 2015年</li> <li>代表者 高橋 裕</li> <li>所在地 秋田県能代市宇井08番地2</li> <li>事業内容</li> <li>◆ 農作物の栽培(大豆、ねぎ、水稲、山うど)</li> </ul>	 <p>あきた白神園芸メガ団地の建物</p>	 <p>園芸メガ団地でのねぎ栽培の様子</p>
<p>出所：農林水産省HP等より作成</p>			

## 2. 商品づくり・製造手法の変化

### (1) 商品づくりの変化

東日本大震災の被災地では、多くの企業が本社機能・生産設備等の被害を受け、復旧・復興するまでに既存の販売チャネルが失われることが多かった。このため、多くの会社が既存の販路に捉われない新たな商品づくりに取り組む状況にあった。

特に、東北地域では、食品加工や縫製など、仕様・デザインに沿った製造のみを受託するケースも多く、自社が届けたい商品を改めて考える機会が強制的に創出されたことは、自社のやりたいこと・向かう姿を見つめ直すことに繋がったほか、商品づくりを通じて社内外の様々なご縁により新たな価値が創出されることに繋がった。

これは、東日本大震災が創出した大きな価値の1つであり、震災を乗り越え、商品・サービスを通じて消費者とより強固に結びつくことに繋がり、関係人口の創出や、復興を大きく加速させる要因にもなったと考えられる。

また、商品づくりを後押しするために、被災企業に対するマーケティング・商品企画を支援する事業者・団体や、投資ファンドや財団法人等により資金支援を行う者、消費者からダイレクトに資金調達を行うクラウドファンディング事業者の創出および定着化等、想いを形にする者を後押しする事業者・団体の存在が新しい価値の創出を支えていた。加えて、復興庁をはじめとした復興関連予算による支援も大きく、地域で諦めない経営者の心と、それをサポートする支え手、お金や人の流れを創出する仕組みや支援制度がなければ現在の復興の姿はないと言えるだろう。

さらに、地方創生の動きが加速する中、内閣官房の地方創生関連交付金や、総務省「地域おこし協力隊」制度の拡大等により、東北地域の中にお金や人の流れができることで、商品や地域の価値を引き上げるデザイナー等の専門人材が移住または関係人口化することによ

り、交流が促進され、地域の商品・サービスづくりにおける大きな変化がもたらされた。

図表5：一般社団法人東の食の会  
リーダー生産者達と共に食の革新等を推進

一般社団法人東の食の会	関係人口	地域資源	その他
<b>「地域資源を生かした商品開発とリーダーズコミュニティの形成」</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>当団体は、震災により断絶した生産者・加工者を支援するために設立し、東北の生産者と首都圏の食関連企業とのマッチングプラットフォームを形成する活動および生産者・加工者の商品設計・開発に対する支援を展開している。岩手県産・岩手缶詰と共に開発した「Cawa缶」は、サバの缶詰のデザインを一新し、首都圏の雑貨店に商品が並ぶなど、楽しく美味しく健康的な食文化の形成にも貢献している。また、東北外に知られていない「アカモク」の商品化、ホヤの缶詰開発・海外輸出など、東北をローカルかつグローバルな視点で押し上げている。</li> <li>また、生産者を含む「食のリーダー」が繋がりが成長していく機会（三陸フィッシャー・キャンプ、ふくしまFarmer's camp等）の提供や、それらのリーダーが広範囲に繋がる機会（フィッシャー・リーグや東北リーダーズ・カナルフェスティバル等の提供を通じて、東北の食のリーダーのコミュニティ形成にも取り組んでいる。</li> <li>2021年には、震災後10年を契機に、食のリーダー達と今後10年の東北の姿を「United Locals of TOHOKU」として、そのビジョンやアクションを具体化し、その歩みを進めている。</li> </ul>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>【団体概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称：一般社団法人東の食の会</li> <li>設立：2011年</li> <li>代表理事：橋本修二郎、高島宏平</li> <li>事務局代表：高橋大就</li> <li>会員企業：特別会員5社・一般会員30社</li> <li>事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 東日本の生産者のマーケティング、及び食関連企業とのマッチング</li> <li>◆ 食に関する新しい事業の創造</li> <li>◆ 日本の食の安全・安心を世界に伝え、日本の食文化を世界と繋ぐ情報発信</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="width: 60%;">  </div> </div>			

図表6：西和賀デザインプロジェクト  
交付金事業にて地域産品×デザインを推進

西和賀デザインプロジェクト『ユキノチカラ』	地域資源	岩手県
<b>「豪雪地域における自然の恵みを新たなブランド価値へ」</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>当プロジェクトは、西和賀町・町内事業者・岩手県内在住のデザイナー・北上信用金庫が連携し、デザインを活用した地域資源の魅力発掘と商品・サービスづくり、情報発信、人材育成等を進める取組みである。</li> <li>当時の住民にとって冬の活動の妨げになる雪は、一方で西和賀の美味し食べ物と豊かな食文化、雪遊びなどのアクティビティを生み出すために必要なものであり、その雪を価値化し、町全体の魅力にすることをミッションとしている。</li> <li>2015年に町主導により活動を開始し、地域ブランド「ユキノチカラ」を創設。町内事業者と県内デザイナーによる商品づくりや、販売イベントの開催等の販促活動、「ユキノチカラ新聞」を軸とした広報活動、雪国の魅力を知ってもらうための「ユキノチカラツアー」の開催など、多角的な情報発信を行ってきた。</li> <li>また、2019年からは町内事業者でユキノチカラプロジェクト協議会を結成した。当プロジェクトを契機に移住したデザイナーの加藤紗栄氏を事務局に、協議会独自の商品企画や町外の催事等への出席を行っている。</li> </ul>		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>【団体概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称：ユキノチカラプロジェクト協議会</li> <li>代表者：高橋 政明</li> <li>設立：2019年</li> <li>(プロジェクト開始：2015年)</li> <li>所在地：岩手県西和賀郡西和賀町川尻40-70-11</li> <li>活動内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地域ブランド「ユキノチカラ」の情報発信</li> <li>◆ 商品企画・販売の実施</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="width: 60%;">  </div> </div>		

(2) 製造・人手の変化

製品をつくる人手は、東日本大震災による人的被害や人口流出等によって大きく減少し、震災後に同様の生産能力を有する工場が復旧しても人手が確保できない等の問題が発生した。これを予見していた事業者は、生産規模を縮小させながら付加価値向上を目指す等のビジネスモデルの転換に取り組んできたが、今までのビジネスを同一の人員規模で進めることに限界が生じているケースは被災地全体でも多く見られる。

これに対し、ICT活用等で人手を代替する動きもあるが、特に食産業や伝統工芸等の技術産業では、AIやICT技術により人手を完全に代替することは困難であり、技術進化や外部環境の変化とどう向き合っていくかも課題となる。

また、人手不足への対応として、外国人労働者の手助けが大きいこともこの10年の特徴の一つである。震災以降、被災地を含む東北地域で働く外国人実習生の増加は、多くの業種の生産体制を助け、依存にも近い状態となっている。その一方で、被災地において、外国人労働者のコミュニティを支援する取組みや、宗教信仰を含め、同じ人間としての日常生活を

図表7：元正榮北日本水産株式会社  
震災後養殖拠点を集約し一貫生産を強化

元正榮北日本水産株式会社	地域資源	岩手県
<b>「天然を超える養殖あわびを世界に」</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>当社は、繁殖・稚貝育成から陸上養殖にて殻裏あわびを生産する会社であり、独自の生産・研究開発体制により国内シェアトップの生産能力を持つ。</li> <li>東日本大震災により生産施設がすべて被災したものの、奇跡的に見つかったあわびの成貝により、三種を絶やらずに復旧・復興を推進してきた。</li> <li>当社は、陸上による一貫した生産管理により、育ちの良い貝を抽出した繁殖体制や、サイズ別での生産管理による飲食業等が扱いやすいサイズ別の販売が1個単位でも可能である。また、海外輸出やBtoC販売といった新たなチャネルにも積極的に取り組んでいる。</li> <li>さらに、2020年度には、BtoCをより推進するための商品開発やEC販売での体制構築を進め、安価で美味しいあわびを家庭に届けるギフトセット等を提供している。</li> </ul>		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>【会社概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称：元正榮北日本水産株式会社</li> <li>設立：1986年</li> <li>代表者：古川 孝宏</li> <li>所在地：岩手県大船渡市三陸町鮫里石浜7-1</li> <li>事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ あわびの陸上養殖</li> <li>◆ 魚介類の養殖生産および販売</li> <li>◆ 魚介類の種苗生産および販売</li> <li>◆ 養殖事業に関するコンサルティング業務</li> <li>◆ 魚介類の加工販売および仕入販売</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="width: 60%;">  </div> </div>		

図表8：株式会社菅原工業  
震災後にインドネシア進出・市内にモスク建設

株式会社菅原工業	地域資源	宮城県
<b>「復旧復興と共に歩み、インドネシアと地域を繋げる建設会社」</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>当社は、水道工事を中心に成長する中、道路舗装工事を強みとする会社で経験を積んだ代表取締役専務の菅原渉氏がUターンし、道路工事等の事業にも積極的に取り組み始めた後に東日本大震災を迎えた。</li> <li>津波により全壊したダンプカー1台が残された中、がれき撤去に取り組み、その後災害復旧の道路工事や防犯灯工事に取り組み、規模拡大を進めてきた。その中で、東北再来創設イニシアティブにより、復興期を引く障rierを一掃を目的に始まった人材育成道場「絆創未来塾」の塾生(2014年)として参加し、国内の道路工事の技術で世界を相手にするアドバイスを受け、気山道では技能実習生や漁船乗組員と関わるインドネシア人を技能実習生として受け入れ、実習期間終了後にインドネシアで仕事ができるように構想した。</li> <li>2015年には技能実習生を受け入れ、インドネシアでの事業可能性を探り、2017年にはリサイクルアスファルトの製造・施工を行う現地合弁会社「PT SUGAWARA KOGYO INDONESIA」を設立し、同年にリサイクルアスファルトの工場を建設した。2018年からはインドネシア国内での舗装工事に採用され、同国で課題となる劣悪な道路環境の改善に取り組んでいる。</li> <li>また、市内に在住するインドネシア人が礼拝する施設がなく、仙台まで足を運んでいることを知り、子会社を設立の上、2019年に開業したトラローラ一層台「みしおね横丁」内に礼拝施設を設置するとともに、併設してインドネシア料理店「Warung Mahal」を出店した。</li> </ul>		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>【会社概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称：株式会社菅原工業</li> <li>設立：1980年(創業：1965年)</li> <li>代表者：菅原寛、菅原淳</li> <li>所在地：宮城県気仙沼市赤岩前田132</li> <li>事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 工事業：土木一式・舗装・管・水道施設</li> <li>◆ 運送業、産廃運搬業、採石業等</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="width: 60%;">  </div> </div>		

送しやすい環境づくりへの取組みが生まれ、より多様な生き方が受け入れられる地域社会に変容していく動きが見られる。さらに、外国人労働者との縁により、海外との取引に繋がる事例も見られ、地域社会や企業がよりグローバルに繋がる機会にもなっている。

但し、東北地域の多くでは、若年層を中心とした人口流出が進んでいることから、すべての企業が現状のビジネスモデルを維持することは困難であり、ビジネスモデルの転換・革新が求められる状況下にあるほか、担い手確保や人材育成・活用手法の検討については、東北地域全体で今後も検討が必要なテーマと言える。

### 3. 消費者・マーケットの変化

#### (1) 消費者と生産者との距離が近づいた 10 年

東日本大震災により、多くの人々が被災地域に目を向け、足を運び、復興応援のための消費を行ってきたが、これは一次的な復興特需だけではなく、生産者や販売者の想いに共感し、心で繋がることにより、息の長い「地域×地域」の交流や、「消費者×生産者・販売者」の交流に繋がった。これはマーケットや消費者心理の変化としては大きな影響となる。

この変化を生み出したのは、消費者・生産者双方であり、画一的な商品を買うよりも、顔が見え、想いに共感する生産者から買いたいという消費者の想いが、産直販路チャネルの活用や生産者の EC サイト等でのリピート購入に繋がり、生産者はそれら消費者に届く商品・サービスづくりに真摯に取り組むことで、これらの動きを加速させた。

また、これを支えるように情報伝達媒体としてのスマートフォン等のハード面の情報デバイスの進化や、SNS や ICT 技術等のソフト面の情報技術の進化や文化の発展が進み、情報の質や量が向上し、より身近に情報が得られ、消費者と生産者の距離が近くなる変化が生まれている。サービス面では、クラウドファンディング (CF) の普及がこの 10 年で進み、購入・消費という選択肢だけでなく、投資・寄付や先行購入等、自身の共感を表す行動の幅が広がってきており、現在は定期購入やサブスクリプションなど、より恒常的な購入・寄付等を行うサービスの取組も増えている。

図表 9：株式会社齊吉商店  
商品づくりへの姿勢が人の心を動かす

<b>株式会社齊吉商店</b> <b>「味と人への想いが紡ぐ地域×食×心の輪」</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>当社は、代表商品「金のさんま」をはじめとした、海のものや山のものなど、地域の恵みを活かし、添加物を使わず、ほとんどが手作りの丁寧な加工によって、「美味しい食卓、豊かな暮らし」を提供している。商品づくりの根幹に「家庭の料理」があり、身近な人が毎日食べても美味しくうれしいものを磨いている。</li> <li>東日本大震災により、本社・店舗・工場が全て被災したが、開発当時から継ぎ足して作ってきた、金のさんまの選別は従業員が命がけで持ち出し、震災から半年以内に一部商品の製造・販売の再開に至った。</li> <li>2012年には仮設工場にて市内での製造を再開し、仮設工場・店舗内「まっぴの台所」を、多くの団体が飲食やワークショップ等で利用した。2017年には潮見町工場を再建したほか、市内に本店舗「鼎・齊吉」を開店し、2018年から2019年には東京常設店となる日本橋三越店を出店している。</li> <li>再建で忙しい中でも、震災で応援に来た方に対する心からの感謝の気持ちは多くの人の心を動かし、当社から始まった震災後の縁により、多くの関係人口が気仙沼や東北に届出された。人の心を動かす想いは、全国の有名百貨店の権番でも同様で、味と想いに共感したファンがECサイトでのリピート購入で繋がった。</li> <li>2020年からはコロナ禍の中、東北から食を届けるために、女性の斉藤和枝専務が東北内の生産現場を訪問し、東北の旬のものを発信し家庭に届ける「生解凍」も開始しており、顧客とのあたたかい対話を行っている。</li> </ul>	
<b>【会社概要】</b> 名称：株式会社齊吉商店 設立：1960年(創業1921年) 代表者：斉藤 純夫 所在地：宮城県気仙沼市潮見町 2-100-1 <b>事業内容</b> ◆加工食品製造販売・飲食店経営 出所：当社HP等より作成	

図表 10：有限会社トロイカ  
CFを活用したチーズ工房併設店舗の新設

<b>有限会社トロイカ</b> <b>「北上の味となった『チーズケーキ』を次の世代へ」</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>岩手県北上市出身の代表者が、幼少期に父と行った中華料理店で調理風景を見て鶏の仕事を憧れを抱き、学卒後、洋食店やロシア料理店にて修業し、1973年に故郷である北上市に帰郷、「地域にまだ無い物を提供しよう」という想いからロシア料理店トロイカを開店した。</li> <li>古くから「地産地消」や「食の安全」に取組み、1997年にはチーズケーキやロシア料理に使用するチーズの更なる特化を目指し工房を設立し、チーズの自社製造を開始した。チーズに使用する牛乳は、その日に搾られた岩手県産の新鮮なものを毎朝仕入れており、出来上がったチーズは保存料や化学調味料を使用していない。チーズケーキは、自社で確立した「ミディアムセージング」という外割がサクサクに、内割はなめらかで柔らかい焼き上がりになるような焼き方が隠し出す。濃厚でかつ口溶けの良い味わいが特徴。注文の分だけ毎日ひとつひとつ、丁寧に手づくりしている。北上の食とえば「チーズケーキ」というファンも多い。</li> <li>2019年に、30歳代前後の従業員達の働きやすさと次世代育成のため、チーズ工房を併設した店舗を新設・移転した。なお、本移転の際にはミュージックセキュリティーズ社のクラウドファンディングにも挑戦し、156人の出資者が集まっている。</li> </ul>	
<b>【会社概要】</b> 名称：有限会社トロイカ 設立：1993年 代表者：高橋 正 所在地：岩手県北上市上江釣子 1-16-53-1 <b>事業内容</b> ◆飲食業(ロシア料理) ◆食品製造・販売(チーズケーキ等) 出所：当社HP等より作成	

現在は「D2C」(Direct to Consumer)と言われ、中間業者を一切挟まずに消費者に届ける仕組みも構築されてきており、消費者は其中で自身が共感する生産者・販売者を探して購入することが増え、「何を買うか」よりも「誰から買うか」が優先される購買行動に変わりつつある。これにより、小売業者や卸売業者は、販路との繋がりを確保する商売から、何故自社がその商品を扱うのか、消費者にどんな価値を届けたいのかといった想いを固め、それに共感する仕入先および販路をデザインすることが求められている。

これを加速させるかのように、SDGsを含めた国際的な潮流により、エシカル消費(倫理的消費)の普及や、モノ消費からコト消費への転換など、より消費者・生産者の「心」に迫る消費・生産行動の選択が求められている。

### (2) ストーリーへの共感性が重視される消費の中での東北

上記(1)を踏まえると、より消費者の心に響く商品および商品ストーリーが必要となり、生産・販売者にとっては買って欲しい人の「顔」が見える商品づくりの必要性が高まっていると言える。このため、商品に対する自社の想いや、消費者に届けたい価値を魅せる化し、文章・写真・動画等によって、様々な形で消費者に届けることが一般化している。これらは通信技術の進化とともに手段が複雑化し、SNSのライブ配信から直接購入可能なライブコマース等も開発されている。

一方で、情報伝達チャンネルが複雑化しても、ストーリーへの共感性や生産・販売者の姿勢が消費行動に最も影響することは変わらないことから、自社がどうありたいかを突き詰め、その中で商品ストーリーの根幹を創り上げることが最も重要となり、10年前から同様の商品づくりが求められている被災地の事業者にとっては、現在の市場に適用しやすい環境下にあると言える。

図表 11: 株式会社ポケットマルシェ  
生産者×消費者のプラットフォームを提供

株式会社ポケットマルシェ		地域資源	岩手県
<p><b>「生産者と消費者のつながりを生む持続可能なプラットフォームの構築」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当社は、一次産業の生産者がネット上で生産物を直接消費者に販売できるCtoCの電子商取引プラットフォーム「ポケットマルシェ」のサイトを運営している。</li> <li>震災当時「岩手県議会議員を務めていた代表の高橋博之氏が、災害ボランティアの活動現場で「生産者と消費者の共助の関係」を目にしたことを契機に、2013年にNPO法人東北開墾を設立し、被災地の一次産業の衰退に対して「生産者と消費者のつながり」で解決するため、食べ物付き情報誌「東北食べる通信」を創刊した。その後、「食べる通信」の知見・ノウハウを活かし、日本中に展開するためのプラットフォームとして2016年に立ち上げたのが「ポケットマルシェ」である。</li> <li>当サイトでは、売側(農家や漁師が現場の生産過程の様子や旬のオススメ等を掲載し、買う側の消費者は旬の食材から食べたいものを選んで注文し、生産者から直接食材を購入することができる。</li> <li>また、一次産業の生産者と消費者が直接ネット上で対話しながら生産者の想いや商品の背景を自ら消費者に伝えることができ、生産者と消費者の関係性が生まれ、生産者と消費者が「二人称(私とあなた)」として直接繋がることによって、新たな食の関係性が構築されている。</li> </ul>			
<p><b>【会社概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称: 株式会社ポケットマルシェ</li> <li>設立: 2015年</li> <li>代表者: 高橋 博之</li> <li>所在地: 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-26-5 盒子ビル5F</li> <li>本店: 岩手県花巻市藤沢町446-2</li> <li>事業内容: <ul style="list-style-type: none"> <li>「ポケットマルシェ」の企画・開発・運営</li> <li>リアルマルシェの企画・運営</li> <li>「東北食べる通信」の企画・運営</li> </ul> </li> </ul>			
<p>出所: 自社HP等より作成</p>			

図表 12: 綾里漁協・綾里六次化プロジェクト  
漁協初の食べる通信発刊と直販チャンネル構築

綾里漁業協同組合青壮年部・綾里六次化プロジェクト		地域資源	岩手県
<p><b>「地域×関係人口による漁業の新しい価値の創出」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>綾里漁業協同組合のある大船渡市の綾里地区では、その多くが漁業の関係者である。1989年に創設された青壮年部では、2003年からワカメやホタテの直接販売をスタートし、後年に「早採りわかめ焼一番」(志し浜ホタテ)の高橋登録を行い、販路拡大の取組みを進めてきた。</li> <li>東日本大震災後、養殖生産物、漁船や生産施設等が被害を受ける中、綾里の取組みを知っていた全国各地から集まったボランティアと共に瓦礫撤去などの苦難を乗り越え、「東北食べる通信」に志し浜ホタテが掲載されたことをきっかけとして、綾里独自で「綾里漁協食べる通信」を2015年に発刊した。その後、読者ニーズに基づき、生産現場に読者を招く取組みや交流施設「志し浜ホタテデッキ」や交流活動「浜の学び舎」を開始した。</li> <li>また、販路拡大の取組みとして、「綾里漁協アンテナショップ「リッパリ丸」」や「綾里漁協食べる通信」の編による1ターナー(6次化プロジェクト代表)によってECサイト「綾里漁協オンライン」を開始した。ECサイトでは、コロナ禍で飲食店などで需要が減少した地元のウニおよび早採りワカメの限定販売に注文が殺到している。</li> </ul>			
<p><b>【事業者概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称: 綾里六次化プロジェクト(綾里漁協内)</li> <li>代表者: 阿部 正幸</li> <li>所在地: 大船渡市三陸町綾里字黒土田 102-2</li> <li>事業内容: <ul style="list-style-type: none"> <li>綾里地域内の漁業生産物の販売</li> </ul> </li> </ul>			
<p>出所: 綾里漁協青壮年部・女性漁業者交流大会資料(2016)、「志し浜ホタテデッキ」HP、綾里漁協オンラインHP、Facebookページ等より作成</p>			

### (3) モノからコトへ、コトからトキへ

コト消費という言葉や、届けたい想いの具現化・ストーリー化については上記(2)で取りまとめたが、古民家の改修・リノベーションや、古くから続く伝統工芸や文化の伝承やリブランディング、雄大な自然の価値化やそれを味わうデザイン、地域課題や社会課題に対す

るビジネスデザインについても東北の地域資源活用における大きな流れとして挙げられる。

例えば、築何百年の茅葺屋根の古民家を改修した宿でゆっくりと過ごす時間に対し、高級旅館と同等の値段で泊まる旅行者が増えている。この旅行者の消費体系は「コト消費」とどまらず、より歴史や文化などが積み上げてきた「トキ」に価値を見出し、お金を払っているように感じられる。

コト消費は、モノが充足した現代において、商品機能による価値ではなく、商品購入では得られない体験や経験などのコトに対する消費と言われている。この定義では、宿泊業はすべてコト消費として捉えることになるが、その古民家の事例は、東北の10年の消費の変化を振り返る際に重要な事柄になる可能性がある。

長年をかけて育まれた雄大な自然を味わうこともその一つであるが、伝統工芸を含め、紡がれた「トキ」の長さや重さを感じることで、一時的にでもそれを共有することにお金をかけ、その価値を味わい、自身の感性の糧としているように感じられる。

上記(2)でストーリーへの共感性について触れたが、先に言及した「紡がれてきた自然・伝統・文化」は、事業者の想いに共感するだけではなく、紡がれたトキの長さや重さに対して想いを馳せるような、深い共感に繋がるのではないかと考える。ストーリーへの共感、所謂「コト消費」であるが、その根っこにある文化や自然、持続性といった、コトを超えた「トキ」を楽しむ、共有していくような概念を新たに東北の大きな地域資源として定義することができるのではないかと考える。この考え方においては、東日本大震災を背景とする一連の出来事や創出されたチャレンジもその大きな「トキ」に含まれるのではないかと考える。

このトキは、金銭による消費だけでなく、体験・共有可能なものであるため、その中から相互な消費・体験活動により、新たな感性・活力・共創が生まれ、最終的にマーケットチェンジが起こるようなリーダー人材や活動が生まれることも想定される。震災復興による関係人口は、この副産物として顕在化したものである可能性があり、そこから創出された社会的・経済的インパクトは復興特需等の消費以上に大きなものであったと考えられる。

これは間違いなく東北の圧倒的な地域資源であり、食や技では分類できない、深い地域資

図表 13：一般社団法人 B00T  
19 代続く集落を分散型ホテルにデザイン

<p><b>一般社団法人B00T『NIPPONIA 楡山集落』</b> 「辺境の集落から未来の暮らしや学びを得られる空間づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当団体は、「辺境から未来を描くミッションに、辺境の集落に暮らしながら、その風土が育んできた伝統・価値とその持続性・多様性、人口減少時代の仕事・暮らし・生活・コミュニティや自然と人間の共生を本質的に考え、未来から新たな集落をデザインし、実践・検証・再投資を循環的に行っている。</li> <li>代表者である矢部佳宏氏は、海外でランドスケープアーキテクトとして庭や公園デザイン・都市計画や緑地計画のデザインに取り組み、2012年に現在2軒となる楡山集落を受け継いだ19代目である。</li> <li>東日本大震災により、普遍にあった風景が一朝にして消失する姿を目の当たりにし、大切な風景の未来を守りたいと考え、自然に寄り添う暮らしから未来への学びを得られるよう、新しい集落の風景を「宿」としてオープンする形で表現した。</li> <li>町内では、2002年に廃校した中学校をリニューアルし、アーティスト・イン・レジデンス事業の拠点となる西会津国際芸術村を2004年に開校して、代表が2013年からコーディネーターに就任した経緯がある。現在は、当団体が指定管理として運営し、人が交わり未来ある過疎をデザインする様々な取り組みを展開している。</li> </ul> <p>【会社概要】 ・名称：一般社団法人B00T ・設立：2017年 ・代表者：矢部 佳宏 ・所在地：福島県耶麻郡西会津町大宇川大字大宇川大字高瀬根字百目 5900</p> <p>・事業内容 ◆ 辺境の集落から社会の未来像を研究・デザイン・実践するランドスケープ・デザイン・コンサルティング</p> <p>出所：当該団体等より作成</p>	<p>関係人口 地域資源 福島県</p>
--	----------------------

図表 14：合同会社とびしま  
自然や文化を大切に島全体の産業をデザイン

<p><b>合同会社とびしま</b> 「0次産業を大切に持続可能な未来の島づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山形県唯一の離島である飛島において、人口約180人・平均年齢70歳と島の存続が危ぶまれる中、飛島出身の本間代表と大学在学中に飛島に地域移住体験した松本代表が、島に雇用を生み出し、観光客や関係人口を呼び込むことで、島をプラットフォーム化し、島全体を会社にするコンセプトで当社を創業した。</li> <li>島の魅力である風景を維持するために、「0次産業」と称した産業になり得る前の風景の保存・継承を行いながら、生産・加工・流通である1〜3次産業までを総合的に行う6次産業化の活動に取り組んでいる。</li> <li>ツーリズム事業では、島の魅力を伝えるメディアの立上げのほか、インストラクター資格を有する社員が島ならではのアクティビティを提供する。また、お話し移住の島ツアー事業がコロナ禍で実施困難なため、オンラインでのツアーも開催した。ITツールを活用しWebコミュニティを形成するなど、関係人口の繋がりに取り組む。</li> <li>最近では、新技術とローテクを組み合わせた新たな島暮らし「TECH ISLAND」を追求し、他の離島への輸出も視野に取り組んでいる。</li> </ul> <p>【会社概要】 ・名称：合同会社とびしま ・設立：2013年 ・代表者：本間 当、松本 友哉 ・所在地：山形県酒田市飛島勝浦乙132-19</p> <p>・事業内容 ◆ 0次産業：資料館の運営、環境保全など ◆ 1次産業：農作業、水産業など ◆ 2次産業：加工所の運営、商品開発、パッケージデザインなど ◆ 3次産業：飲食店運営、土産店運営、観光ツアー企画・運営、ガイドなど ◆ その他：地域活性化・地域維持管理など</p> <p>出所：当該11社より作成</p>	<p>地域資源 山形県</p>
--	-----------------

源となろう。山形県の唯一の離島である飛島の地域商社である合同会社とびしまでは、このような文化・自然資産等に対する取組を「0次産業」として捉え、1次産業以降の生産活動に対する土台として未来に紡ぐ活動を行っており、その存在を意識するか否かで産業構造や産業創出の段階が変わっていくのではないかと考えられている。

#### 4. 事業主体の変化

##### (1) 企業連携の推進

東日本大震災後、既存企業の経営者同士で企業を新設するケースや、プロジェクト形式で複数企業の経営者または後継者が連携事業を行うケースが増加している。

これらは、自社では人的・設備的に難しい場合においても、協働・共有により実行可能となる事業のほか、自社の風土では合わなくても協業であれば実施できる事業など、参画する企業自身が起業家精神をもって前向きに楽しく取り組むことができるケースと言える。

また、社会課題や地域課題に取り組むソーシャルビジネスにおいても、非営利法人と民間営利企業が連携するケースや、地域を持続可能とするための取組に首都圏の大手企業が参画または合弁等にて協働するケースも増加している。

これらは、2011年に提唱された、CSV (Creating Shared Value) としても定義され、経済的価値と社会的価値を同時実現する共通価値の戦略として、社会的課題を自社のリソースおよび戦略で解決することにより、自社の持続的な成長にもつながる、本質的で新たな経営戦略として捉えられている。

##### (2) 事業承継・M&Aの推進

東日本大震災後、経営者の人的被害による代表者交代や、震災復興が加速する中で後継者に事業承継を進めるケースも生まれている。

今回は震災後の代表者年齢の変化について調査は行っていないが、代表者の若返りとともに地域全体の経営や活性化に対する意識を持つ経営者が、次世代の起業家やリーダーを育成するケースも見られ、一企業に捉われないリーダー候補の育成やその中で新たなリー

図表 15：三陸フィッシュペースト株式会社  
同業同士の合弁で新たな蒲鉾の価値を追求

<p>三陸フィッシュペースト株式会社 「蒲鉾屋同士が協業し新しい蒲鉾の可能性と価値を追求」</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>当社は、100年以上続く老舗の蒲鉾店である、株式会社及善商店(南三陸町)および株式会社かねせん(気仙沼市)の経営者によって2017年に設立された。経営者それぞれが東北未来創造イニシアティブが主催する「経営未来塾」に参加したことが縁となり、自社のみで解決できない課題を協業の上取り組んでいる。</li> <li>当社は、蒲鉾の短みである賞味期限が短いことや冷蔵保存が必須であることを解決するため、加圧加熱殺菌技術により、風味を損ねずに高温での長期保存を可能とした「煮るかまぼこ」や、長期保存を可能としながらかまぼこにホタテを丸ごと2個乗せた「ぼたての」を2019年に製造・販売した。</li> <li>2020年には、南三陸で有名なこと蒲鉾の技術や想いを詰め込んだ、高タンパク・グルテンフリー・無添加のたこ焼き「BBタコB (Beautiful Body Tako Ball)」を発売したほか、食べられる魚肉ルー「#ぶるかまんシヤツ」/#ぶるかまんシート」の開発・販売を進め、蒲鉾業界から食産業や釣り業界にその領域を広げている。</li> </ul>	
<p>【会社概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称 三陸フィッシュペースト株式会社</li> <li>設立 2017年</li> <li>代表者 及川 善弥 (及善商店専務) 齋藤 大悟 (かねせん代表)</li> <li>所在地 宮城県気仙沼市松崎前浜36番地1-1</li> <li>事業内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆長期保存可能な蒲鉾の製造・販売</li> <li>◆蒲鉾製造技術を活かした食品・釣りの製造・販売</li> </ul> </li> </ul> <p>出所：自社HP・Facebookページ等より作成</p>	<p>【団体概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称 秋田佃煮若旦那衆 smelt</li> <li>設立 2019年</li> <li>代表者 佐藤 賢一</li> <li>所在地 秋田県湯上市</li> <li>活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆秋田県の伝統特産品「佃煮」の味・技・価値に関する情報発信および商品開発・販売</li> </ul> </li> </ul> <p>出所：当該HP等より作成</p>

図表 16：秋田佃煮若旦那衆 smelt  
秋田県湯上の佃煮屋で商品開発・PRで協業

<p>秋田佃煮若旦那衆 smelt 「秋田佃煮わかさぎを未来に楽しく繋げていく若手経営者の挑戦」</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>当団体の名称であるsmelt(スマルト)は佃煮での定番である「ワカサギ」を意味し、将来に向けて秋田の佃煮を作り続けるべく、佃煮の味・技・価値の情報発信やコラボ商品の開発を行う形で、企業の特を超えて協業する活動を行っている。構成企業・メンバーは、佐藤食品社(佐藤賢一代表)、柳菅英佃煮本舗(菅原英樹代表)、崎千田佐市商店(千田浩太取締役)の20~40代の若手経営者3名となる。</li> <li>秋田県の補助金を活用し、専門家と連携しながら佃煮の認知度向上に取り組み、古くから続く文化である佃煮「新たな商品づくり」にも取り組む。2020年には3社のつくだ煮を一度に味わえるコラボ商品「え？辛いジャン！」を開発・販売している。メンバー3人では、他分野の食品、商品を佃煮で表現できないかとアイデアのインスピレーションを得ながら自社またはコラボにより試行錯誤を続けている。</li> <li>また、SNSの活用や、Youtubeでの情報発信など、3人で協力して、互いの商品や企業のPR、八郎湯わかさぎなどの情報発信にも楽しみながら取り組んでいる。</li> </ul>	
<p>【会社概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称 三陸フィッシュペースト株式会社</li> <li>設立 2017年</li> <li>代表者 及川 善弥 (及善商店専務) 齋藤 大悟 (かねせん代表)</li> <li>所在地 宮城県気仙沼市松崎前浜36番地1-1</li> <li>事業内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆長期保存可能な蒲鉾の製造・販売</li> <li>◆蒲鉾製造技術を活かした食品・釣りの製造・販売</li> </ul> </li> </ul> <p>出所：自社HP・Facebookページ等より作成</p>	<p>【団体概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称 秋田佃煮若旦那衆 smelt</li> <li>設立 2019年</li> <li>代表者 佐藤 賢一</li> <li>所在地 秋田県湯上市</li> <li>活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆秋田県の伝統特産品「佃煮」の味・技・価値に関する情報発信および商品開発・販売</li> </ul> </li> </ul> <p>出所：当該HP等より作成</p>

ダーコミュニティが生まれていることにも繋がっている。

また、事業環境の変化により、全国的にM&Aが増加しているが、東北では事業の購入・売却だけではなく、事業同士の理念共感性や社会的意義を捉えたグループ化や合弁会社設立等の戦略的M&Aが行われているケースも見られる。

## 5. 地域ブランド・地域商社等の設立

地方創生の進展とともに、地域の商品を首都圏等で販売・発信していく地域商社や、地域の資源をストーリーから掘り起こして発信していく地域ブランド化に関する取組が行われている。地域資源を活かしたブランド開発や、地域の価値を掘り起こしてブラッシュアップするケースなど、その取組みは様々である。

一方で、協議会形式の場合に地域の事業者間の利害調整が必要となることや、卸売・小売だけでは利益率が低く、持続可能なビジネスモデルの構築に悩むケースなども存在するため、地域のモノ・コト・トキをデザインするための後押しや、地域内での試行錯誤は今後も必要となろう。

図表 17: 株式会社 SANNOWA  
青森県三戸の地域資源を活かした商品づくり

地域資源	青森県
<b>株式会社 SANNOWA</b> 「官産民が作る地域商社が進める古くて新しい商品づくり」	
<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社 SANNOWAは、2019年1月に三戸町の地域商社として、三戸町と販売広告社が出資し設立された。地域に根差した経済活性の仕組みをつくり、地域の人と全国をつなぐことに貢献している。</li> <li>地域商社設立までの道のりとして2016年度から国の地方創生推進交付金を活用し、地域商社機能の構築・強化事業を実施した。観光業・商工業・農業・行政等の多様な分野から集めた20名の委員会を通じて、地域の未来を担う商品開発について検討を進めた。</li> <li>そして、付加価値をつける商品開発・ブランディング・マーケティング開発等の課題点を解決するプロジェクトとして、2017年度に地域産品ブランド「三戸精品」を立ち上げ、商品販売を行っている。</li> <li>青森県三戸町産のリンゴやニンニク、洋タネやクラッパなど多くの種類の農作物は、近年人気が復活しており、当社では、需要が増えている紅玉等の卸売・商品開発にも力を入れている。</li> <li>2019年には栽培農家がなくなった町内のホップ生産を引き継ぎ、翌年にはそのホップで醸造したビールを発売した。町内産品のポテンシャルを引き出し、発泡酒等新たな加工品の開発・販売にも取り組んでいる。</li> </ul>	
<p>【会社概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称: 株式会社 SANNOWA</li> <li>設立: 2019年</li> <li>代表者: 吉田 広史</li> <li>所在地: 青森県三戸郡三戸町 八日町48-3</li> </ul> <p>・事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆加工品の製造販売業、商品の卸し販売業等</li> </ul>	
<b>SANNOWA</b> <small>出所: 当社HP等より作成</small>	

図表 18: 株式会社遠野醸造・株式会社 BrewGood  
ホップの町をビールの町にブランド化

地域資源	岩手県
<b>株式会社遠野醸造・株式会社 BrewGood</b> 「ホップの里からビールの里へ～持続可能な農業とまちづくり～」	
<ul style="list-style-type: none"> <li>岩手県遠野市は、半世紀以上にわたり日本唯一のホップ生産地(栽培面積全国1位)として、栽培を続けてきたが、近年は高齢化と後継者不足により生産量が大幅に減少し、日本産ホップ栽培の危機が訪れている。</li> <li>地域資源であるホップを未来に残すべく、日本産ホップの持続可能な生産体制の確立を通じて、地域活性化を目指し、ホップの魅力が最大限に活用しながら官民が一体となって未来のまちづくりに取り組む「ビールの里プロジェクト」を推進している。</li> <li>2017年11月には、移住者によって株式会社遠野醸造が設立され、2018年5月には遠野駅前前ブルワリー併設型のレストランをオープン。遠野産ホップを活かしたクラフトビールをつくることはもちろん、ビールの里の拠点となるようなブルワリーをつくり、地域住民だけでなく、地域外の多くの人々と一緒に、新たなビジュアルチャーを遠野で醸成している。</li> <li>2018年にはビールの里構想を推進する担い手として株式会社 BrewGoodが設立され、地域のブランディングや遠野ホップ取扱店の企画・開催によって多くの観光客が遠野を訪れている。直近5年では、ホップやビール関係の仕事をするために遠野に20名の移住者があった。</li> </ul>	
<p>【会社概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称: 株式会社遠野醸造</li> <li>設立: 2017年</li> <li>代表者: 袴田 大輔</li> <li>所在地: 岩手県遠野市中央通り 10-15</li> </ul> <p>・事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ビールの醸造および販売</li> <li>◆ブルワリーの運営</li> </ul>	<p>【会社概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称: 株式会社 BrewGood</li> <li>設立: 2018年</li> <li>代表者: 田村 淳一</li> <li>所在地: 岩手県遠野市中央通り 10-15</li> </ul> <p>・事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ビールの里構想の推進</li> <li>◆自治体・企業の事業企画等</li> </ul>
	
<small>出所: 当社HP等より作成</small>	

## 第2章 東北地域の「関係人口」創出事例調査

本章では、東日本大震災後に東北地域に増加した関係人口が創出された事例を調査の上、関係人口への理解を深め、東北地域における関係人口がもたらした効果について取りまとめを行っていく。

### 1. 関係人口とは

#### (1) 関係人口の定義

本調査では、関係人口が創出された様々な取組事例を基に、関係人口とは何かを改めて考えていった。

震災復興において増加した関係人口は、東日本大震災という出来事が地域と地域外の人を繋ぎ、その一部は移住し、それ以外はその地域を思う関係人口となり、定期的に訪問する人や、ふるさと納税や地域の商品を購入する人、企業や団体を継続的に支援する人、その地域に想いを馳せる人等、その行動は様々であるが、共通してその地域に関わる意思を持った人とも言える。その濃淡や行動は時間によって変化するため、途中で関係が途切れる人や突然関係がより濃くなる人も存在した。一人一人の人生で何等かの見えない「関係人口バッジ」のようなものが身につけられ、その地域・人・企業との「ご縁」が何かしらの形で顕在化したものの総称が「関係人口」という言葉だろうと本調査では整理したい。

このため、地域に「ご縁」があるのかが大きな要素であり、単なる消費型の旅行では得られないものとなるが、人と繋がる「たび」を通じて創出される可能性は高いだろう。

今回の事例調査では、地域資源の活用に取り組む事業者からも、関係人口と見られる人やその人との出会いについて語られた場面も多く存在した。それは、一つの物語のように紡がれた「ご縁」であり、その人がいなかったら今の自分や事業はないというような話も多かった。また、それは地域で言えば、東北内や都道府県内で繋がった「ご縁」も存在した。

これらは間違いなく関係人口論において重要なポイントであり、「ご縁」をどれだけ紡ぐことができるか、それらの演出についても今後東北における必要な取組の一つとなるだろう。

#### (2) 関係人口における国の議論の状況と震災復興による事例の比較

国の関係人口に関する議論では、東京一極集中を是正するために移住促進を行ってきたが、その是正が困難であったために、首都圏にいながらでも地方と関われる「関係人口」という文脈が強く表現されている。

また、副業・兼業の推進を活発化させることで、首都圏の人材が持つスキルやノウハウ、知識などを地方に提供していくことが政策的にも推進されている。

一方で、移住者や関係人口として地域に関わった人からは、スキルやノウハウがないことにより、地域の中で生きていくノウハウを教えてもらいながら、自分に出来ることを探していったケースも多く存在し、スキル重視の移住やマッチングは地域に飛び込む人の足枷となる可能性があるほか、地域や地域に存在する企業・団体のニーズや困りごとが可視化されていない場合も多く存在する。

ここで、上記(1)に挙げた「ご縁」に関する話を参考にすると、ニーズを可視化して直

接結ばれたものよりも、地域・企業・人と「ご縁」が育まれた人や団体により、その関係性から新たな人との関わりが創出され、その中で劇的な「出会い」が創出されることも多く、地域に関わりたい人が直接関係性を持つケースよりも、関係性を持っている人や団体がその人と地域を結ぶ仲人となるケースが理想的と考えられる。

## 2. 関係人口創出の分類

本項目では、様々な地域において、関係人口が創出されたとされる事例から、その類型をグルーピングすることにより、その特徴を分析する中で関係人口に対する理解を深めることとする。

### (1) 地域区分による分類（地域内・地域外）

#### ①同一地域内のご縁をつくる事例

例えば、地域教育を通じて子どもや学生に対して、地域の事業者や人と繋がる「ご縁」をつくる事例が存在する。年齢を重ねるごとに、学生自身の考えややりたいことが浮かんでくるため、その学生に寄り添い、それに合った企業や人を繋ぐことが大事である。この場合、身近に感じられる地域の企業や人を紹介する方が効果的だが、ICT技術等、地域内で繋ぐことが困難な場合は地域外のネットワークを活用し、共に繋がり学んでいくも重要となる。

これは学生だけではなく、経営塾や創業塾など、地域の中でのチャレンジする大人のコミュニティにおいても同様であり、震災後自身が行っていくプランを共に考え、発表し、その後も苦楽を共にする経営者・創業者のコミュニティが多数生まれる中で、地域内外での「ご縁」が多く紡がれている。

図表 19: NPO 法人みやっこベース 子ども・学生と地域住民・企業を繋ぐ

NPO法人みやっこベース		関係人口	岩手県
<p>「子ども・学生とともに地域が育つまちづくりへ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当法人は、2013年に設立された教育系まちづくり団体であり、「みやっこ育つ」を理念に、学生や若者が育つ場づくり・まちづくりを推進している。</li> <li>代表の北坂雄大氏は市内企業の経営者であり、市内事業者・移住者・学生等の繋ぎ手であるほか、事務局長の早川輝氏は福岡県北九州市から復興ボランティアの中で出会った縁で活動している。</li> <li>震災後、まちのために何かしたいと話す学生とともに、市内の活性化を話し合う「高校生サミット」を開催し、アイデアを形にするために伴走支援を行うほか、学生に地域を再発見してもらう「地元修学旅行」、学生の居場所となるフリースペース「みやっこハウス」、子供たちが社会の疑似体験を行う「みやっこタウン」、地域の同期生たちがコミュニティ形成のための「ルーキーズカレッジ」を企画・運営するなど、地域と子供たちが日常的に関わる様々な機会を創出しながらコミュニティを育む取組みを進めている。</li> <li>また、岩手県の実践型インターンシップ事業では、NPO法人みやっこと協働し県内企業と学生を繋ぐコーディネートを行いながら、地域の新たな価値の掘り起こしに取り組んでいる。</li> </ul>			
<p>【会社概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称: NPO法人みやっこベース</li> <li>代表者: 北坂 雄大</li> <li>設立: 2013年</li> <li>所在地: 岩手県宮古市末広町8-24</li> <li>事業内容</li> <li>◆ 学生向けのふるさと教育・キャリア教育</li> <li>◆ 山/田/海/川の育成・定着支援</li> <li>◆ 実践型インターンシップのコーディネート</li> </ul>	 <p>電気が自由に使え 交流できる場所 みやっこハウス</p>	 <p>地域を語り、 行動を起こす 高校生サミット</p>	 <p>地域の魅力を 発見するツアー 地元修学旅行</p>
<p>出所: 関係人口HP等より作成</p>			

図表 20: 一番商品づくり塾 東北地域内の創業塾OBが繋がり支え合う場

経営コンサルティング波多野事務所『一番商品づくり塾』		関係人口	宮城県
<p>「生業をじっくりと考え、創業後も東北内で助け合える場」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮城県大崎市に所在する経営コンサルティング波多野事務所の代表である波多野卓司氏は、スロー・スモール・ローカルで、無理なく、継続していく生業づくりを支援する中小企業診断士であり、創業塾OBおよび起業家の相互支援コミュニティである「一番商品づくり塾」を主宰している。</li> <li>波多野卓司氏の創業塾では、自身の命を見つめ、誰に愛を向けたいかを考え、愛を商品・サービスとして作り、商品・サービスをお金に変え、お金を自身に還元して再び回していく、循環型の生業づくりを作っている。</li> <li>このため、創業塾参加者は自身の内面を見つめ、本当にやりたいことを見つめる。創業塾では、これが見つからない場合や迷いがある場合には、参加者に無理をさせず、あたたかく見守ることとしているため、創業塾に参加して何年も経過してから創業する人や、70歳を超えた高齢者で創業する人もいる。なお、創業塾に参加した1,000人を超えるOBのうち、その多くが創業に至っている点特徴的である。</li> <li>また、「一番商品づくり塾」は、東日本大震災が発生した2011年3月を除き、毎月実施されており、2021年3月で170回を迎える。自身の生業について参加者間で情報を共有し、意見交換を行う講義では、発表者と聴講者が心で繋がりを、新たな取引や展開が生まれることも多い。</li> </ul>			
<p>【取組概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称: 一番商品づくり塾</li> <li>主宰: 波多野 卓司</li> <li>設立: 2007年</li> <li>開催地: 宮城県仙台市内</li> <li>活動内容</li> <li>◆ 波多野卓司氏の創業塾OBが中心に集まる月例会の開催</li> <li>◆ メーリングリストを用いた相互交流</li> </ul>	 <p>①人の心 ②人の心 ③人の心</p>		<p>出所: 仙台市起業支援センターアンス、SHFおよびDARO法人ホームページ「ミヤッコハウス」HP等から作成</p>

#### ②東北地域・都道府県内で繋がる事例

同一の経営指導や創業指導を受けた人同士・地域同士で繋がることにより、東北地域内において同一の目的や考え方を持つ人や企業の集まりが多数生まれている。

震災後、生産者の育成や集まる場を創出してきた事例では、その中から業界全体を押し上げようと集まる団体やコミュニティが生まれ、市町村を超えて企業や人が同じ想いを持ち

ながら互いに成長していく「ご縁」が紡がれている。

また、創業塾OBで集まるコミュニティでは、新たに開発された商品・サービスや、困りごとを共有し合うことで、一定の相互購買コミュニティが形成されており、地域が離れているからこそ相互の助け合いという文脈でも作用していると考えられる。

### ③東北内と東北外が繋がる事例

上記①②と異なる点は、東北内のコミュニティで生まれた課題等を解決するために、繋ぎ手が東北外の人を紹介していくケースと、東北外の人が東北内に入っていきたい、貢献していききたいという意思を持ち、直接東北内に入っていくケースの2点が存在することである。

#### ・繋ぎ手が媒介となるケース

この10年で生まれた繋ぎ手は、a)元々地域住民の立場で活動をはじめた人・団体、b)震災ボランティア等地域外から定着してきた人・団体、c)それらが混じり合うケースの3つが想定される。それぞれが関わり合う企業・団体・人のコミュニティの中で生じたやりたいことや困りごとを解決する際に、それらが持っている地域外とのネットワークを活用する。

例えば、NPO法人ETIC. が提供するプログラム等で移住した繋ぎ手であれば、同様のプログラムで移住した他地域の繋ぎ手の情報や、同社本体が持つネットワークにより、自身が居住する地域の課題ややりたいことを繋ぐ関係人口との「ご縁」を紡いでいる。こういった東北地域を支える首都圏の企業・団体は多数存在し、その企業・団体間も繋がっているケースが多いため、東北地域外からのサポートについては、東北地域を愛する首都圏の企業・団体同士での「ご縁」としても多数存在する。

#### ・直接入っていくケース

特に震災直後には、多くの震災復興ボランティアが被災地を訪れたが、各々情報がない中で現地に入っていくケースも多い。

同様に、復興段階が進んだ後に、自社の強みを活かして地域に貢献できないかと入っていく企業・団体・人が一定数存在し、それらは直接地域を訪問しながら、その中の「ご縁」で移転や事業所の設立を決断するケースも見られる。

図表 21: 合同会社巻組  
移住者が絶望的な空き家再生で交流を生む

関係人口	地域資源	宮城県
<b>合同会社巻組</b> <b>「絶望的条件の空き家を地域の創造的拠点に」</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>当社は、空き家をクリエイティブな起業家の拠点にする活動を行っている。具体的には、築20年以上・未接達の空き家取得のウーリノベーション、シェアハウス・ゲストハウス等にて運営する事業を展開している。</li> <li>代表の渡邊享子氏は、東日本大震災後に縁あってボランティアで石巻市を訪れ、同様に支援に未だボランティアが家がないことを理由に当地を離れてしまうことを解決するため、空き家の活用を始めた。その後、住宅整備が進み、古くて立地条件が悪い住宅の空き家化が増える中で、特に絶望的な条件の空き家を活用することにより、クリエイティブな仲間が集まるようになった。また、空き家活用の担い手育成・コミュニティ形成のための取組み「イシノキオモシロ不動産大作戦」にも取り組んでいる。</li> <li>2020年には、贈与によりクリエイターを支えるプラットフォーム「Creative Hub」を立ち上げ、クリエイターの脚を募り、空き家を改修して無償家賃（最長3年）で共同生活の場の提供を開始した。併せて、食料・電子デバイス・生活用品等を寄付者から集め、クリエイターの最低限の生活を保障するなど、作品制作や事業づくりを支援する取組みを行っている。</li> </ul>		
<b>【会社概要】</b> ・名称: 合同会社巻組 ・代表者: 渡邊 享子 ・設立: 2015年(創業: 2014年) ・所在地: 宮城県石巻市中央2-3-14 親慶丸ビル2階		
<b>【事業内容】</b> ◆ シェアハウス、ゲストハウスの運営 ◆ 建物の設計施工(リノベーション) ◆ ローカルベンチャー(起業型人材)の育成 ◆ 実践型インターンシップのコーディネート ◆ 地方創生コンサルティング等		
		

図表 22: 一般社団法人ドチャベンチャーズ  
土着ベンチャーが中心となり地域内外を繋ぐ

関係人口	秋田県
<b>一般社団法人ドチャベンチャーズ『BABAME BASE』</b> <b>「地域の課題に土着の起業家・企業・人が協働して取り組むまちへ」</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>当法人は、秋田県五城目町馬場目にあるBABAME BASEを拠点に、五城目町内の土着企業・個人にて設立され、移住・定住・起業といった人生において軽くない出来事を、土着チームが情報発信・サポートすることで、地域課題解決の一助となることを目指している。</li> <li>ドチャベンとは「土着ベンチャー」の略で、地域を動かし活かす起業家・企業・人が、人口減少、高齢化、担い手不足、移住・定住などの様々な課題に対し、企業・個人がそれぞれ得意とする分野で協働しながら解決の糸口を探り、地域内外を巻き込みながら推進する活動である。</li> <li>BABAME BASEは2013年に廃校となった小学校(2001年リニューアル)を活用して生まれた地域活性化支援センターの愛称であり、五城目町によって運営された後、2018年から当法人によって運営され、16社・団体の入居がある。代表者の柳澤龍氏は、2014年に地域おこし協力隊として五城目町に移住し、地域の新たなカタチを生み出す様々なプロジェクトに随伴し、2017年にBABAME BASEに集まるドチャベンと共に当法人を設立した。2021年には新たに町内の空き家(旧吉田邸(釜地町町内会))の民間運営を行う予定である。</li> </ul>	
<b>【会社概要】</b> ・名称: 一般社団法人ドチャベンチャーズ ・代表者: 柳澤 龍 ・設立: 2017年 ・所在地: 秋田県南秋田郡五城目町馬場目 窪内台117-1 BABAME BASE	
<b>【事業内容】</b> ◆ 移住・定住・起業に関する情報発信・広報 ◆ 移住希望者の発掘・移住検討の機会創出 ◆ 仕事や暮らしの体験機会創出、起業支援 ◆ 就労機会情報の収集・提供 ◆ 商品事業開発、販促支援	
	

この際には、受入地域側にやりたいことや課題点が可視化されているケースもあれば、外からの視点で見える「価値」や「課題」に関わる側が見つけ、その中で受入地域側の熱量や居心地の良さから地域に関わることを決めるケースが存在する。この場合、受入地域側がいかに人との関わりを大事にしているか、地域に誇りを持ち前に進む意思を持っているか等がポイントとなる。

### (2) 時間区分による分類（常時提供・イベント型）

地域に関わるには、何かしらの「繋がる場」が必要であり、宿泊業でいう「チェックイン」のような場が地域に必要となる。株式会社 sotokoto online の指出一正氏の表現では「関係案内所」とも言われているが、移住定住支援センターのような公共的な役割を持つ場所や、地域の人が集うカフェ、多種多様な人が語らう飲み屋・ゲストハウス、コワーキングスペース等、様々な形態でその関係案内所が存在する。

また、年に1回など、定期的に開催するイベントに合わせて、運営を手伝う者、何かパフォーマンスを行うアーティスト、お祭り騒ぎをするために集まる者等、一発集中的な関わりを通じて地域に「ご縁」が紡がれる場合もある。この場合は、参加者から運営者に途中から変わるケース等、開催は瞬間的だが、その開催に合わせて様々な関係性が生まれる良さがある。さらに、関係案内所の役割を持つ場所が、イベント開催を通じてその関係性の輪を拡げていくようなハイブリッドなケースも多く存在する。

図表 23: 株式会社小高ワーカーズベース  
様々な交流の場を設計し挑戦をサポート

<b>株式会社小高ワーカーズベース</b> <b>「多様に創出される100の会社が1,000人を支える自立した地域社会へ」</b>		関係人口	福島県
<ul style="list-style-type: none"> <li>当社は「地域の100の課題から100のビジネスを創出する」をミッションに、自立した地域社会を実現するため2014年に設立し、南相馬市小高地区にてコワーキングスペースの運営、老舗前職ガラスメーカー「HARIO」と連携した職人技術継承のためのファクトリーの運営、市内でチャレンジする方へのサポート、起業型地域おこし協力隊「Next Commons Lab 南相馬」の事務局などを行っている。</li> <li>また、原発事故避難指示区域は、5年4か月も居住を許されなかったことから、一から暮らしを再構築するまごころが必要であると考え、当社では、前人未踏のフロンティアを開拓し、理想の村を創ることに可能性を見出しており、様々な事業・活動でチャレンジを続けている。</li> <li>2019年にオープンした「小高バイオアウェアレッジ」は、日本財団やクラウドファンディング等の支援を受け、開放的なコワーキングスペース、簡易宿所として泊まれるゲストハウス、ものづくりを生業とする人たちの共同作業場である「メイカースルーム」を備えており、2014年から創出されてきた多くの起業家の拠点となり、相互に助け合い、価値を共有するヴィレッジでもあることが特徴である。</li> </ul>			
<b>【会社概要】</b> ・名称 株式会社小高ワーカーズベース ・代表者 和田 智行 ・設立 2014年 ・所在地 福島県南相馬市小高区本町1-87 <b>事業内容</b> ◆ 簡易宿所付コワーキングスペース「小高バイオアウェアレッジ」の管理運営 ◆ ガラス製品の製造・販売 ◆ 起業型地域おこし協力隊「Next Commons Lab 南相馬」事務局の管理運営 ◆ コワーキングスペース「NARU」の管理運営	   		
<small>出所：当社HP等より作成</small>			

図表 24: OGA NAMAHAJE ROCK FESTIVAL  
ゼロから多くの交流が生まれるフェスへ

<b>OGA NAMAHAJE ROCK FESTIVAL実行委員会</b> <b>「野外ロックフェスを通じた男鹿市の活性化」</b>		関係人口	秋田県
<ul style="list-style-type: none"> <li>代表者の菅原圭位氏は、地元の秋田県男鹿市を盛り上げようと考え、地元内外の協力により、野外ロックフェス「OGA NAMAHAJE ROCK FESTIVAL」を開催している。</li> <li>何も無い段階からイベントを作り上げていったため、最初は小規模のイベントから始めて運営や地域の輪を拡げ、野外開催当初は赤字であったが、長期的な視点で開催を続け、野外5回目の開催で単年度黒字を達成し、現在では2日間の開催で15万人もの来場者があるイベントとなっている。</li> <li>野外開催の2回目の年に東日本大震災が発生し、フェスの開催に躊躇していたが、参加ミュージシャンや被災地の人から「ぜひ開催してほしい」との声に後押しされ、災害復興をテーマとして開催を実施した。</li> <li>ロックフェスが魅力的なイベントとして認知され、男鹿市の知名度が上がることにより、地元に住む若者が誇りに感じて地元に残るといった選択肢を作り出している。また、これまで男鹿市に来訪したことがなかったような若年層に対してアプローチすることで、地域内外の交流創出にも貢献している。</li> <li>2020年にはコロナ禍で延期を判断したが、2021年夏の開催に向けて再始動を行ったところである。</li> </ul>			
<b>【団体概要】</b> ・団体名 OGA NAMAHAJE ROCK FESTIVAL実行委員会 ・設立 2007年 ・代表者 菅原 圭位 ・所在地 秋田県男鹿市船川港船川字海岸通り2-2-4 <b>事業内容</b> ◆ OGA NAMAHAJE ROCK FESTIVALの運営	 		
<small>過去のロックフェスの様子 出所：当社HP等より作成</small>			

### (3) 繋ぎ手主体による分類（人材ビジネス系、ソーシャル系、公務員系）

上記(1)で地域による分類は行ったが、その繋ぎ手自体の職種や役割についても分類を行うことが可能である。

例えば、釜石市内に創業した株式会社パソナ東北創生では、その名の通り人材紹介等のビジネスを行う株式会社パソナが母体となり生まれた地域内ベンチャーであるが、人材ビジネスの強みを生かしながらも、地域の繋ぎ手として「ご縁」を紡ぐ大事な存在となっている。

これに対して、地域の避難所・仮設住宅同士の助け合いの輪を拡げていくような形で設立されたNPO等の団体では、よりボランティアな活動から派生しながらも、その後復興創生

期における住民のやりたいことを応援し、移住者等の外部人材ともつながる繋ぎ手となっている。

また、公務員や金融機関など、普段は別の仕事に取り組みながらも、ライフワークとして地域内外の人と関わり、その中で「ご縁」を創出するような立場の繋ぎ手も存在する。事例では取り上げなかったが、震災後の語り部活動を行う方もその中の一つと見られ、自身の中で取り組むべき信念を持ち、使命感を持って取り組んでおり、その個人の熱量によって紡がれた「ご縁」も少なくない。

図表 25：株式会社パソナ東北創生  
様々な交流の場を設計し挑戦をサポート

株式会社パソナ東北創生 「復興支援から生まれる地域×関係人口の混ざり合い」	関係人口	岩手県
<ul style="list-style-type: none"> <li>当社は、岩手県釜石市に本社を置き、研修ツーリズムやなりわいライフスタイル創造の支援を行っている。</li> <li>代表の戸塚絵梨子氏は、株式会社パソナに新卒で入社し、震災後に休職して釜石市の復興支援に関わり、復興が進む中で、同社内に設立された「東北未来戦略ファンド」に事業プランを応募し、当社を立ち上げた。</li> <li>「地域での豊かな生き方・働き方を作る」をコンセプトに、研修ツーリズム等による都市と地域の接点づくりと、地域内のキャリア形成や副業・兼業人材とのマッチング事業を軸に取り組んできた。</li> <li>2016年には移住者が地域での事業創出を進める「ローカルベンチャー育成事業」に取り組み、地域の余白を可視化し、移住者がそれを解決するために挑戦する仕組みを地域おこし協力隊制度により実現した。</li> <li>2018年・2020年と岩手県の事業を通じて関係人口の創出・拡大に取り組んできたほか、2020年には釜石市の多様な生き方に触れる「LIFE QUEST」(オンライン配信)の提供や、地元企業および株式会社日本能率協会マネジメントセンターと連携したワーケーションプログラムの開発にも取り組み、首都圏と釜石市との繋がりを深めることで、市内の抱い手確保・拡大を目指している。</li> <li>2021年には、市より事業委託したこととくらしサポートセンター「ジョブカフェかまいし」を開所・運営している。</li> </ul>		
<p>【会社概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称：株式会社パソナ東北創生</li> <li>代表者：戸塚 絵梨子</li> <li>設立：2015年</li> <li>所在地：岩手県釜石市甲子町5-72-2</li> <li>事業内容           <ul style="list-style-type: none"> <li>人材開発研修ツーリズム事業</li> <li>事業開発支援事業</li> <li>人材マッチング事業</li> </ul> </li> </ul> <p>出所：当社HPおよびFacebookページ等より作成</p>		

図表 26：NPO 法人かづのclassy  
元移住コンシェルジュ中心に地域内外を繋ぐ

NPO法人かづのclassy『鹿角家』 「関係人口を家族として見立てる繋がりづくり」	関係人口	秋田県
<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿角市では、2015年から地域おこし協力隊制度を活用した移住コンシェルジュを通して、移住相談のプログラムを運営している中で、移住は難しいが鹿角市が好きな方から継続的に当市に関わりたいとの声が多く寄せられたことから、関係人口「鹿角家」として、鹿角市に関わる関係人口のコミュニティを創出した。</li> <li>当法人は、元移住コンシェルジュを中心に、先輩移住者・地域の市民団体で設立されており、市と連携した移住定住サポートや関係人口「鹿角家」の運営などに取り組んでいる。</li> <li>地域課題を「かわりしろ」として可視化し、地域と交流することを通じて、移住ではない新たな関わり方を持つ関係人口と接点を創出している。</li> <li>また、鹿角家では、家族証の交付、交流イベント「家族会議」、メールマガジン「家族通信」等により、関係人口の機運醸成に努めるほか、古民家を活用した交流拠点「kemakema」を家内所とし、現地での地域と関係人口とのマッチングを行っている。</li> <li>なお、「鹿角家」には、現在200人を超える登録があり、首都圏と地域を繋ぐ接点となっている。</li> </ul>		
<p>【会社概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称：NPO法人かづのclassy</li> <li>代表者：木村 芳美</li> <li>設立：2016年</li> <li>所在地：秋田県鹿角市十和田毛馬内 下小路51-8kemakema内</li> <li>事業内容           <ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民と移住者の交流促進</li> <li>移住相談・サポート</li> <li>地域と関係人口のマッチング</li> </ul> </li> </ul> <p>出所：自治体HPおよび鹿角家HP等より作成</p>		

### 3. 関係人口創出の段階

関係人口の議論では、関係人口となっていく段階について言及されることがあることから、東日本大震災からの震災復興における関係人口創出の段階を振り返ることで、その創出段階について取りまとめる。

#### (1) 感情や感性の土台

東日本大震災においては、居住地に限らず、その災害に対しての認知はあったが、支援する・関わる人とそうでない人に分かれていた。この中には、感性の土台として、思いやりの心といった、感情や感性の部分がその差異に含まれていることが考えられる。

特に、震災後の津波や原発事故の映像や、夜中に燃え上がる気仙沼市の海の映像等を眺めて心を痛め、関係性がないにも関わらず、海外から多額の寄付や人的・物的支援が行われた。この心を痛める、誰かはわからない人のことを想って涙を流すような、感情や感性の土台が存在し、そこから生まれた行動は多く存在していたと言える。

#### (2) 認知

東日本大震災のことを知らない人はいないが、この認知にはいくつかの細かな段階があるように感じられる。

##### ① 体験

既に10年が経過しており、そもそも体験していない人も存在する。どこでどのような形で東日本大震災を体験したか、その認知に影響を及ぼしている。

被災地域内では、震災後にどのような場で被災・避難し、時を過ごしてきたかなどによって、その感じ方は異なる。

また、首都圏等では地震による被害の後、迫りくる津波の被害をテレビで目の当たりにした人が多数存在したと考えられる。

## ②知人の有無

地縁・人縁により、被災地等に知っている人・思う人がいたかどうかはその認知や感じ方に大きな影響を及ぼしていると考えられる。直後の被害もそうだが、その後の被害状況や復興に向けた状況等については、より詳しいものを知人等からの情報で得られた中で、関わりや行動を行うケースも多く存在した。

### (3) 関わり代

例えば、ボランティアに向かう場合や物資を送る場合にも、何に困っているのか、何を手伝ってほしいのか、それらが可視化されることで、具体的な行動を取りやすくなる。

一方で、これは受け入れ側での対応が必要な事項であり、どのように繋がってほしいのか、関わってほしいのかを可視化して情報発信を行う必要がある。これは災害復旧期から復興創生期に変わるとその内容は変化するため、改めてその内容を見極め、関わってほしいポイントを伝えていく必要がある。

また、これらは関係人口が地域に訪問した後に、様々な形で感じられ、議論されるものであるほど、関係人口側が具体的に関わりたいポイントやプランを想起しやすくなることから、全て可視化して発信するだけではなく、地域内で感じてもらえるきっかけづくりにも取り組む必要がある。この際、具体的に関わる相手と繋がることで、「ご縁」が創出されることが最も効果があると考えられる。

### (4) 行動・協働

簡単なことからでも何かを行動に起こすことで、関わるというハードルを超えることが考えられる。これは災害後の寄付や物資支援からはじまり、被災地域への訪問やボランティアでの協力、復興創生期では、被災地の企業・団体等が主催するイベントへの参加や運営ボランティアとしての簡易的な協力から始まり、ふるさと納税の寄付やクラウドファンディングへの参加等の資金面での協力や、より具体的なチャレンジを地域内外から応援することに繋がっていく。これらを積み重ねる中で、地域内外の企業・人との関係性が積み重ねられ、相互に縁が繋がっていくことが考えられる。

### (5) 関係性の継続

その後、移住するケース・しないケース、移住後に何らかの理由で離れるケース、異動・出向等で任期を終えて離れるケース等、地域との様々な距離感が形成されるが、その中でどのような形であれ、相互に関わり続けることが重要となる。

例えば、陸前高田市とプロサッカーチームの川崎フロンターレでは、1年に1回陸前高田市の事業者等が出店してサポーターと被災地の企業や人が関わるイベントを長年続けている。お互いは心で繋がり、コロナ禍で直接開催できない場合でも、オンラインで開催し、地

域が離れながらも同じ銘柄の酒を飲み交わすような場が創出されている。

行政や国の目線では、移住をゴールにしがちだが、「ご縁」で繋がり、地域内外の人や企業が心で繋がるケースがどれだけあるか、それがどのようなインパクトをもたらしたのか、これが関係人口としての実際に計測すべきものとなるのではないか。物理的な住民票は1地域に限定されるが、心の住民票は何地域にでも提出できるようなことが、関係人口という概念を本質的に形成していると考えられる。

#### 4. 関係人口創出の効果

定住人口ではない方との「ご縁」により、どのような波及効果が生まれているか、本調査では精緻な数値の算定は不可能であるが、個別の事例からどのような社会的な効果が生まれているかを分析することで、関係人口創出の効果について考える。

##### (1) 復興・創生インターンの取組（岩手県・宮城県・福島県）

本事業は、復興庁「伴走型人材確保・育成支援モデル事業」によって、2017年度から2020年度までの4年度に亘って実施され、学生と地域企業を繋ぐ事業を通じて、延べ450社を超える参加企業、延べ1,200人を超える学生の参加があった。

##### ①事業の概要

本事業では、被災3県（岩手県・宮城県・福島県）において、地域コーディネート機関（以下「地域CDN機関」という。）を選定、地域CDN機関は地域に根差して復興支援・地域支援に関わるNPO等の団体であり、活動の中で地域企業・団体との関係性を構築する中、自社・団体のビジョンや課題の共有を通じて、学生が参加して挑戦できるテーマの魅せる化に取り組み、約1～2か月で経営者と協働して「課題解決」に取り組む実践型インターンシッププログラムを構築した。

学生は、全国の大学院生、大学生、短期大学生、高等専門学校4年生以上の方を対象とし、事業説明会の後、東北地域全体をコーディネートする団体により、学生が希望するチャレンジに合った個別地域のプログラムを行い、各種プログラムの参加に向けた調整を行う。

インターンシップの開始後は、地域CDN機関が地域企業・団体と学生をフォローしながら、最終報告会において学生から活動報告を発表する場をつくっている。

##### ②投入資源・関係者

###### 【資金】（単位：百万円（M））

復興庁予算：2017年度：310M、2018年度322M、2019年度301M、2020年度300M

###### 【関係者】

###### ・株式会社パソナ

復興庁から事業を受託し、全体事業を統括し、情報発信や調整を実施する。

###### ・地域CDN機関

各地域においてプログラム設計、学生の受入調整、プログラムの実施に関する学生・企業双方への伴走型サポート等を実施する。

### ③アウトプット

4か年において延べ450社以上の受入企業、延べ1,200人以上の学生が参加した。

### ④アウトカム

#### ・受入企業への効果

地域CDN機関とインターンシッププログラムを開発することで、自社のビジョンや課題を明確にし、学生の受入に限らず、求人等を受け入れるための情報整理や魅せる化について取り組むことができた。本事業に取り組む企業は、兼業・副業等のプログラムや、移住者の受入にも積極的に取り組んでおり、地域の中で拓く姿勢を整える意味でも、本事業は重要であることが考えられる。

#### ・受入学生への効果

全国の学生を対象とすることで、被災地域等に対して貢献意識のある学生や、企業の現場に入って実践的に力を試してみたい学生が関わる機会を創出した。本事業がなければ、地域の経営層と協働する機会を得ることは難しく、首都圏におけるインターンシップと比べても、より経営者に近い距離感で、地域企業の経営を感じることができたことが考えられる。

また、同地域や隣接地域、同一都道府県等の地域内の学生同士で繋がることより、自身が体験できなかった会社の取組や地域の情報について共有することができ、地域の実態や良いところを肌で感じることに繋がった。参加学生の多くは、本来縁がない地域が第2・第3の故郷のように感じられるようになり、その後も地域に関わる学生や、プログラムを通じて就職業界やキャリアプランを見直す学生も存在した。

#### ・地域CDN機関への効果

地域CDN機関は、本来復興支援や地域支援に関わるNPOが多く、地域の企業や経営者との関係性はあったが、企業の採用や経営に直接的に関わる機会があまりない中で、本事業を通じて、より具体的な経営ビジョンや課題に触れ、学生の参加を通じて、地域CDN機関自身も対象企業・団体への課題解決に関わることができた。これにより、インターンシッププログラムだけでなく、恒常的に対象企業・団体の課題解決に関する提案を行うことが可能となり、地域企業・団体との関わりの段階が数段も上がったと考えられる。

これは震災後自立化が求められるNPO等の団体において、民間企業・団体の課題解決を通じた商取引による新たな資金の流れに繋がる可能性が高いことから、その入り口や仕組みの構築について大きな効果に繋がったと見られる。

#### ・行政への効果

東北地域では、若者世代の人口流出が多い中、東北地域外の学生が地域に関わる機会を通じて、それら学生の生の声やニーズを知ることができたほか、移住の有無に限らず、学生自身が地域に繋がることで、その学生を通じて新たに該当地域を知る若者の創出に繋がることから、参加学生だけでない認知度向上効果が生まれたと考えられる。

また、本事業に参加する学生は、1～2か月を費やして挑戦する自立性や活動性の高い学生であり、その学生が今後構築する人的ネットワークは、より自立性・活動性の高いものと

なる。このため、その学生が地域に繋がりに続けることにより、地域や地域企業等が困ったときには、地域外から様々なテーマや人が関わる土台ができるようになると考えられるため、学生のうちに「ご縁」が繋がることは、将来の地域に対する投資としては効果が高いものと考えられる。

図表 27：一般社団法人ワカツク  
実践型インターンシップの魁的存在

**一般社団法人ワカツク**  
「課題解決型人材の育成と若者が挑戦できる環境づくりへ」

- 当団体は、学生時代から宮城県の大学生の就活やインターンシップのコーディネートに取り組んできた代表の渡辺一馬氏が設立し、震災後に複雑な課題が増えることが予想される中、課題解決型の人材を育成するため、若者と被災地をインターンシップやボランティアで繋げ、若者・地域・企業が成長していく仕組みづくりに取り組んできた。
- 2017年からは復興庁と連携し、被災・沿岸地域を中心に、約1か月に亘る実践型インターンシップを開催している。延べ1,200人を超える学生が被災企業の課題解決に挑戦し、企業や地域を理解し、行動していく取組を進めている。同事業では、地域側にも企業と若者を繋ぐコーディネーターが存在し、新たな人材マッチング事業の流れが創出されている点が特徴である。
- その他、社会貢献を行う若者を表彰する「仙台若者アワード」やコロナ禍で生活に苦しむ学生向けの食糧支援など、学生団体等に寄り添う活動も行っている。

【団体概要】  
 ・名称：一般社団法人ワカツク  
 ・代表者：渡辺 一馬  
 ・設立：2011年  
 ・所在地：宮城県仙台市青葉区北目町4-7HSビル内  
 ・事業内容  
 ◆若者の育成を目的としたインターンシップ等、若者と地域をつなぐコーディネート  
 ◆地域社会の課題解決を目指した若者主体のプロジェクトの支援  
 ◆地域社会の課題解決のための産業・行政・大学・市民の連携の促進

ワカツクの事業  
 復興・創生インターンの流れ  
 実践型インターンシップ  
 社会貢献活動  
 出所：当団体HP等より作成

図表 28：NPO 法人 wiz  
岩手県の復興・創生インターンを多く支える

**NPO法人wiz**  
「若手のチャレンジを応援するコーディネーターへ」

- 同法人は、東日本大震災をきっかけに岩手に戻ってきた若者を中心に2014年に設立され、「アクションすること」を、若手のスタンダードに込めミッションとして、若手で自己実現を目指してチャレンジする若者に対し、若者主体の新たな出会い、ネットワークの創出、コーディネートによって、岩手に関わる選択肢を提供している。
- 複数の自治体から地域おこし協力隊の募集等のコーディネートや、岩手県出身の学生等と県内事業者を結び「実践型インターンシップ」の運営、岩手県内のチャレンジを応援するクラウドファンディングサイト「いしわり」に取り組み、2020年には岩手県内の創業者人材マッチングプラットフォームの「RE-SIDE」をスタートした。
- 2020年度の実践型インターンシップは、コロナウイルスの影響でオンライン開催となったが、同じ県内のNPO法人みやこベースとともに、多くの学生・企業とのマッチングのコーディネートに取り組んでいる。

【会社概要】  
 ・名称：NPO法人wiz  
 ・代表者：中野 圭  
 ・設立：2014年  
 ・所在地：岩手県大船渡市三陸町越喜来宇明神道24-2  
 ・事業内容  
 ◆実践型インターンシップのコーディネート  
 ◆クラウドファンディング「いしわり」の運営  
 ◆岩手県内のU-ターン促進事業

出所：当法人HP等より作成

(2) 地域教育への取組

地域によって濃淡はあるが、復興支援や地域支援に関わる企業・団体や、地域おこし協力隊等により、地域の学生のキャリア教育等の取組が進められている。本項では2事例を抽出し、その概要や想定される効果について取りまとめる。

①Kamaishi コンパス (岩手県釜石市)

岩手県釜石市では、「釜石コンパス」という高校生のキャリア構築支援事業を通じて、2020年8月現在で2015年から34回、延べ704人の社会人講師が、延べ4,308人の学生に関わっている。学生が社会人講師との対話を通じて、多様な価値観を醸成し、進路や将来のきっかけを提供している。通常、学生が地域内で働く社会人と触れ合う機会は少なく、釜石コンパスをきっかけに、学生側が地域で繋がる年齢層が広がることや、地域の見方を広げる大きな効果に繋がっている。また、社会人講師の約半分は、地域外の社会人講師となり、都市部の企業や地域から見た釜石の姿や素晴らしさについても話をすることで、「ここには何も無い」と思っていた学生が、都市部から見た中での視点を知ることで新たな可能性に気づくことや、一度都市に出ながらも何か地域に貢献したいと思う社会人講師の姿を知ることで、地域に出ても関わる選択肢もあると気づくことは、地域にとっても大きな効果と言える。

②探究学習支援事業 (宮城県気仙沼市)

宮城県気仙沼市では、復興支援のボランティアに取り組んだ者を中心に、一般社団法人まるオフィスが設立され、地域教育事業「じもとまるまるゼミ」では、漁師体験からプロジェクト型学習まで、中高生のアクションを応援する様々なゼミを開いている。

また、地域の様々な住民・企業との関わりを通じて、高校生が取り組む「マイプロジェクト」を考える『気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード』を市内の団体や市役所および教

育委員会と連携して開催する等、学生と向き合い、やりたいことを共に探求する伴走支援を続けている。

2020年度からは気仙沼市教育委員会との協働により、市内小中学校に対し、探求学習コーディネーターとして学生の総合的な学びをサポートする事業を開始し、教育委員会や参加小中学校とともにプログラムを設計し、多様な学びの機会を提供している。

漁師体験等、地元では「当たり前」に見えるものをプログラム化し、地域の産業や仕事に触れ合う機会をつくることは、地域外からの視点が必要であり、地域外から関わる移住者や関係人口だからこそできる活動や伝え方があると言える。

また、当団体が長年地域教育に取り組むことで、地域の教育委員会との協働に繋がり、地元と移住者が混ざり合い、新たな学びのカタチを考える場ができることにより、その学びを体験した学生が、地域への関わり方や自身の生き方を考え、地域外に進学・就職することで、まさに新世代としての新たな出身地との関係性のカタチが具体化されていくことが見込まれる。

図表 29：釜石市役所オープンシティ推進室  
関係人口を町の中心に据え様々な取組を推進

**釜石市役所オープンシティ推進室**  
「復興プロセスで得た最大の資産「つながり」を活かすまちづくり」

- 東日本大震災後、釜石市の職員となった石井重成氏は、泥染い仕事からまちの計画策定まで様々な仕事に取り組み、2015年にはオープンシティ戦略を立案し、実践機関となるオープンシティ推進室を立ち上げた。同戦略では、復興を通じて得た最大の価値をつながりと定義し、関係人口をまちづくりに活かす、まちづくりで生まれた多くの取組を次の関係人口の創出に繋げていく仕組みの構築に取り組んでいる。
- 関係人口を創出するには、地元の「受け入れ側」をしっかりと可視化していくことが重要であり、その関係性を構築できるような場作りに取り組んできた。
- この中で、地域コミュニティ支援×関係人口の「釜援隊」、学生×地元×関係人口のKAMAISHIコンパス、地域の余白・繋がる余地を明示した起業型の地域おこし協力隊「LOCAL VENTURE COMMUNITY」など、様々な協働・共創を通じた攻めのまちづくりの取組を行政側から仕掛けている。

【団体概要】  
・名称：釜石市役所オープンシティ推進室  
・室長：石井重成  
・設立：2015年  
・所在地：岩手県釜石市只越町3-9-13

【業務内容】  
◆オープンシティ戦略（まち・ひと・しごと創生）、少子化対策、総合戦略の推進

出所：釜石市HP・オープンシティ釜石HP等より作成

図表 30：一般社団法人まるオフィス  
認定NPO法人底上げ  
学生の主体性を伴走しながらサポート

**一般社団法人まるオフィス・認定NPO法人底上げ**  
「学生×移住者×地元が織り成すワクワクする地元づくり」

- 両団体は、東日本大震災後のボランティアから地域に根付き、次世代を担う小中学生に対し、地域に根差した活動を通じて、多様な学びの機会の提供や、子供たちが考える新しい地域・社会に向けて、自身が取り組む行動を描く支援を行っている。
- 一般社団法人まるオフィスでは、2016年から地域住民・事業者と学生を繋ぐ「じもとまるゼミ」を開始し、地域の産業・文化に触れる活動を展開している。また、認定NPO法人底上げでは、高校生が集まる場作りを行っており、主体的に向かいたいという学生の想いを形にするサポートを展開している。
- 両団体が気仙沼市と協働して2017年より開催している「気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード」は、学生が地域の資源に目を向けながら、主体的な想いを形にする取組であり、継続的な伴走を行って来ている。
- 2020年からは、市の教育委員会と連携し、「探求学習支援事業」の探求学習コーディネーターとして、複数の市立小中学校のカリキュラムの構築・提供に関わっている。

【コーディネーター概要】  
①加藤 拓馬  
・所属：一般社団法人まるオフィス代表  
・団体設立：2015年  
・団体所在地：宮城県気仙沼市唐桑町宿浦232-2  
・団体活動内容  
◆教育・学習支援、移住定住支援センター運営等  
②成宮 崇史  
・所属：認定NPO法人底上げ理事・事務局長  
・団体設立：2012年  
・団体所在地：宮城県気仙沼市吉町2-7-117  
・団体活動内容  
◆学生支援・育成、気仙沼の教育魅力化事業等

出所：両団体HP等より作成

### 第3章 「東北の新たな価値」創造に向けたワーキンググループ設立・運営

本章では、事例調査と並行して、関係人口の創出および地域のブランド化について、東北地域で活動する者を委員として、東北の新しい価値の創出や未来を描くワーキンググループ（以下「WG」という。）を進めてきた内容を取りまとめる。

#### 1. 関係人口創出に関するWG

##### (1) WGの概要

当WGでは、この10年における関係人口の創出の状況および復興創生期間後における関係人口創出に向けた取組について議論するため、関係人口に関して知見を持つ6名の委員を委嘱の上、議事非公開による様々な議論が行われた。

##### (2) 委員一覧（五十音順）

No.	氏名	役職等
1	石井重成	釜石市役所オープンシティ推進室 室長
2	指出一正	株式会社 sotokoto online 代表取締役
3	田中麻衣子	株式会社キャリアクリエイト
4	藤沢烈	一般社団法人RCF 代表理事
5	米田大吉	NPO法人プラットフォームあおもり 理事長
6	渡辺一馬	一般社団法人ワカツク 代表理事

##### (3) WGでの議論の概要

議論の中では、関係人口を創出するためには繋ぎ手となるコーディネーターが必要であることや、受入地域がどういった形で関わってもらいたいかを明確にし、関係人口が関われると思える「関わり代」をつくること、具体的に関わってもらいたい企業・団体の関わり代の可視化等が重要であることが議論された。

また、関係人口という言葉そのものが政策的な言葉として捉えられる中、地域CDN機関やコーディネーターを可視化し、国や行政等に対して周知を図ることや、コーディネーターの総合的なキャリアパス等の検討、東日本大震災後10年で関わってもらった方への改めての東北の関わり代の可視化について、次の10年に必要な事項であることが議論された。

主な議事テーマ	議論の内容
コーディネーターとは何か	関係人口を創出する際のキーパーソンとなるコーディネーターの定義・求められる役割・今後のキャリアパス等
被関係人口のあり方	関わられる側である受入地域のあり方や求められる役割等
関係人口に関する施策	次の10年に向けて必要な関係人口に関する施策等

#### 2. 地域ブランド化に関するWG

##### (1) WGの概要

当WGでは、この10年における地域資源の活用や地域ブランド化の状況および復興創生期間後における地域ブランド化に向けた取組について議論するため、地域資源活用および

ブランド化に関して知見を持つ5名の委員を委嘱の上、議事非公開による様々な議論が行われた。

(2) 委員一覧 (五十音順)

No.	氏名	役職等
1	大沼正寛	東北工業大学大学院ライフデザイン学研究科デザイン工学専攻長・教授
2	加勇田亮二	株式会社東北博報堂 MD戦略センター クリエイティブディレクター 東北6県研究所所長
3	高橋大就	一般社団法人東の食の会 事務局代表
4	田山貴紘	タヤマスタジオ株式会社 代表取締役
5	千葉大貴	有限会社マイティー千葉重 代表取締役

(3) WGでの議論の概要

議論の中では、東北地域全体において、求められる価値観や企業・消費者行動の変化のほか、この10年で成長してきた食や伝統工芸等の技に関する事業者の取組事例やそれらの協働等の地域内外の拡がりについて確認した。

この中で、10年後ではなく、100年後を見据えた持続的な成長を図るために考えるべき東北のビジョンや考え方、成長観について議論を行うとともに、担い手や次世代のリーダーが成長していく仕組みや、その成長の土壌を育む伝統・文化・資源・風土等の維持・向上に取り組む支え手が育つ仕組みについて、今後も議論が必要なことを確認した。

また100年後の東北を形成する成長観を実現するためには、現状の目標・KPIの仕組みや、投融资の判断基準等では難しく、それらを新たにするための考え方について、今後官民連携の上検討する必要性について確認した。

主な議事テーマ	議論の内容
ブランド化の方向性	東日本大震災や Covid-19 による社会構造の変化と次の10年で目指すべき東北のあり方・ビジョン等
人材育成・受け皿	東北地域の未来を切り拓く人材育成と多様な価値観を持つ住民が育つ風土づくり等
リーダー人材のコミュニティ形成・横展開・持続可能性	東北各地のリーダー人材がつながり東北内外に持続可能な社会・価値提供が拡がる仕組み等

## 第4章 「東北の新たな価値」創造に向けたイベント開催

本章では、関係人口WGおよび地域ブランド化WGを通じて、各テーマに必要な内容を踏まえたイベントを企画・開催したことから、その内容を取りまとめる。

### 1. 東北コーディネーター・フォーラムの開催

#### (1) 開催概要

当イベントでは、東北地域で活動する地域CDN機関およびコーディネーターへのこれまでの活動への感謝を伝え、東北地域全体でそれらが連携を創出し、互いの取組の現状を語り合うことで、新たな「ご縁」の創出を図るものとして開催した。

#### (2) 開催内容

- ・オープニングトーク：(株)sotokoto online 代表取締役 指出 一正氏

国内および東北地域における関係人口の動きや、指出氏自身が東北に関わるきっかけやその良さについて、感じていることをオープニングトークとして講演した。

- ・クロストーク

地域内外のコーディネーターとして活動する6名により、関係人口創出についてのコーディネーターの重要性や、今後コーディネーターに求められる役割等についてクロストークを行った。

- ・交流セッション

イベントに参加したコーディネーターを6つのブレイクアウトルームにて、相互に取組みを紹介しながら、取り組む中での課題点等について共有を図った。

#### (3) 振り返り・意見等

当イベントの目的であった、地域CDN機関やコーディネーター同士での交流や「ご縁」の創出に効果があり、コーディネーターの満足度が高かった。一方で、行政等コーディネーター以外の参加者については、聴講および見学という立ち位置ではあったが、関係人口という言葉に興味があり、参加した者も多く、関係人口やコーディネーターという存在に知識がない者については、情報提供不足の点もあったと考えられる。

このため、コーディネーターのネットワーク化やその深掘りについては、よりクローズドな場での継続を進め、行政や支援機関等の関係者向けには今後入門セミナー等、よりニーズに即した情報提供が必要となると考えられる。

### 2. TOHOKU リブランディング会議

#### (1) 開催概要

当イベントでは、東北地域において地域資源の活用に取り組む事業者の取組説明のほか、東北地域内の生産者等をサポートする3者のクロストークにより、東北地域が今後求めていくべき価値観について、様々な事例を通じて学びを得ることを目的に開催した。

#### (2) 開催内容

- ・取組事例紹介①有限会社マイティー千葉重 代表取締役 千葉 大貴氏

当社が震災後に取り組んできたキリン絆プロジェクトの取り組みや、秋保地域における「アキウ舎」の取り組み、今後取り組む予定の東北絆テーブルについての紹介を行った。

- ・取組事例②タヤマスタジオ株式会社 代表取締役 田山 貴紘氏

当社代表がU I ターン後に行ってきた、南部鉄瓶のブランド化およびモノからコト化としての「kanakeno」の取り組みや、伝統工芸×職人×社会が交わって新たな価値を創出していく取組み、今後の伝統工芸や職人のあり方や方向性について紹介を行った。

- ・クロストーク

東北地域の生産者に近い立場におり、ブランド化の支援等を行う3者でのクロストークを行いながら、取組紹介を行った2者も交えた5者において、東日本大震災後の東北地域で生まれてきた価値や、今後東北地域が目指すべきアフターコロナでの価値観などについて議論を行った。

### (3) 振り返り・意見等

本イベントでは、取組紹介およびクロストーク内での登壇者の取組紹介が全体の大半を占め、情報提供型のイベントではあったが、その情報を通じて、東北で培われた新たな取組の芽や大事にしていきたい価値観の共有化につながっていたと考えられる。

特に、取組事例の紹介を行った2社から、特に真似できない事例でもないが、地域の中でまず取り組んでいくことの大事さについての言及があったが、地域経済・社会において、少しずつ新たな取組や試行錯誤を行っていくことの応援に繋がったと考えられる。

図表 31 : 東北コーディネーター・フォーラム  
東北地域のコーディネーターを繋ぐ場の形成

令和2年度復興・創生期間後に向けた東北のブランド価値向上及び関係人口創出に関する調査事業

**NEXT TOHOKU Meetup**

**東北コーディネーター・フォーラム**  
～東北との「関わり」を愛する仲間たちの集い～

令和3年3月1日(月) 14:00~16:00  
at Microsoft Teams

東北の復興や地域活性化を支えてきたのは、各地域で奮闘してきたコーディネーターであり、関係人口が目指されるこれからの地方創生でも大きな役割を果たします。そうした東北各地のコーディネーターが一盤に会し、それぞれの取組と今後の展望を共有し、今後に向けて連携するためのフォーラムを開催します。

**オープニングトーク**  
株式会社 solokoto online 代表取締役 指出 一正 氏

**クロストーク**  
石井 重成 氏(金沢市役所) 山中 謙次 氏(ヤマダ電気 lab)  
指出 一正 氏(株式会社 solokoto online) 藤沢 剛 氏(一般社団法人 RCF)  
米田 大吾 氏(NPO法人プラットフォームあおもり) 渡辺 一馬 氏(一般社団法人ワカツク)

東北経済産業局のポスト復興創生に向けた関係人口創出に関するWGの委員により、東北内外の協賛により、関係人口とコーディネーターの繋がり、フォーラム開催の背景など、コーディネーター同士の場だからこそ伝えることを全体で共有します。

**情報共有セッション**  
コーディネーターの皆様のグループセッション  
東北各地のコーディネーターの取組を相互に交流できるセッションを行います。それぞれの取組や問題意識などを、少人数のグループに分けて相互に共有した後に、グループごとの内容について全体で共有します。

申込・問い合わせ: <https://questant.jp/q/FRH82CGF>  
主催: 東北経済産業局(事業受託者: 信金中央金庫)

図表 32 : TOHOKU リブランディング会議  
この10年で生まれた東北の価値を再確認

東北が持つ新たな価値の可能性  
**TOHOKUリブランディング会議**

定員100名  
参加無料

**2021年3月18日(木)**  
**13:30~15:15**  
オンライン(Microsoft Teams)開催

今こそ、東北のサステイナブルな価値を考えよう

東北が誇る地域資源を活用した新たな取組により、地域レベルでのブランド価値向上に繋げている好事例をご紹介し、それらの取組を通じて培われた「東北の新たな価値」の可能性について考えるキックオフイベントです。  
ニュー・ノーマル時代やその先にある持続可能な地域・人・モノづくりや、それらを可能とする好循環な仕組みづくりについて参加者の皆さんと一緒に考えます。

**第1部 取組紹介**

有限会社マイディー千葉重  
代表取締役 **千葉 大貴 氏**

次世代につなげる  
共有・共感・参加型の  
地域づくり

タヤマスタジオ株式会社  
代表取締役 **田山 貴紘 氏**

ないではなく、  
あるという視点でみた  
南部鉄瓶の  
ブランディング

**第2部 クロストーク**

東北工業大学大学院  
ライフデザイン学術研究所  
デザイン工学専攻長・教授  
**大沼 正寛 氏**

株式会社東北博覧会  
MID戦略センター  
クリエイティブディレクター  
東北6県研究所所長  
**加勇田 亮二 氏**

一般社団法人東の食の会  
事務局代表  
**高橋 大就 氏**

申込・お問合せ先  
3/17(水) 締切  
事務局委託先 信金中央金庫  
<https://questant.jp/q/60X9113E>  
申込みはコチラから

開催前日までに、参加URLを事務局よりご連絡いたします。

## 第5章 ポスト復興創生に向けた総括

### 1. 関係人口創出に向けた諸課題と方向性

#### (1) コーディネーターの可視化・確保・育成・自立化の仕組み構築

震災復興期を経て、地域内外の人や企業等を繋ぐコーディネーターは、社会的な分野だけでなく、産業面での課題解決を含め、地域の課題を資源とした新たな価値を生み出す者として、その活動の場を拓けているが、その具体的なリストや概要がまとめられていないため、早急に可視化の上、国や行政等との情報共有を進め、地域に人や想いの流れをつくる繋ぎ手としての認知を広めていく必要がある。

また、コーディネーターおよび地域CDN機関を含めて、関係案内人・関係案内所といった繋ぎ手の表現が進められていることから、地域に関わりたい層やそれらの裾野を広げるために、関係案内人・関係案内所としての情報発信やイベント等についても並行的に行っていくことが重要である。

一方で、コーディネーターは、東北地域すべてに充足しているわけではなく、その育成や確保のほか、地域CDN機関の自立化に向けた仕組みについて、今後検討を進める余地があるほか、コーディネーターという職業や役割について、そのキャリアパスも含めた制度設計についても、今後総合的な議論やノウハウの共有を進める必要がある。

加えて、東北地域内でのコーディネーター同士の交流を進め、現在地域で取り組むコーディネーターが相互に繋がり、共に自地域で活動する際の知識・ノウハウの共有や、自地域での課題解決スキームの他地域での活用・輸出等、互いのリソースを共有し合うことによる課題解決の更なる推進や、受発注の共有化による新たな財源確保等の検討を進めることが考えられる。

#### (2) 東日本大震災以後創出された関係人口の更なる利活用

震災復興期により蓄積された東北地域の関係人口について、改めてポスト復興創生期における「関わり代」を可視化し、情報発信を進めることにより、新たな関わり方を提示していくほか、観光や移住とは違った新たな関わり方としての仕組みについて、副業・兼業やプロボノといった仕組みでの新たな関わり方の提案や、各地域での取組をより地域内外に発信する取組を検討する必要がある。

これらは国内だけに捉われず、国外との関わりを得られるようなスキームについても検討し、ローカルでありグローバルな地域としての東北地域を目指し、情報発信を行っていくことが重要である。

### 2. 地域資源活用および地域ブランド化に向けた諸課題と方向性

#### (1) 東北における次の100年を表す価値観・仕組みの構築および情報発信

東日本大震災後、様々な感性や挑戦が個別の企業や人に生まれ、災害を乗り越える中で、関係人口を含めた様々な検討や協働・共創を通じて、新たな時代を創る、前向きで楽しい商品・サービスづくりが行われてきた。

これは、東北地域だからこそ得られた資源であり強みであると言えることから、このような流れが創出された背景や文化を継承し、今後も同様の挑戦が生まれていくよう、東北地域をより持続的かつ魅力的に表現する、次の100年に向けた価値観や考え方をデザインし、伝わりやすい形で発信していく必要がある。

一方で、これらの価値観や取組を加速させるためには、現在の行政予算の設計、目標管理・設定、会計スキームや投融資スキームについて、SDGs等から派生した社会的な価値を見据えた経営活動（CSV等）を後押しする環境整備や仕組みづくりが必要である。

これらについては、様々な試行錯誤や指標等の仮置きが必要となることから、東北全体または個別地域での実証等、あらゆる形で次世代の東北づくりに関わる社会的な試行錯誤をオープンイノベーションにより進めていくことが重要である。

### （2）地域に根差し新たな価値を生み続ける人づくりの検討

上記（1）に加えて、その価値観を理解し、新たな取組を進める担い手の確保・育成が重要であることから、それらが育つ仕組みを東北地域全体で検討する必要がある。

これは、幼少期から学生までの地域教育から、実践型インターンシップ等の社会との関わりや対話を通じた自身を深める仕組みづくりを含めて、どのような環境下でも自立して活動でき、居住地域を問わず、東北地域に誇れる人財となっていけるような基盤づくりについて議論する必要がある。

また、全世代において、東北で紡がれてきた伝統・文化・風土や、東日本大震災等の社会的な変化等の様々な体験を継承し、自己対話を進め、立場や大小を問わず次のリーダーになれる人づくりを持続的に行うことや、何歳からでも挑戦し、地域を超えて助け合う仕組みにより、人生を通じて挑戦し続ける東北地域であることを目指すことが重要である。

## 3. おわりに

本調査では、事例調査やワーキンググループの運営等を通じて、様々な地域で生まれた新しい取組や考え方に触れてきたが、それは目新しいものではなく、本質的かつ伝統的な考え方に基づく新しい取組であることが多かった。これは東北地域に受け継がれるものであり、東北地域ならではの「トキ」がもたらした素晴らしい資源である。

これらが次世代にも紡がれ、その中で生まれた感性を用いた新たな表現が、次の社会や経済を切り拓くものになるであろう。

その際には、出る杭として打たれることはあるが突き抜けていき、一方であたたかく見守られていく、オープンで強靱な社会基盤が整備され、すべての立場の挑戦が後押しされることで世界一の挑戦地域であるTOHOKUを目指し、本調査がその創生の一助となれば幸いである。

令和2年度復興・創生期間後に向けた東北の  
ブランド価値向上及び関係人口創出に関する調査

地域資源および関係人口に関する事例調査  
取りまとめ資料

令和3年3月

経済産業省 東北経済産業局

(委託先：信金中央金庫)

## 目次

1. 有限会社柏崎青果・協同組合青森県黒にんにく協会「高付加価値化・持続化から世界に羽ばたく『黒にんにく』」
2. 有限会社木村木品製作所「世界で唯一りんごの木を加工した木製品」
3. キーブレイス株式会社「生まれ変わったりんご箱が暮らしを彩る」
4. 株式会社 SANNOWA「官産民が作る地域商社が進める古くて新しい商品づくり」
5. 有限会社イシオカ工芸「現代のライフスタイルにマッチした伝統工芸品の開発」
6. ブナコ株式会社「限界を決めずに地域の資源を多様な形にデザインする」
7. 有限会社二唐刃物鍛造所「津軽打刃物の次世代継承」
8. 株式会社ポケットマルシェ「生産者と消費者のつながりを生む持続可能なプラットフォームの構築」
9. 広田湾遊漁船組合「広田湾海中熟成プロジェクト～体験と特産品による経済活性～」
10. 有限会社三陸とれたて市場「最新の冷凍技術を用いた高鮮度個食パック刺身の生産・販売」
11. 株式会社京屋染物店「地域の染物屋として、地域の文化を紡ぐ」
12. 株式会社遠野醸造・株式会社 BrewGood「ホップの里からビールの里へ～持続可能な農業とまちづくり～」
13. 共和水産株式会社「『イカ王子』の誕生とタラフライを通じた地元食材の発信」
14. 西わらび生産販売ネットワーク・西和賀産業公社「西和賀町のブランド山菜「西わらび」の生産改革・市場拡大」
15. 綾里漁業協同組合青壮年部・綾里六次化プロジェクト「地域×関係人口による漁業の新しい価値の創出」
16. 有限会社トロイカ「北上の味となった『チーズケーキ』を次の世代へ」
17. 株式会社ベアレン醸造所「地域に根差し、地域に愛されるビールをつなぐ」
18. 株式会社幸呼来 Japan「伝統工芸の『裂き織』×障がい者が織りなす唯一無二の価値」
19. KUMIKI PROJECT 株式会社「『D. I. T』から生まれる人と場のひろがり」
20. 有限会社月の輪酒造店「～地元の米と水を使用したこだわりの日本酒づくり～」
21. 株式会社日本ホームスパン「手紡ぎの伝統技法を現代のニーズに」
22. 元正栄北日本水産株式会社「天然を超える養殖あわびを世界に」
23. 株式会社齊吉商店「味と人への想いが紡ぐ地域×食×心の輪」
24. 株式会社インディゴ気仙沼「子育てする女性から始まった幻の染料を使った藍染め工房」
25. 有限会社マイティー千葉重「10年毎に訪れる変化に挑み成長を続ける食のチェンジメーカー」
26. 株式会社カネダイ「気仙沼ブランドとなった幻の蟹『まるずわいがに』」
27. 三陸フィッシュペースト株式会社「蒲鉾屋同士が協業し新しい蒲鉾の可能性と価値を追求」
28. 株式会社デ・リーフデ北上「先進技術・再生可能エネルギーを活用したトマト・パブリカ栽培」
29. 株式会社ワンテーブル「被災の経験を生かした本当に必要とされている備蓄食の開発」
30. 株式会社門間筆筒店「時代を越えて本物の技と伝統美そして生活文化の伝承」
31. 株式会社秋田まるごと加工「北限の秋田ふぐのブランド化を通じた町おこし」
32. あきた白神農業協同組合・農事組合法人轟ネオファーム「園芸メガ団地による白神ねぎの生産」
33. 有限会社柴田慶信商店「時を超え世界中の技術が紡がれた曲げものづくり」
34. 福祿寿酒造株式会社「地域の素材と対話する商品づくりと地域全体を醸し楽しむ場の創出」
35. 秋田おぼこ農業協同組合「大規模トマト団地の整備による米依存経営からの脱却」
36. 大潟村松橋ファーム「食べる人とつくる人の関係を作る農業」
37. ヤマガタデザイン株式会社「地域の魅力をプロデュースし、世界からの目的地となる」
38. 鶴岡シルク株式会社「新たな視点で飛躍する伝統産業 kibiso プロジェクト」
39. 合同会社とびしま「0次産業を大切にした持続可能な未来の島づくり」
40. 有限会社ツルヤ商店「籐を使用した無着色・無塗装のネコに優しいネコハウス」
41. 株式会社日々「真室川町に受け継がれる地域資源の伝承」
42. 株式会社やまがたさくらんぼファーム「6次産業化と観光を組み合わせた農業の取組み」
43. 軽部草履株式会社「足元から支える」
44. オリエンタルカーペット株式会社「足もとからのおもてなし」

45. 株式会社孫の手（郡山観光交通株式会社）「福島から『おいしい革命』を目指す青空レストランフードキャンプ」
46. 一般社団法人BOOT『NIPPONIA 楡山集落』「辺境の集落から未来の暮らしや学びを得られる空間づくり」
47. 株式会社マストロ・ジェッペット「地元木材を活用した玩具の製品開発・販売」
48. 有限会社仁井田本家「日本の田んぼを守る酒蔵へ～自然酒が醸す自然と地域社会～」
49. 東北協同乳業株式会社・東京大学「産学連携による新たな乳酸菌の活用」
50. 信陵建設株式会社「地元果物を活用した商品開発および飯坂温泉の活性化」
51. 株式会社陽と人「福島の未利用資源に光を当て自然でシンプルな豊かさを発信する」
52. 自然食品ばんだい「喜多方産こしひかり米粉を活用したもちり餃子」
53. 有限会社飯田製作所「事業承継（役割分担・伴走）を機会とした成長戦略の実行」
54. 合同会社楽膳「ユニバーサルデザインを用いた新しい伝統工芸」
55. 有限会社まるせい果樹園「GAP認証の取得を社員教育等に活用！震災から復興した果樹園経営」
56. 株式会社富久栄商会「地域資源を活用した自家製ビントゥーパーチョコレートの開発」
57. NPO 法人プラットフォームあおもり『『あおもりらしい』新しい価値につながる仕組みの創出』
58. 一般社団法人かなぎ元気村「地域資源・地域人材を活用したエコツーリズム・ヘルスツーリズムへの挑戦」
59. 株式会社パソナ東北創生「復興支援から生まれる地域×関係人口の混ざり合い」
60. 釜石市役所オープンシティ推進室「復興プロセスで得た最大の資産「つながり」を活かすまちづくり」
61. 西和賀デザインプロジェクト『ユキノチカラ』「豪雪地域における自然の恵みを新たなブランド価値へ」
62. 合同会社巻組「絶望的条件の空き家を地域の創造的拠点に」
63. 一般社団法人まるオフィス・認定NPO法人底上げ「学生×移住者×地元が織り成すワクワクする地元づくり」
64. 一般社団法人ワカツク「課題解決型人材の育成と若者が挑戦できる環境づくりへ」
65. 経営コンサルティング波多野事務所『一番商品づくり塾』「生業をじっくりと考え、創業後も東北内で助け合える場」
66. NPO 法人森は海の恋人『『森と海』が人の心と地域の豊かさを育む』
67. OGA NAMAHA GE ROCK FESTIVAL 実行委員会「野外ロックフェスを通じた男鹿市の活性化」
68. 株式会社銀山荘「大正ロマンのある温泉街」
69. 一般社団法人グロウイングクラウド『co-ba koriyama』「多様なチャレンジャーに愛されるはじまりの場所」
70. 一般社団法人RCF「社会の課題から未来をつくる『社会事業コーディネーター』」
71. 株式会社 sotokoto online「地域と関わる生き方を発信し、持続可能な地域社会を目指す」

「高付加価値化・持続化から世界に羽ばたく『黒にんにく』」

- ・ 当社代表の柏崎進一氏は、就農直後より「青森県産の規格外の野菜をどうしたら商品にできるか」を考え、売上が1億円を超えたことを契機に法人化した。
- ・ 生産・流通については、規格外品の一次加工にも取り組むほか、販路を大手取引先1社に依存していた際の失敗を生かし、販路の拡大にも積極的に取り組み、台湾へ出荷した長芋が高値で販売できたことを契機に、海外への輸出を積極的に実施するようになった。
- ・ 加工・販売については、自社農場の生産物に加え、契約農家やJAから野菜を仕入れ、自社工場で洗浄・加工の上、全国のスーパー等に供給している。また、食品残渣の回収・運搬、廃棄物の処理、発酵・堆肥化する子会社をグループ内に保有し、資源循環型のリサイクル社会を目指し「循環型農業」にも取り組んでいる。
- ・ 規格外のにんにくを活用しようと2006年に開発した「おいらせ黒にんにく」では、類似製品と比較して非常に高い熟成技術が認められ、高価格で取引されている。
- ・ 2008年には同業者10社で青森県黒にんにく協会を設立し2013年に協同組織化した。2016年には世界初の「世界黒にんにくサミット」を開催し、全米450店超・海外20カ国への輸出にも成功している。2015年には特許庁の地域団体商標登録により、青森県全体での地域ブランドとして認められ、世界的な展開を目指している。

【会社概要】

- ・ 名称: 有限会社柏崎青果
- ・ 設立: 1991年
- ・ 代表者: 柏崎 進一
- ・ 所在地: 青森県上北郡おいらせ町秋堂54-1
- ・ 事業内容
  - ◆ にんにく、長芋等の生産・加工・流通事業



出所：当社HP等より作成

【団体概要】

- ・ 名称: 協同組合青森県黒にんにく協会
- ・ 設立: 2008年
- ・ 代表者: 柏崎 進一
- ・ 活動内容
  - ◆ 会員が製造する黒にんにく商品の普及、黒にんにくサミットの開催等



出所：当団体HP等より作成

有限会社木村木品製作所

「世界で唯一りんごの木を加工した木製品」

- ・ 当社は、曾祖父の代からの木工屋を営んでおり、青森ひばのりんご梯子を開発した実績があるなど、りんご農園との関係性が古くからあった。
- ・ りんごの木の商品開発を始めたのは、知人から伐採された大量のりんごの木を譲り受けたことがきっかけとなっている。りんごの木は、背が低く、こぶや空洞化していることが多く扱いづらい。このため、材木屋では、製材をしてもらえなかったことから、自社で木の選定・伐採から製材・乾燥までを一貫して行うに至った。
- ・ 当社は、前述のとおり、歩留まりの悪いりんごの木を材料として商品開発を行うことが特徴であるが、近年では、利益率の高い商品開発にも取り組んでおり、従来の箸・皿の製作から、アクセサリ・子供用のおもちゃの製作へと転換している。
- ・ なお、当社のデザインについては、国内ではウッドデザイン賞を受賞したほか、パリで開催される「メゾン・エ・オブジェ」にも出展するなど、海外を含めて高い評価を獲得している。

【会社概要】

- ・ 名称: 有限会社木村木品製作所
- ・ 設立: 1974年
- ・ 代表者: 木村 崇之
- ・ 所在地: 青森県弘前市千年4-3-17
- ・ 事業内容
  - ◆ 建築工事に付帯する家具工事
  - ◆ 商業施設ディスプレイ什器
  - ◆ オリジナルブランドで展開する玩具遊具
  - ◆ りんごの木のインテリア雑貨
  - ◆ その他各種OEM木製品



出所：当社HP等より作成

## 「生まれ変わったりんご箱が暮らしを彩る」

- 2005年4月、日本一のりんご産地である青森県で、長年りんご木箱を製作・販売する家に生まれた代表者の姥澤氏が、りんご木箱の新たな魅力を発信するため、インテリアとして販売したことが当社の始まりである。
- 当社では、流通後に再利用され、継続的に使用することができるりんご木箱の表面についていた痕跡をそのままデザインに取り込み、家具（「又幸Matasachi」）として販売している。木箱の板は薄くて天板向きではないが、りんご木箱の存在を際立たせることで、青森の風土や景色を表現することを目指している。
- りんご木箱という青森県にとって身近なものを、家具という新たな視点でリデザインすることにより、りんご木箱の新たな魅力を発信している点が特徴的である。
- 今後は、店舗・住宅の内装や什器等の多様な場所でりんご木箱を用いることを検討しており、りんご木箱の新たな活用方法につなげたいと考えている。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社キープレイス
- 設立: 2005年
- 代表者: 姥澤 大
- 所在地: 青森県北津軽郡板柳町福野田実田30-5
- 事業内容
  - ◆ 木箱の製造・販売(木のはこ屋)
  - ◆ インテリア家具・雑貨の販売(卸売・小売)



出所: 当社HP等より作成

# 株式会社SANNOWA

## 「官産民が作る地域商社が進める古くて新しい商品づくり」

- 株式会社SANNOWAは、2019年1月に三戸町の地域商社として、三戸町と読売広告社が出資し設立された。地域に根差した経済活性の仕組みをつくり、地域の人と全国をつなぐことに貢献している。
- 地域商社設立までの道のりとして2016年度から国の地方創生推進交付金を活用し、地域商社機能の構築・強化事業を実施した。観光業・商工業・農業・行政等の多様な分野から集めた20名の委員会を通じて、地域の未来を担う商品開発について検討を進めた。
- そして、付加価値をつける商品開発・ブランディング・マーケティング開発等の問題点を解決するプロジェクトとして、2017年度に地域産品ブランド『三戸精品』を立ち上げ、商品販売を行っている。
- 青森県三戸町産のりんごやニンニク、洋ナシやサクランボなど多くの種類の農作物は、近年人気復活しており、当社では、需要が増えている紅玉等の卸売・商品開発にも力を入れている。
- 2019年には栽培農家がいなくなった町内のホップ生産を引き継ぎ、翌年にはそのホップで醸造したビールを発売した。町内産品のポテンシャルを引き出し、発泡酒等新たな加工品の開発・販売にも取り組んでいる。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社SANNOWA
- 設立: 2019年
- 代表者: 吉田 広史
- 所在地: 青森県三戸郡三戸町八日町48-3
- 事業内容
  - ◆ 加工品の製造販売業、製品の卸し販売業等



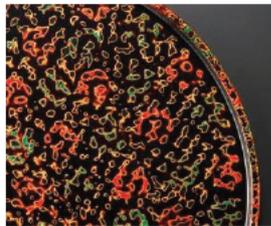
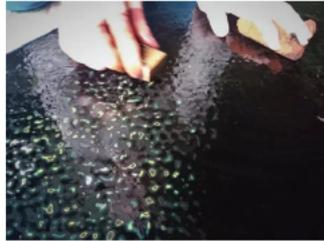
出所: 当社HP等より作成

## 「現代のライフスタイルにマッチした伝統工芸品の開発」

- 当社は、青森県弘前市を中心とした地域に約300年以上受け継がれている津軽塗の販売・修理を行っている企業である。
- 当社では、津軽塗を用いて、新たなライフスタイル提案ができる商品の開発、ラインナップの整備(ブランド・ブランドラインの整備)、生産～販売～アフターケアまでのトータルでのシステムを構築している。
- また、オーストラリアの老舗クリスタルメーカー「ロブマイヤー」とのコラボレーションによる製品開発を継続するとともに、新たな取り組みとして、長崎県の波佐見焼に塗りを施す「陶胎漆器」の制作や他社とのコラボレーションによる錫製品とマッチするオリジナル製品の開発等を行っており、大手百貨店・インターネットを活用した販売チャネルの開拓にも力を入れている。

### 【会社概要】

- 名称: 有限会社イシオカ工芸
- 設立: 1987年
- 代表者: 石岡 幸枝
- 所在地: 青森県弘前市堅田2-7-5
- 事業内容
  - ◆ 津軽塗の卸売販売・展示販売・イベント販売・通信販売・修理



出所：当社HP等より作成

# ブナコ株式会社

## 「限界を決めずに地域の資源を多様な形にデザインする」

- 当社は、「クリエイティブでありながらエコロジカルであること」を大切にしながら、青森県が日本一の蓄積量を誇る青森県の「ブナ」の加工から完成までを自社一貫体制で製造・販売している。
- ブナを加工した生産手法は、1956年に青森県工業試験場で開発し、1963年に先代が創業した際に技術移管され、贈答用食器を中心に売上を拡大していった。
- 代表の倉田昌直氏は、大学卒業後に漆器卸での営業を経験した後に帰郷し、入社1か月後に先代の世界により事業を承継した。その後、パブル崩壊後に百貨店・デパートのギフト消費の低迷により苦境に立たされたながらも、「限界を決めない」と新たにランプシェード等の照明市場に取り組むなど、新たな事業展開に挑戦し、インテリア市場における多様な商品開発に取り組んでいる。
- また、代表ブランド「BUNACO」は海外展開にも挑戦し、パリの見本市「メゾン・エ・オブジェ」に出展しており、フランス国内にも商品が展開されている。

### 【会社概要】

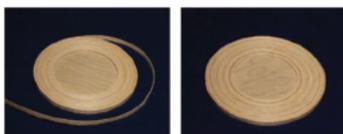
- 名称: ブナコ株式会社
- 設立: 1963年
- 代表者: 倉田 昌直
- 所在地: 青森県弘前市豊原1-5-4
- 事業内容
  - ◆ 天然木材による雑貨、インテリアの企画製造販売



弘前中心市街地にあるショールーム



廃校活用による西目屋工場



出所：当社HPより作成

# 有限会社二唐刃物鍛造所

## 「津軽打刃物の次世代継承」

地域資源

青森県

- 当社は、350年以上の歴史のある刀鍛冶屋であり、その高い技術力を生かし、刃物作り・建築用鉄骨製造を営んでいる。
- しかしながら、近年、弘前市の鍛冶屋は衰退の一途をたどっており、2007年に弘前商工会議所のプロジェクトに集まった企業のうち、刃物で生計をたてられていたのは5・6社ほどしかなく、明確な後継者がいる企業は当社のみと言う状況であった。
- こうした中、代表の吉澤氏は、「伝統を絶やさない」という決意を胸に、価格を下げて国内市場に挑むのではなく、世界へ打って出ることを決断した。
- 当社は、海外で開催されているイベントにも精力的に参加しており、その中で高い評価を得ている。また、ドイツの見本市への参加を契機として英語版のHPをリリースしたところ、問い合わせ・注文が絶えないなど、海外への販路開拓の可能性も出てきている。

### 【会社概要】

- 名称：有限会社二唐刃物鍛造所
- 設立：1949年
- 代表者：吉澤 俊寿
- 所在地：青森県弘前市金属町4-1
- 事業内容
  - ◆ 高級刃物製造販売
  - ◆ 建築鉄骨設計施工
  - ◆ 金物工事一式



出所：当社HP等より作成

7

# 株式会社ポケットマルシェ

地域資源

岩手県

## 「生産者と消費者のつながりを生む持続可能なプラットフォームの構築」

- 当社は、一次産業の生産者がネット上で生産物を直接消費者に販売できるCtoCの電子商取引プラットフォーム「ポケットマルシェ」のサイトを運営している。
- 震災当時に岩手県議会議員を務めていた代表の高橋博之氏が、災害ボランティアの活動現場で「生産者と消費者の共助の関係」を目にしたことを契機に、2013年にNPO法人東北開墾を設立し、被災地の一次産業の衰退に対して「生産者と消費者のつながり」で解決するため、食べ物付き情報誌「東北食べる通信」を創刊した。その後、「食べる通信」の知見・ノウハウを活かし、日本中に展開するためのプラットフォームとして2016年に立ち上げたのが「ポケットマルシェ」である。
- 当サイトでは、売る側の農家や漁師が現場の生産過程の様子や旬のオススメ等を掲載し、買う側の消費者は旬の食材から食べたいものを選んで注文し、生産者から直接食材を購入することができる。
- また、一次産業の生産者と消費者が直接ネット上で対話をしながら生産者の想いや商品の背景を自ら消費者に伝えることができ、生産者と消費者の関係性が生まれ、生産者と消費者が「二人称(私とあなた)」として直接繋がることで、新たな食の関係性が構築されている。

### 【会社概要】

- 名称：株式会社ポケットマルシェ
- 設立：2015年
- 代表者：高橋 博之
- 所在地：東京都渋谷区千駄ヶ谷3-26-5  
金子ビル3F
- 本店：岩手県花巻市藤沢町446-2
- 事業内容
  - ◆ 「ポケットマルシェ」の企画・開発・運営
  - ◆ リアルマルシェの企画・運営
  - ◆ 「東北食べる通信」の企画・運営



サイト画面



出所：当社HP等より作成

8

## 「広田湾海中熟成プロジェクト～体験と特産品による経済活性～」

- 当組合では、海産物が良く育つ岩手県陸前高田市の三陸沖の地域資源を活用し、地元の日本酒、ワインおよびコーヒー等を海中で熟成する取組みを提供している。
- 当該取組みは、体験型の観光コンテンツとして参加者自らが熟成体験や漁業体験を行うことができ、熟成した日本酒は市内の飲食・宿泊・小売店舗で販売している。
- 海中で熟成させると独特のまろやかさが出ることから、湾に浮かぶカキ、イシカゲ貝および若芽の養殖施設につし半年ほど海中で熟成している。
- 体験型観光を通じ、単に日帰りではなく宿泊してもらうことで、熟成酒と新鮮な海産物をホテルや飲食店で楽しんでもらい、市内に経済効果を生み出していく取組みとなっている。
- 今後は、海中熟成体験専用のオリジナル日本酒およびワインの提供開始を予定しているほか、雨天時は海中熟成酒をより楽しく味わうための世界で1つのボトルキーパーや一合升作り体験を実施予定である。また、体験参加者限定で、地元食材を使った海を眺めながら浜で行うBBQなど新規コンテンツも提供予定である。

### 【会社概要】

- 名称：広田湾遊漁船組合
- 設立：2014年
- 代表者：千田 悟
- 所在地：岩手県陸前高田市小友町字茗荷1-10
- 事業内容
  - ◆ 遊魚・漁業体験
  - ◆ 広田湾海産物の加工を含めた企画、開発および販売



熟成中の日本酒やワインその1



熟成中の日本酒やワインその2



出所：当社HP等より作成 9

# 有限会社三陸とれたて市場

## 「最新の冷凍技術を用いた高鮮度個食パック刺身の生産・販売」

- 当社は東日本大震災による経営資源の流失を機に、それまでの鮮魚販売業から凍結を用いた水産加工業への業態転換を行い、最新の凍結技術CASを援用した独自のオペレーション開発により、難凍結魚とされたヒラメを始めとする200品種以上の地場魚介に対応する、高品質凍結製造技術を確立した。
- また、地元漁業者との連携により、商品提供シーンに応じた仕様で食品加工が行われ、それが飲食店や家庭の厨房にまでその品質と形状が維持されたまま一貫して提供されているロジスティクスを構築した。
- 冷凍庫から取り出し流水解凍僅か3分、「あとは盛るだけ」の最高の状態で刺身が個食パックされた製品となっている。これらは、国内外を問わず、利便性高い商品として普及が本格化している。
- コロナ渦において、品質や訴求力を担保しながらも、ロスやリスクの徹底削減を進める飲食店等からの引き合いも活発化しており、SDGsを見据えた資源の有効活用、環境負荷の低減を一層進める計画にある。

### 【会社概要】

- 名称：有限会社三陸とれたて市場
- 設立：2004年
- 代表者：八木 健一郎
- 所在地：岩手県大船渡市三陸町越喜来字杉下75-8
- 事業内容
  - ◆ 魚介類販売業
  - ◆ 食品の冷蔵冷凍業
  - ◆ そうざい製造業
  - ◆ 酒販(地酒等)
  - ◆ 地魚刺身製品の輸出



出所：当社HP等より作成

# 株式会社京屋染物店

地域資源

岩手県

## 「地域の染物屋として、地域の文化を紡ぐ」

- ・ 当社は、世界一の染物屋を目指し、デザイン・染め・縫製までを一貫で行っている。
- ・ 代表者の蜂谷悠介氏は、東日本大震災での被災経験等から、地域の染物屋として、地域の文化を残す必要性を強く感じ、縁を大切にすると和の文化や思想を基にした高品質な製品の提供を通じて、顧客の人生の質の向上に貢献する取組みを進め、自社ブランドの「ennichi」や、snowpeakとのコラボレーション、海外デザイナーとの連携等、様々な商品開発を行っている。
- ・ また、高品質な製品を目指し、世界最高水準の安全性を示す「エコテックス®スタンダード100」の認証を取得し、人と環境にやさしい世界一の品質の製品を製作している。例えば、マスクにおいては、石油由来ではない不織布を原料として製作し、飛沫を97.8%カットする高品質を実現している。
- ・ 商品づくりと同様に人づくりにも熱心に取り組み、2020年度にはホワイト企業大賞を受賞した。
- ・ 今後、関東地方の教育関係者と連携し、商品を制作する過程で失敗したB級品の素材を家庭科の教材として活用することを検討するなど、教育面での貢献を検討している。

### 【会社概要】

- ・ 名称: 株式会社京屋染物店
- ・ 設立: 1918年
- ・ 代表者: 蜂谷 悠介
- ・ 所在地: 岩手県一関市大手町7-28
- ・ 事業内容
  - ◆ 染物のデザイン、染色、縫製の一貫生産・販売



あずま袋



LOCAL WEAR



割烹着



手ぬぐい



パリのデザイナーと連携した「Haiku」

出所：当社HP等より作成

# 株式会社遠野醸造・株式会社BrewGood

地域資源

岩手県

## 「ホップの里からビールの里へ～持続可能な農業とまちづくり～」

- ・ 岩手県遠野市は、半世紀以上にわたり日本随一のホップ生産地(栽培面積全国1位)として、栽培を続けてきたが、近年は高齢化と後継者不足により生産量が大幅に減少し、日本産ホップ栽培の危機が訪れている。
- ・ 地域資源であるホップを未来に残すべく、日本産ホップの持続可能な生産体制の確立を通じて、地域活性化を目指し、ホップの魅力を最大限に活用しながら官民が一体となって未来のまちづくりに取り組む「ビールの里プロジェクト」を推進している。
- ・ 2017年11月には、移住者によって株式会社遠野醸造が設立され、2018年5月には遠野駅前にブルワリー併設型のレストランをオープン。遠野産ホップを活かしたクラフトビールをつくることはもちろん、ビールの里の拠点となるようなブルワリーをつくり、地域住民だけでなく、地域外の多くのひと々と一緒に、新たなビアカルチャーを遠野で醸成している。
- ・ 2018年にはビールの里構想を推進する担い手として株式会社BrewGoodが設立され、地域のブランディングや遠野ホップ収穫祭の企画・開催によって多くの観光客が遠野を訪れている。直近5年では、ホップやビール関係の仕事をするために遠野に20名の移住者があった。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社遠野醸造
- ・ 設立: 2017年
- ・ 代表者: 袴田 大輔
- ・ 所在地: 岩手県遠野市中央通り 10-15
- ・ 事業内容
  - ◆ ビールの醸造および販売
  - ◆ ブルワリーの運営

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社BrewGood
- ・ 設立: 2018年
- ・ 代表者: 田村 淳一
- ・ 所在地: 岩手県遠野市中央通り 10-15
- ・ 事業内容
  - ◆ ビールの里構想の推進
  - ◆ 自治体・企業の事業企画等



出所：当社HP等より作成

「『イカ王子』の誕生とタラフライを通じた地元食材の発信」

- 当社は、イカを中心に三陸の前浜素材を生かしストーリー性を出した商品を中心に加工・販売している。
- 代表取締役専務である鈴木良太氏は、震災前の2005年に仙台から宮古にUターンし、当社で買付・商品開発・営業等に取り組む中、2011年に被災した。自社の原料・製品が流失し、宮古市全体も大きな被害を受ける中、地場産業の中で消費者に近い商流にいる自社だからこそ、まちを変えられるのではないかと、地場の水産業を牽引するために取組みを開始した。その一つに、自身のメディア露出を進め、商品開発を進める「イカ王子プロジェクト」がある。開発した商品の中でも、本州水揚げ一位を誇る真鱈を使った「王子のぜいたく至福のタラフライ」は、イベント出店では地域内外で大行列ができ、メディアにも多数取り上げられている。
- 2020年度には、イカ王子がバイヤーとしてセレクトし、三陸の豊かさを発信していく「港の百貨店」のリリースに向けて準備を進めている。

【会社概要】

- 名称: 共和水産株式会社
- 設立: 1985年
- 代表者: 鈴木徹、鈴木良太
- 本社: 岩手県宮古市長町二丁目3番1号
- 工場: 岩手県宮古市藤原二丁目3番7号
- 事業内容
- ◆ イカを主とした海産物の冷凍食品製造業



出所：当社HPおよび販売サイト等より作成



ぜいたく至福のタラフライ



イベントでは長蛇の列が並ぶ

西わらび生産販売ネットワーク・西和賀産業公社

「西和賀町のブランド山菜「西わらび」の生産改革・市場拡大」

- 岩手県の中西部に位置する西和賀町では、古くから山菜の産地として有名であり、中でも「わらび」は、他地域と比べてアクやスジが少なく、柔らかくて粘りがあることから「西わらび」と呼ばれ、高く評価されている。
- 同町では、「西わらび」の特産品化・販路拡大に向けて2002年から取り組み、2006年から西和賀産業公社による買取制度を構築していたが、山林からの移植による対応で生産量を確保できない状況であった。
- そこで、生産方法の改良が進み、2016年よりポット苗を使った栽培が本格化し、生産が容易であることを理由に栽培面積が拡大した。2020年度には、地理的表示(GI)制度の登録を目指している。
- また、西わらびは、西和賀産業公社にて販売推進されるほか、町内事業者で連携し、根っこを加工したわらび粉(西わらびのねっ粉)およびわらび餅の製造が推進されるなど、活用の幅が広がっている。

【団体概要】

- 名称: 西わらび生産販売ネットワーク
- 設立: 2009年
- 代表者: 湯沢 正
- 活動内容
- ◆ 西わらびの生産・研究・販売

【会社概要】

- 名称: 株式会社西和賀産業公社
- 設立: 1986年
- 代表者: 細井 洋行
- 所在地: 岩手県和賀郡西和賀町川尻 40地割73番地11
- 事業内容
- ◆ 農産物・加工品の製造・販売
- ◆ レストラン運営



出所：西和賀町HP・広報にしわが・西和賀町へのヒアリング等より作成

## 「一戸町の地域産品を通じたものづくりの発信と関係人口づくり」

- 一戸町では、鳥越の竹細工をはじめ、裂織、木工品など豊かな自然を活かした「ものづくり」が盛んであり、作り手が数多く在籍する地域となっている。一戸町内の食品を含めた製造企業や生産者などが集まる一戸町地域産品協議会では、商工会館だった建物を活用して「いちのへ手技工芸館」を立ち上げたほか、様々な物産展などに出展し、一戸のものづくりをPRしている。
- また、神奈川県横浜市元町には、2010年よりアンテナショップ「Natural Essay」を出店し、昨年で10周年を迎えている。同店舗では、一戸町や岩手県内の物産品の販売やイベント開催を通じて、横浜市との交流を深めている。
- 横浜市と一戸町では、2019年に地域循環共生圏の考え方に基づく「脱炭素実現を目的とした再生可能エネルギーに関する連携協定」を締結したほか、同連携に基づき、総務省「関係人口創出・拡大事業」のモデル事業を通じた交流イベントを開催している。

### 【施設概要】 ※写真上

- 名称: いちのへ手技工芸館
- 設立: 2003年
- 所在地: 岩手県一戸町一戸字越田橋11番地1
- 事業内容
  - ◆ 竹細工、木工品、織物の製造および販売
  - ◆ 機織り・木工の製作体験の提供



出所: 当町HP等より作成

### 【施設概要】 ※写真下

- 名称: Natural Essay
- 設立: 2010年
- 所在地: 神奈川県横浜市中区元町5-209
- 事業内容
  - ◆ 岩手県一戸町の産品を中心とした岩手県産品の販売
  - ◆ 岩手県産食材を扱う飲食店向けの販売

出所: 当店舗HP等より作成

## 「印刷を手段として地域資源のPRに貢献」

- 当社は、宮古市で印刷の受注生産を営む老舗の印刷会社である。5代目の花坂雄大氏は、25歳で宮古市にUターンし、営業担当として入社し、2017年に代表者として承継した。
- 入社当時から、緩やかに衰退していく地域経済に危機感を持つ中、東日本大震災を契機として、「自社が印刷物を受注するためではなく、顧客のパートナーとして、地域の価値を高める仕事をしよう」と自社の提供価値を再定義した。その後は、水産資源のブランド化のため、商品開発からイベント出店までのサポートのほか、宮古・室蘭のフェリー航路の開通に際し、観光事業者の若手を中心に研究会を立ち上げるなど、印刷業の枠を大きく越え、地域の課題解決や価値創造に取り組んでいる。
- 被災地域で実施している、復興創生インターンを活用し、学生との交流も積極的に行いながらも、ITを活用した新たな情報発信・企画開発、DXによる印刷業としてのビジネスモデル転換に取り組むなど、常に未来の印刷業に向けて進んでいる。

### 【会社概要】

- 名称: 花坂印刷工業株式会社
- 設立: 1902年
- 代表者: 花坂 雄大
- 所在地: 岩手県宮古市新川町1-2
- 事業内容
  - ◆ 印刷物の製造
  - ◆ 地域資源や地域文化に関する情報発信
  - ◆ 地域資源の販路拡大に関する企画開発



写真撮影・構成・企画までプロデュース



自社の生活情報誌は1,200回を超える

出所: 当社HP等より作成

# 企業組合八幡平地熱活用プロジェクト 「循環型有機農業への挑戦」

地域資源

岩手県

- 東日本大震災の復興支援として、八幡平の知人の牧場のサポートを行ったことを契機に、代表理事自身が馬術選手であったことから、引退した競走馬に活躍の場を提供すべく、企業組合八幡平地熱活用プロジェクトを創設し、八幡平に引退馬を飼育する牧場兼農場の「八幡平ジオファーム」を開設した。
- 1966年に日本初の商業用地熱発電所が設置された八幡平の地域資源となる「温泉地熱のエネルギー」を活用し、高付加価値のあるマッシュルーム栽培と馬ふん堆肥づくりのほか、マッシュルーム廃菌床を活用した堆肥づくりにも取り組んでいる。
- 近年では、馬が生み出す資源(馬ふん)と温熱を活用して生まれた利益が再び馬に還元されるという経済にも環境にもやさしい持続可能な循環型の仕組みが注目を集めてきている。また、地熱を活用することで二酸化炭素の排出削減にも寄与している。

## 【会社概要】

- 名称: 企業組合八幡平地熱活用プロジェクト
- 設立: 2014年
- 代表者: 船橋 慶延
- 所在地: 岩手県八幡平市松尾寄木1-1483
- 事業内容
  - ◆ 馬×地域資源をベースとしたサステナブルな農場の運営
  - ◆ マッシュルームの栽培、馬ふん堆肥製造
  - ◆ 引退馬の飼育



出所: 当社HP等より作成 17

# 綾里漁業協同組合青壮年部・綾里六次化プロジェクト 「地域×関係人口による漁業の新しい価値の創出」

地域資源

岩手県

- 綾里漁協協同組合のある大船渡市の綾里地区では、その多くが漁業の関係者である。1989年に創設された青壮年部では、2003年からワカメやホタテの直接販売をスタートし、後年に「早採りわかめ磯一番」「恋し浜ホタテ」の商標登録を行い、販路拡大の取組みを進めてきた。
- 東日本大震災後、養殖生産物、漁船や生産施設等が被害を受ける中、綾里の取組みを知っていた全国各地から集まったボランティアと共に瓦礫撤去などの苦難を乗り越え、「東北食べる通信」に恋し浜ホタテが掲載されたことをきっかけとして、綾里独自で「綾里漁協食べる通信」を2015年に発刊した。その後、読者ニーズに基づき、生産現場に読者を招く取組みや交流施設「恋し浜ホタテデッキ」や交流活動「浜の学び舎」を開始した。
- また、販路拡大の取組みとして、綾里漁協アンテナショップ「りょうり丸」や「綾里漁協食べる通信」の縁による「ターナー者(6次化プロジェクト代表)」によってECサイト「綾里漁協オンライン」を開始した。ECサイトでは、コロナ禍で飲食店などで需要が減少した地元のウニおよび早採りワカメの限定販売に注文が殺到している。

## 【事業者概要】

- 名称: 綾里六次化プロジェクト(綾里漁協内)
- 代表者: 阿部 正幸
- 所在地: 岩手県大船渡市三陸町綾里字黒土田102-2
- 事業内容
  - ◆ 綾里地域内の漁業生産物の販売



綾里漁協食べる通信



恋し浜ホタテデッキ



恋し浜ホタテ



綾里漁協オンラインで販売したウニ

直送!

綾里漁協オンライン

## 「結婚を機に漁師になった男が取り組む新しい海の仕事づくり」

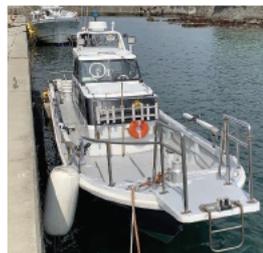
- 当社は、「ホタテで、世の中を幸せで満たす」を理念に、宮古市日出島において海を包括した総合的な事業を展開している。
- 代表の平子昌彦氏は、結婚を機に義父が営むホタテ養殖事業に関わり、宮古市に移住した。東日本大震災によって義父を亡くし、独立を決意して事業に取り組み、2018年に法人化した。
- 当社で育てるホタテは、天然種苗で採った稚貝から丁寧に育て、貝の耳に穴をあけてロープで繋ぎ、カーテンのように海の中に垂らして育てる「耳吊り方式」によってあえて過酷な環境で育てているため、貝柱が厚く甘みの強いものとなっている。
- 養殖事業のほか、日出島を総合的に楽しめるよう、遊漁船や子どもの漁業体験など、漁業から地域を盛り上げるための取組みにも挑戦している。
- 人材活用にも積極的であり、復興庁事業である復興創生インターンを通じた学生の受入れのほか、NPO法人ETIC.が提供する副業人材プラットフォームYOSOMON!内「GYO-SOMON!」にて、ホタテ払いでの副業人材を募集する取組みにも挑戦している。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社隆勝丸
- 設立: 2018年
- 代表者: 平子 昌彦
- 所在地: 岩手県宮古市崎鍬ヶ崎  
15-5-1
- 事業内容
  - ◆ ホタテやホヤなどの養殖
  - ◆ 遊漁船業・観光事業
  - ◆ 直販事業



耳吊り方式によるホタテ養殖



釣り船「第九隆勝丸」



ホタテ払いでの副業人材募集

出所：当社HP、NPO法人ETIC.「YOSOMON!」等より作成

## 「北上の味となった『チーズケーキ』を次の世代へ」

- 岩手県北上市出身の代表者が、幼少期に父と行った中華料理店で調理風景を見てコックの仕事に憧れを抱き、学卒後、洋食店やロシア料理店にて修業し、1973年に故郷である北上市に帰郷、「地域にまだ無い物を提供しよう」という想いからロシア料理店トロイカを開店した。
- 古くから「地産地消」や「食の安全」に取組み、1997年にはチーズケーキやロシア料理に使用するチーズの更なる特化を目指し工房を設立し、チーズの自社製造を開始した。チーズに使用する牛乳は、その日に搾られた岩手県産の新鮮なものを毎朝仕入れており、出来上がったチーズは保存料や化学調味料を使用していない。チーズケーキは、自社で確立した「ミディアムエージング」という外側がサクサクに、内側はなめらかで柔らかい焼き上がりになるような焼き方が醸し出す、濃厚でかつ口溶けの良い味わいが特徴、注文の分だけ毎日ひとつひとつ、丁寧に手づくりしている。北上の食と言えば「チーズケーキ」というファンも多い。
- 2019年に、30歳代前後の従業員達の働きやすさと次世代育成のため、チーズ工房を併設した店舗を新設・移転した。なお、本移転の際にはミュージックセキュリティーズ社のクラウドファンディングにも挑戦し、156人の出資者が集まっている。

### 【会社概要】

- 名称: 有限会社トロイカ
- 設立: 1993年
- 代表者: 高橋 正
- 所在地: 岩手県北上市上江釣子  
16-53-1
- 事業内容
  - ◆ 飲食業(ロシア料理)
  - ◆ 食品製造・販売(チーズケーキ等)



出所：当社HP等より作成

## 株式会社ベアレン醸造所

地域資源

岩手県

### 「地域に根差し、地域に愛されるビールをつなぐ」

- 当社は2003年に岩手県盛岡市では初となるビールメーカーとして製造を開始した。100年以上の歴史があるドイツの仕込室を日本に移設し、ヨーロッパの伝統的な製法に則った本格的なビール造りに取り組んでいる。
- 地域産品を使用したビールの製造や、岩手を代表するクラフトビールとして県内各地で開催されるイベントへの出店、工場ビール祭等の開催を通じて、売上の65%を岩手県内で占める。また、雫石町および野田村との連携協定を締結し、2019年には雫石町に工場を新設の上、県外への輸送が容易となる缶ビールの製造ラインを導入することで、岩手からクラフトビールの魅力を県外や海外へ発信する取組みを進めている。
- 東日本大震災後には、復興応援ビールを販売し、売上の一部が被災地に寄付される取組みも行っている。
- 女性活躍の推進、経営者のイクボス宣言、長時間労働の削減など、働き方改革にも積極的に取り組み、「いわて働き方改革AWARD最優秀賞」「いわて女性活躍認定企業」なども受賞している。

#### 【会社概要】

- 名称: 株式会社ベアレン醸造所
- 設立: 2001年
- 代表者: 木村 剛
- 本社工場: 岩手県盛岡市北山1丁目3-31
- 雫石工場: 岩手県岩手郡雫石町沼返19-53
- 事業内容
  - ◆ クラフトビールの製造・販売
  - ◆ バー・レストランの経営



出所: 当社HP・Facebook等より作成<sub>21</sub>

## 株式会社幸呼来Japan

地域資源

岩手県

### 「伝統工芸の『裂き織』 × 障がい者が織りなす唯一無二の価値」

- 当初、住宅リフォーム会社の一部門として裂き織(東北地方に伝わる伝統的な技術で、障がい者の高校のカリキュラムも組み入れられている。)事業を行っていたが、東日本大震災後の経済環境の変化により、住宅リフォーム会社の一部門としての事業継続が困難となったため、事業化を決意し、会社を設立した。
- 岩手県の伝統祭りの盛岡さんさ踊りで着用した浴衣やアパレルメーカー等で使用されなくなった余り布等を使い、細く裂き、織物の横糸として織り込むことで新しい生地へと生まれ変わらせ、裂き織の商品を製造する。
- 製造にあたっては、就労継続支援事業所の認可を取得し、障がい者の就労を支援する観点から、障がいのある織り手の個性とアート性を尊重した唯一無二の裂き織を商品化している。
- 近年では、アパレルメーカーやブランドなどの企業をパートナーに想定した「さっくらプロジェクト」に取り組んでおり、有名ブランドとのコラボレーションを含め、注目を集めている。
- これらの取組が注目され、2021年には東北ソーシャルイノベーション大賞を受賞している。

#### 【会社概要】

- 名称: 株式会社幸呼来Japan
- 設立: 2011年
- 代表者: 石頭 悦
- 所在地: 岩手県盛岡市安倍館町19-41
- 事業内容
  - ◆ 裂き織商品の製作および販売
  - ◆ 障がい福祉サービス就労継続支援事業所の運営
- ◆ <http://saccora-japan.com>



幸呼来 さっくら Japan



出所: 当社HP等より作成

## 「『D.I.T』から生まれる人と場のひろがり」

- 当社は、「暮らしを楽しく、もっと自由に。」をミッションに、「ともにつくること」によって、人と場の可能性をひろげ、よりよい未来を創造することを目指し、空間づくりのワークショップを企画・開催している。
- 当社代表の桑原憂貴氏は、東日本大震災後に陸前高田市を訪れ、地域材となる「気仙杉」の商品化を模索し、2013年に株式会社紬を設立の上、市内や東北内の集会所を住民と協働してセルフビルドする取り組みや、国産杉のセルフビルドキットの開発を進めている。また、2016年には、社名をKUMIKI PROJECTに変更し、空間づくりワークショップ事業を本格的に展開している。
- 当社は、チームビルディング型の空間づくりのコンセプト「DIT(Do It Together)」でリノベーションを進めるワークショップを展開しており、2018年には暮らしをつくれる人を増やすため、一般財団法人KILTAを設立し、全国にDIYコミュニティと助け合いができる仕組みを拡げており、現在は9地域にその輪が広がっている。

### 【会社概要】

- 名称: KUMIKI PROJECT株式会社
- 設立: 2013年
- 代表者: 桑原 憂貴
- 本社: 神奈川県中郡二宮町二宮212 栄ビル305
- 拠点: 秋田県能代市、京都府下京区
- 事業内容
- ◆ 空間づくりワークショップのプロデュース、各種スクールの開催



出所：当社HP等より作成

# 株式会社バンザイファクトリー

## 「三陸の未利用資源とストーリーを活用した商品開発」

- 当社は、代表の高橋和良氏が2005年に盛岡市で三次元ITシステムを活用した木工製品の開発・販売のために立ち上げた会社である。2011年に東日本大震災によって恩人達が被災したことを受け、陸前高田市に移転し、被災地で地域資源を活用した雇用の創出のため、木工製品および食品の製造・販売を行っている。
- 国産ワカメの70%以上が三陸地域で生産されている中、養殖ワカメのうち太茎は地元の漁師が使えないと捨てていたところ、太茎に食物繊維が多く含まれていることに着目して商品開発を進め、白砂糖・精練塩を使わない「気仙かんろ煮」、砂糖・食塩・添加物を使わない「三陸甘露煮ギフトセット」を販売し、2015年に復興ビジネスコンテストで大賞を受賞した。
- 2015年には、津波や塩害で多くの樹木が枯れていく中で多くの樫が生き残ったことを背景に、根を深く張り、倒れにくい気仙樫のようにするため、無農薬の樫茶を2015年に開発・販売した。
- 2017年には、総務省「ローカル10000」プロジェクトに応募・採択され、大船渡市内に工場を建設し、地域資源を活かした生産体制が構築され、樫茶の甘みと天然海塩・有機醤油による健康的に配慮した製法によって、より高付加価値な「わかめの太茎柱」が開発・販売された。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社バンザイファクトリー
- 設立: 2005年
- 代表者: 高橋 和良
- 本社工場: 岩手県大船渡市大船渡 町字茶屋前7-7
- 事業内容
- ◆ 木工品の製造および販売
- ◆ 食品の製造および販売



ワカメの太茎を使用した佃煮

気仙樫を活かした樫茶

出所：当社HPより作成

## 「～地元の米と水を使用したこだわりの日本酒づくり～」

- 南部杜氏発祥の地である紫波町で元々麴屋を営んでいた横沢家4代目が、酒造りへの情熱に燃えて酒造業を1886年に始め、当社が生まれた。
- 創業以来、当社では、地元の米と水を使った酒造りにこだわり、米は全体の9割超、岩手県の酒造好適米を、水は全て蔵の敷地内にある「井戸水」を用いている。
- 当社は、常に新しい事に挑戦し続けており、例えば、日本酒造りに不向きと言われているもち米を100%使用した純米酒の製造や、副産物である酒粕を使用した焼酎の製造にも取り組んでいる。
- また、若者の消費拡大を狙い、地元岩手大学生との連携のもと、学生自らが生産に携わった酒米を用い、酒質設計にも学生が関わり、比較的アルコール度数を抑えた飲みやすい日本酒の製造のほか、米麴を原料とするジェラート開発への挑戦など、学生との連携および当社の高い技術を活かして、新市場の開拓にも努めている。

### 【会社概要】

- 名称：有限会社月の輪酒造店
- 設立：1886年
- 代表者：横沢 孝之
- 所在地：岩手県紫波郡紫波町高水寺字向畑101
- 事業内容
  - ◆ 清酒製造・販売
  - ◆ 自社酒粕を使用したしょうちゅうの製造・販売



出所：当社HP等より作成

もち米を100%使用した純米酒 学生とコラボした日本酒

# 株式会社更木ふるさと興社・バイオコクーン研究所

## 「養蚕の再生と最先端の科学技術による新産業創出」

- 岩手県北上市の更木地域では、かつて蚕を飼育し、繭を生産する養蚕業が栄えていたが、時代の流れとともに衰退し、蚕の餌である桑畑も放置されていた。
- 地域産業の衰退を阻止すべく、2009年に㈱更木ふるさと興社が設立され、健康への作用が注目される「更木桑茶」の製造販売が始まり、地域の名産品として知られるようになったが、2016年には北上市内に唯一残っていた養蚕農家が廃業し、飼育技術や生産基盤が失われる危機にあった。
- このため、2018年から㈱更木ふるさと興社と岩手大学発ベンチャーの㈱バイオコクーン研究所を含む産学官金が連携し「モスラ復活大作戦」を始動した。養蚕事業を高付加価値化するため、カイコ冬虫夏草の認知症予防の健康食品への活用や、生糸として使えない繭の再活用等の研究開発・商品化を進めている。
- なお、東宝では、怪獣「モスラ」を同プロジェクトのメインキャラクターとしてのPR活用に協力している。

### 【会社概要】

- 名称：株式会社更木ふるさと興社
- 設立：2009年
- 代表者：福盛田 洋幸
- 所在地：岩手県北上市更木22地割9-2
- 事業内容
  - ◆ 桑茶・桑事業
  - ◆ 養蚕事業

### 【会社概要】

- 名称：株式会社バイオコクーン研究所
- 設立：2001年
- 代表者：藤瀬 圭一
- 所在地：岩手県盛岡市上田4-3-2コラボMIU
- 事業内容
  - ◆ ヘルスケア研究開発事業
  - ◆ 養蚕イノベーション®事業



出所：更木ふるさと興社HPおよびバイオコクーン研究所HP等より作成

## 「障がいを個性として価値化し新たな社会実験の創出へ」

- 01 | 当社は「異彩を、放て。」と「福祉に、遊びと実験を。」を掲げ、障がいのある作家の異彩を、さまざまなモノ・コト・パシヨにアウトプットすることで、障がい者の方々がもつ才能や個性を価値化している。
- 02 | 代表権を持つのは双子の兄弟であるが、双子に自閉症の兄がいることが創業のきっかけになっている。  
障がいのある人には、豊かな感性、繊細な手先、大胆な発想および研ぎ澄まされた集中力といった無数の個性があることから、それらを「可能性」と捉え、個性があるからこそ描き出せるアートに焦点を当てた。
- 03 | 様々な形で社会に提供することで、お金が生まれる仕組みを創出し、先入観や常識という名のボーダーを超え、福祉を起点に新たな文化を創造する取組みを推している。
- 04 | 障がいのある方が描くアート作品を商品に落とし込み、新しい価値の提案を目指すブランド「HERALBONY」や建築現場の仮囲いにアート作品を転用する「全日本仮囲いアートミュージアム」等を展開。  
複数の大手企業・百貨店・行政ともコラボを行うほか、2020年8月には地元岩手県の川徳百貨店に常設店舗をオープンした。

### 会社概要

名称 | 株式会社ヘラルボニー  
 設立 | 2018年7月24日  
 代表者 | 松田 崇弥、松田 文登  
 所在地 | 岩手県盛岡市開運橋通2-38 @HOMEDELUXビル 4F

#### 事業内容

- ◆ CSR・CSV・SDGsを軸とした企画のブランディング・プロデュース
- ◆ 福祉を軸とした新規サービスの企画立案・開発、社会実装
- ◆ 知的障害あるアーティストが描いたアート作品の社会実装・育成等



出所：当社HP等より作成 27

# タヤマスタジオ株式会社

## 「伝統工芸×現代社会の繋がりから新たな価値を創出」

- 同社は丁稚から約50年職人である創業者(代表父)が設立し、南部鉄器の一つである南部鉄瓶を手仕事でつくっている。代表である田山貴紘氏は震災後の2013年に東京からUターンし、南部鉄器の職人兼会社経営に取り組み、職人主体の業界に営業の経験・ノウハウを持ち込み、若い職人の育成と販売を両立した「あかいりんごプロジェクト」では、伝統工芸における革新性を評価する三井ゴールデン匠賞を受賞した。
- 同社は職人以外にも様々なメンバーにより構成され、南部鉄瓶を新たな価値に定義直し、「丁寧な育む、てつびん生活」を提供するブランド「kanakeno」により、プロダクトからコトへの転換に取り組んでいる。
- また、首都圏で鉄瓶で沸かした湯を味わってもらい、職人側に消費者の声をフィードバックする取組みや、相互交流型のワークショップ「てつびんの学校」、鉄瓶で沸かしたお湯や飲み物等を楽しめるカフェ「お茶とてつびんengawa」などを通じて、職人・伝統工芸と社会を繋ぎ、新たな価値を創出している。
- 現在は、南部鉄器が全体で販路開拓できるようなコミュニティ形成や、自治体と連携した公園再生など、業界や地域のために幅広いテーマで活動している。

### 【会社概要】

名称: タヤマスタジオ株式会社  
 設立: 2013年  
 代表者: 田山貴紘  
 所在地: 岩手県盛岡市中ノ橋通1-5-2  
 唐たけし寫場1階

#### 事業内容

- ◆ 南部鉄瓶の製造・販売、南部鉄瓶ブランド「kanakeno」の展開
- ◆ 南部鉄瓶による飲料等を提供するカフェの運営



出所：当社HPおよび作成資料等より作成 28

# 株式会社日本ホームспан

## 「手紡ぎの伝統技法を現代のニーズに」

地域資源

岩手県

- ・ 戦前、羊毛生産と毛織物加工は当地域の農家の副業であったが、ホームспан(手紡ぎによる、主に太めの粗糸などを使った手織り織物。弾力に富んでしわになりにくく、身につけても重さを感じさせないことが特徴)として事業化し、1955年に当社を設立した。オーダーメイドの服が主流だった時代、業績は順調に推移した。
- ・ しかし、既製服へと移り変わると、主な販売先である問屋は衰退したため、販路開拓に取り組んだところ、デザイナーブランドとの取引に成功した。以降、世界的に知られるブランドに生地を提供しながら、当社は多様なオーダーに対応する技術力、新製品を提案するデザイン力を磨いてきた。
- ・ 当社は、羊毛の染色から生地の仕上げまでの全工程を自社で行っている日本では数少ない企業である。直径0.1mm以下の繊細な糸も織り込む高い技術力のほか、羊毛にシルクや綿を混ぜるなどの独自性を加え、デザイン性の高い生地を生産しており、既往の欧州のほか、アジアへの販路開拓にも取り組む。

### 【会社概要】

- ・ 名称: 株式会社日本ホームспан
- ・ 設立: 1955年
- ・ 代表者: 菊池 完之
- ・ 所在地: 岩手県花巻市東和町土沢1-89-2
- ・ 事業内容
- ◆ 服地の製造および販売



出所: 当社HP等より作成 29

# 元正榮北日本水産株式会社

## 「天然を超える養殖あわびを世界に」

地域資源

岩手県

- ・ 当社は、繁殖・稚貝育成から陸上養殖にて蝦夷あわびを生産する会社であり、独自の生産・研究開発体制により国内シェアトップの生産能力を持つ。
- ・ 東日本大震災により生産施設がすべて被災したものの、奇跡的に見つかったあわびの成貝により、三陸種を絶やさずに復旧・復興を推進してきた。
- ・ 当社では、陸上による一貫した生産管理により、育ちの良い貝を抽出した繁殖体制や、サイズ別での生産管理による飲食業等が扱いやすいサイズ別の販売が1個単位で可能である。また、海外輸出やBtoC販売といった新たなチャンネルにも積極的に取り組んでいる。
- ・ さらに、2020年度には、BtoCをより推進するための商品開発やEC販売での体制構築を進め、安価で美味しいあわびを家庭に届けるギフトセット等を提供している。

### 【会社概要】

- ・ 名称: 元正榮北日本水産株式会社
- ・ 設立: 1986年
- ・ 代表者: 古川 季宏
- ・ 所在地: 岩手県大船渡市三陸町綾里字石浜71-1
- ・ 事業内容
- ◆ あわびの陸上養殖
- ◆ 魚介類の養殖生産および販売
- ◆ 魚介類の種苗生産および販売
- ◆ 養殖事業に関するコンサルタント業務
- ◆ 魚介類の加工販売および仕入販売



陸上養殖によるあわび

出所: 当社HP等より作成

30

# 株式会社八木澤商店

地域資源

岩手県

## 「様々な縁から奇跡を醸す老舗醸造家を目指す持続可能な発酵のまち」

- 当社は、1807年に創業し、地元素材を使った伝統的な製法でこだわりの醤油・味噌を製造している。
- 陸前高田市は、東日本大震災により広範囲にわたる津波被害が発生し、当社も本社・蔵・工場等のすべてが全壊したが、迅速に代替する事務所を確保し、業界では異例となる同業他社にレシピを伝え、OEM製造にて生産を再開した。
- 被災した釜石市の水産技術センター内に、震災前に微生物の研究のため預けていた「もろみ」が奇跡的に見つかり、それを少しずつ培養して増やし、2年超の醸造期間を経て、2014年に「奇跡の醤」として販売を開始した。
- また、震災後の2013年には、奇跡の一本松への来訪者向けにテイクアウトカフェをオープンし、2017年には復興に合わせて開業した商業施設内にカフェを出店するなど、様々な形態で市内経済・雇用を支えている。
- 2020年には当社が主宰する「醸し」をテーマにした発酵パーク「CAMOCY」が市内今泉地区に開業した。当施設には、当社代表の河野通洋氏が自社経営と並行して関わってきた若手起業家や震災後につながってきた仲間たちが関わり、当社も同地区内への本社兼店舗の移転を進めている。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社八木澤商店
- 設立: 1960年(創業1807年)
- 代表者: 河野 通洋
- 所在地: 岩手県陸前高田市矢作町字諏訪41
- 事業内容
  - ◆ 醤油、醤油加工品、味噌、味噌加工品等の製造販売



見つけたもろみと奇跡の醤



2020年にオープンしたCAMOCY



当社のCAMOCY店



本店



アバッセたかた店

出所: 当社HP等より作成

31

# 株式会社齊吉商店

地域資源

宮城県

## 「味と人への想いが紡ぐ地域×食×心の輪」

- 当社は、代表商品「金のさんま」をはじめとした、海のものや山のものなど、地域の恵みを活かし、添加物を使わず、ほとんどが手作りの丁寧な加工によって、「美味しい食卓、豊かな暮らし」を提供している。商品づくりの根幹に「家庭の料理」があり、身近な人が毎日食べても美味しくうれしいものを届けている。
- 東日本大震災により、本社・店舗・工場が全て被災したが、開発当時から継ぎ足して作ってきた、金のさんまの返しタレは従業員が命がけで持ち出し、震災から半年以内に一部商品の製造・販売の再開に至った。
- 2012年には仮設工場にて市内での製造を再開し、仮設工場・店舗内「ぱっぱの台所」を、多くの団体が飲食やワークショップ等で利用した。2017年には潮見町工場を再建したほか、市内に本店舗「鼎・齊吉」を開店し、2018年から2019年には東京常設店となる日本橋三越店を出店している。
- 再建で忙しい中でも、震災で応援に来た方に対する心からの感謝の気持ちは多くの人の心を動かし、当社から始まった震災後の縁により、多くの関係人口が気仙沼や東北に創出された。人の心を動かす想いは、全国の有名百貨店の催事でも同様で、味と想いに共感したファンのECサイトでのリピート購入で広がった。
- 2020年からはコロナ禍の中、東北から食を届けるために、女将の齊藤和枝専務が東北内の生産現場を訪問し、東北の旬のものを発信し家庭に届ける「生鮮便」も開始しており、顧客とのあたたかい対話を行っている。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社齊吉商店
- 設立: 1960年(創業1921年)
- 代表者: 齊藤 純夫
- 所在地: 宮城県気仙沼市潮見町2-100-1
- 事業内容
  - ◆ 加工食品製造販売・飲食店経営

齊吉



潮見町工場



生鮮便



鼎・齊吉



金のさんま



毎月「気仙沼便り」



ぱっぱの台所

出所: 当社HP等より作成

32

「子育てする女性から始まった幻の染料を使った藍染め工房」

- 当社は、「気仙沼＝海＝ブルー」というイメージを活かし、藍染めの染色整理業(染色受託/オリジナル製品の製造販売)を行う。
- 東日本大震災により、託児施設がなくなり、女性の子育てをしながら働くことが困難な状況となったことを受け、子どもをおんぶしながらでも働ける場を作りたいという思いで、当社を設立した。
- また、当初は添加物を使用した染料づくりを行っていたが、天然100%染料へと移行。母としてのメッセージ性が高い「原材料表示できるファッション小物・雑貨類」の製造販売に注力している。
- 近年は世界的にも希少種である「パステル」の試験栽培を、クラウドファンディングを活用しながら実施。認定農業者を取得し、自社栽培から染め作業までを一貫して行うように。葉は染料として使えるほか、根は食品区分されており生薬や漢方に、種子は化粧品素材として使えることが分かり、母たちが畑から手渡しできる距離感で、葉っぱの先から根っこの先まで使える資源として、産学連携や他社との共創が始まっている。

【会社概要】

- 名称: 株式会社インディゴ気仙沼
- 設立: 2018年
- 代表者: 藤村さやか
- 所在地: 宮城県気仙沼市新町二丁目1番
- 事業内容
  - ◆ 植物の生産・加工・販売
  - ◆ 植物栽培の研究開発
  - ◆ 染料の生産販売
  - ◆ 染色業
  - ◆ アパレル製品の企画・製造・販売



出所: 当社HP等より作成 33

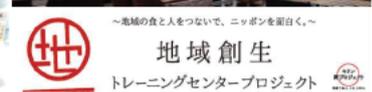
有限会社マイティー千葉重

「10年毎に訪れる変化に挑み成長を続ける食のチェンジメーカー」

- 2002年からBSE問題の影響を受ける牛タン業界を支援する形でITを中心とした販売体制の構築を手掛けていた当社では、震災後にキリングroupとの連携を通じて、多くの東北の農業経営者の育成・販路支援の実施のほか、三菱地所と連携し、首都圏と生産者を繋ぐプロジェクトを展開している。
- 2016年からは自地域の再生として、仙台市秋保にまちづくり会社を設立し、サイクルツーリズムから酒を中心としたテロワージュ事業を展開し、海外から続々とブルワリーを開くために移住者が集まってきている。また、同年から、農業経営者を育成するノウハウを生かした育成プロジェクトを開始し、2019年には全国の地方創生に取り組む事業者等と株式会社Inter Local Partnersを設立、有楽町にて人・アイデア・文化・食に出会える多機能型(ステージ/飲食/物販・展示)商業施設「micro FOOD & IDEA MARKET」の運営を開始した。
- 2021年には、ポストコロナによる人材交流の活性化を視野に、一般社団法人東北絆テーブルの設立し、首都圏人材と東北地域が交流し、新たな価値の創造を進めるプラットフォームの構築に取り組む予定である。

【会社概要】

- 名称: 有限会社マイティー千葉重
- 設立: 1992年
- 代表者: 千葉 大貴
- 所在地: 宮城県仙台市宮城野区榴岡3丁目10-7サンライン66ビル8F
- 事業内容
  - ◆ 地域ブランド開発、観光コンテンツ開発、地域プロジェクト企画・運営、商品開発コーディネート
  - ◆ WEBサイト・システム構築、マーケティング調査・分析、販促企画・広報・集客支援、メンテナンス・運営指導
  - ◆ 地域食材の販路開拓、酒類販売・卸、通販・ポータルサイト運営



出所: 当社作成資料等より作成 34

「気仙沼ブランドとなった幻の蟹『まるずわいがに』」

- 当社は、船舶石油販売業を始めとして、水産に関する事業を多数営んでいる。
- 気仙沼では三陸沖で獲れたサンマやカツオなどの食品加工を行っていたが、競争が多く価格競争が厳しいため、気仙沼ならではの付加価値のある商品の開発を目指し、自社を含め2社しか漁獲していない「まるずわいがに」に着目し、高付加価値商品の「かに物語」を開発した。
- 東日本大震災後、最初の仮設商店街にて「まるずわいがに」の販売とレストランを運営したほか、卸先としてシェアが最も高いテレビ通販の実施に向けて、有名なシェフとコラボし、新しい商品開発を進めていった。「まるずわいがに」は2013年に気仙沼市の地域資源に認定され、新たにビスクなどのスープや総菜加工にも取り組んできた。
- 2013年からは、まるずわいがにの缶詰製造にも取り組み、かにみそと和えた「ずわいがにかにみそ缶詰」はBtoB・BtoC共に好評であるほか、保存期間が延びたことで海外輸出等の販路拡大にもつながっている。

【会社概要】

- 名称: 株式会社カネダイ
- 設立: 1955年
- 代表者: 佐藤 亮輔
- 所在地: 宮城県気仙沼市川口町1-100
- 事業内容
  - ◆ 漁業(マグロ、カニ等)、廻来船問屋業
  - ◆ 水産物の加工、販売
  - ◆ 船舶への燃料補給、陸上石油、プロパンガス、ガス機器の販売



まるずわいがにを使用した「かに物語」シリーズ



出所: 当社HPおよびかに物語HP等より作成 35

三陸フィッシュペースト株式会社

「蒲鉾屋同士が協業し新しい蒲鉾の可能性と価値を追求」

- 当社は、100年以上続く老舗の蒲鉾店である、株式会社及善商店(南三陸町)および株式会社かねせん(気仙沼市)の経営者によって2017年に設立された。経営者それぞれが東北未来創造イニシアティブが主催する「経営未来塾」に参加したことが縁となり、自社のみで解決できない課題を協業の上取り組んでいる。
- 当社では、蒲鉾の悩みである賞味期限が短いことや冷蔵保存が必須であることを解決するため、加圧加熱殺菌技術により、風味を損ねずに常温での長期保存を可能とした「旅するかまぼこ」や、長期保存を可能としながらかまぼこにホタテを丸ごと2個乗せた「ほたての」を2019年に製造・販売した。
- 2020年には、南三陸で有名なたこ蒲鉾の技術や想いを詰め込んだ、高タンパク・グルテンフリー・無添加のたこ焼き「BBタコB (Beautiful Body Tako Ball)」を発売したほか、食べられる魚肉ルアー「#ぷるかまんシャッド」「#ぷるかまんシート」の開発・販売を進め、蒲鉾業界から食産業や釣り業界にその領域を拡げている。

【会社概要】

- 名称: 三陸フィッシュペースト株式会社
- 設立: 2017年
- 代表者: 及川 善弥(及善商店専務)  
齋藤 大悟(かねせん代表)
- 所在地: 宮城県気仙沼市松崎前浜36番地1-1
- 事業内容
  - ◆ 長期保存可能な蒲鉾の製造・販売
  - ◆ 蒲鉾製造技術を活かした食品・釣り餌の製造・販売



既存のたこ焼きを変える逸品



出所: 当社HP・Facebookページ等より作成

常温保存で製造日から180日の賞味期限を持つ

食べられる魚肉ルアー

## 「サメの街が紡いだ高付加価値なサメ皮製品のものがたり」

- 代表者の熊谷牧子氏は、1997年からサメ関連商品を取り扱う会社でサメグッズの製作・販売などを担当していたが、東日本大震災により同社が営業不可能となってしまった。その中で、熊谷氏に対して復興商店街での出店打診があり、顧客からの購入要望もあったことから、創業を決意し、サメの皮を加工した商品の開発・製造や、サメ関連商品の販売を行っている。
- 気仙沼市では、有名な「フカヒレ」を含め、サメを肉・骨・皮まで余すことなく活用可能な体制が整っており、国内のサメの水揚げのほとんどが気仙沼港となっている。
- 当社の商品は、気仙沼市で水揚げされたヨシキリザメの皮を栃木県の工場でなめし、気仙沼市等で加工している。500種類のサメの中で革として利用できるのはわずか20種類であり、加工難易度が高く、上級の革はなめし上がりの3～5割に限られるなど、稀少性が高い。また、サメ革は強度が高く、長年使用しても型崩れがなく、撥水性にも優れる高付加価値を有している。
- 2018年には気仙沼の内湾地区に新設された「ムカエル(迎)」に店舗を移転し、地域と観光客とサメを結ぶ役割を果たしながら、地域内外の事業者とコラボした商品開発にも積極的に取り組んでいる。

## 【会社概要】

- 名称:株式会社シャークス
- 設立:2011年
- 代表者:熊谷 牧子
- 所在地:宮城県気仙沼市南町海岸1-14内湾商業施設ムカエル1F
- 事業内容
  - ◆ サメ関連商品製造・販売



出所: 当社HP等より作成 37

## 有限会社たかはし

## 「京染悉皆屋の経験を生かした着物専用肌着の開発・販売」

- 当社は、呉服の販売・悉皆を主たる事業としていたが、普段から気軽に着物に身につけられるよう、利用者のことを一番に考え、型に縛られない和装肌着および関連グッズを製造する、着物専門の肌着メーカーとして成長を続けている。
- 販売チャネルにおいても、自社サイトなどEC販売を拡大し、利用者に対する細やかな情報を入れこんだ販売サイトには、多くのリピート購入を生んでいる。
- 試着会や販売会などを通じて、着物に関する悩みをユーザーから直接聞くことや、購入者からの声を活かして商品の改良を重ね、現在では80種類以上のオリジナル商品を販売している。
- 2020年度には、ホワイト企業大賞特別賞を受賞したほか、2021年春に自社の製造工場を新設する予定としている。

## 【会社概要】

- 名称:有限会社たかはし
- 設立:1967年
- 代表者:高橋 和江
- 所在地:宮城県気仙沼市神山12-18
- 事業内容
  - ◆ 和装肌着・和装小物製造卸
  - ◆ 京染取り次ぎ、呉服、和装小物に関わる全般、雑貨、陶器などの販売



うそつき袖



うそつき衿



空芯芯【帯枕】

満点スリッブエクストラ【和装肌着】  
汗を通さない素材で内側から防水することで「着物に汗が染みない」を実現

出所: 当社HPおよび販売サイト等より作成

「先進技術・再生可能エネルギーを活用したトマト・パプリカ栽培」

- 当社代表者の鈴木嘉悦郎氏は、もともと兼業農家であったが、東日本大震災で田んぼが流され、その後塩害が懸念されたため、稲作の再開を断念せざるを得ない状態であった。
- こうした中、震災後に復興支援で来日していたオランダの事業者を通じて、オランダの施設園芸に触れる機会があり、そこで施設園芸に興味を持った。沿岸部石巻の豊富な日射量が施設園芸へ有効活用できるとわかり、オランダ型の大規模施設園芸の取り組みを決め当社を設立した。
- 石巻地区の特産品であったトマトについては、オランダ式の先進的栽培技術の導入することで品質だけでなく、収量を向上させることができた。また、再生可能エネルギーの利用により持続可能な栽培を行っている。
- また従業員についても、ほとんどが石巻市(半分が旧北上町)在住であり、被災地の雇用創出の役割も果たしている。

【会社概要】

- 名称: 株式会社デ・リーフデ北上
- 設立: 2014年
- 代表者: 鈴木 嘉悦郎
- 所在地: 宮城県石巻市北上町橋浦  
北釜谷崎226
- 事業内容
  - ◆ 再生可能なエネルギーを使用した  
トマトとパプリカの生産および販売



出所: 当社HP等より作成 39

株式会社菅原工業

「復旧復興と共に歩み、インドネシアと地域を繋げる建設会社」

- 当社は、水道工事を中心に成長する中、道路舗装工事を強みとする会社で経験を積んだ代表取締役専務の菅原渉氏がUターンし、道路工事等の事業にも積極的に取り組み始めた後に東日本大震災を迎えた。
- 津波により全壊しダンプカー1台が残された中、がれき撤去に取り組み、その後災害復旧の道路工事や防潮堤工事に取り組み、規模拡大を進めてきた。その中で、東北未来創造イニシアティブにより、復興期を引っ張るリーダー育成を目的に始まった人材育成道場「経営未来塾」の2期生(2014年)として参加し、国内の道路工事の技術で世界を相手にするアドバイスを受け、気仙沼では技能実習生や漁船乗組員として関わるインドネシア人を技能実習生として受け入れ、実習期間終了後にインドネシアで仕事ができるように構想した。
- 2015年には技能実習生を受け入れ、インドネシアでの事業可能性を探り、2017年にはリサイクルアスファルトの製造・施工を行う現地合弁会社「PT SUGAWARA KOGYO INDONESIA」を設立し、同年にリサイクルアスファルトの工場を建設した。2018年からはインドネシア国内での舗装工事に採用され、同国で課題となる劣悪な道路環境の改善に取り組んでいる。
- また、市内に在住するインドネシア人が礼拝する施設がなく、仙台まで足を運んでいることを知り、子会社を設立の上、2019年に開業したトレーラー屋台村「みしおね横丁」内に礼拝施設を設置するとともに、併設してインドネシア料理店「Warung Mahal」を出店した。

【会社概要】

- 名称: 株式会社菅原工業  菅原工業株式会社
- 設立: 1980年(創業: 1965年)
- 代表者: 菅原寛、菅原渉
- 所在地: 宮城県気仙沼市赤岩迎前田132
- 事業内容
  - ◆ 工事業: 土木一式・舗装・管・水道施設
  - ◆ 運送業、産廃運搬業、採石業等



リサイクルアスファルト工場

出所: 当社HP・Facebookページ等より作成

職人技で手早い工事

礼拝施設 & Warung Mahal

## 「被災の経験を生かした本当に必要とされている備蓄食の開発」

- 当社は、東日本大震災において経験した多くの教訓をもとに、防災の面でその経験を生かす取組みを事業として開始した。
- 具体的には、水を必要とする備蓄食が多かったことや、食器が洗えないことによる衛生面の悪化の問題を解決するため、水を必要としない備蓄食の開発にJAXA(宇宙航空研究開発機構)と共同で取り組み、ゼリー型の備蓄食「LIFE STOCK」を開発した。
- 特徴としては、水を必要とせずに簡単に食べることができ、栄養の偏りを解決できるよう栄養バランスにも考慮した商品を開発した。また、新しい充填技術「TOKINAX」を開発し、備蓄食の代表である乾パンと同じ賞味期限5年を実現することで、賞味期限が短い点を解決した。
- 商品開発にあたっては、「参加型備蓄食」をテーマとして、地域の人々や他地域のシェフ・大企業を巻き込んだ開発を行うことで、地域関係者の防災の意識が高まり、モチベーションアップや企業の社会貢献にもつながっている。

## 【会社概要】

- 名称: 株式会社ワンテーブル
- 設立: 2016年
- 代表者: 島田 昌幸
- 所在地: 宮城県多賀城市八幡字一本柳117-8
- 事業内容
  - ◆ 都市型農業の開発・コンサルティング
  - ◆ 地域風土の再生・プロデュース
  - ◆ 備蓄用食品の開発(LIFE STOCK)
  - ◆ 非常用発電対応ソリューション



出所: 当社HP等より作成 41

## 株式会社アイローカル『三陸石鹸工房KURIYA』

## 「三陸の恵みを世界を席巻する石鹸に」

- 当社は、宮城県女川町で海藻や米ぬか、シルクや蜂蜜を原料とした石鹸をつくる「三陸石鹸工房KURIYA」を営む。チョコレートのような見た目のキューブ型の石鹸は、ギフトや結婚式の引き出物としても好評である。
- 代表の厨勝義氏は東日本大震災後、宮城県出身の友人の誘いで南三陸町の支援に携わり、その後地域の人手不足を感じて2011年に移住した。復興の進展に伴い、起業支援やコワーキング設立にも関わる中、事業の担い手を地域内で確保・育成することの限界を感じる。こうした中、自ら挑戦する道を選び、仮設住宅でのワークショップで触れた手作り石鹸に可能性を感じ、2015年に古民家を借りて試作を行い、2016年から女川駅前の仮設商店街に移転して製造・販売に取り組んでいる。
- 石鹸事業については、他地域の漁協で特産品を使った石鹸が1億円以上の売上があることや、国内最王手では150億円の年商があること、南三陸町では廃油を活用した石鹸を漁協の婦人部が作っていたエピソードから、事業として取り組んでいくことを決断し、2018年にはクラウドファンディング等による資金調達により、洗顔用石鹸の開発に取り組んだ。

## 【会社概要】

- 名称: 株式会社アイローカル
- 設立: 2014年
- 代表者: 厨 勝義
- 所在地: 宮城県牡鹿郡女川町女川2-60  
シーパルピア女川A-6
- 事業内容
  - ◆ 海藻など地産の素材を活用した手作りせっけんの製造・販売



出所: 当社Facebookページ等より作成

「正解より別解から新たな価値を創出するシンク&アクトタンク」

- 当社では、2019年に今までの仕事の枠組みを取っ払い、「東北をおもしろく」するため、社内組織として「ロッケン研究所」を立ち上げ、皆が笑顔になったり、多くの人が興味や関心を抱いたりすることで、東北の資源や価値を享受できるような東北の明日や未来を拓くシンク&アクトタンクを目指している。前提を疑い、正解よりも別解を生み出すことにより新たな価値を創出することを、当社のミッションとしている。
- 東北と酒を題材に、酒がもたらす効能を各県の祭り・人物・歴史的な背景等で分類して新たな県民性を探る調査や、宮城大学の学生と次世代の飲んでいない世代と一緒に酒の価値づくりの共同検討、コロナ禍における東北の意識・行動変化と東京との違いの調査、東北らしいニューノーマルの開発のほか、吉本興業との「笑いをきかせたお野菜」を商品化するなど、新たな価値・アイデアの創出に取り組んでいる。

【団体概要】

- 名称: ロッケン研究所(東北6県研究所)
- 設立: 2019年
- 代表者: 加勇田亮二
- 所在地: 宮城県仙台市青葉区一番町四丁目1番25号 東二番丁スクエア12F
- 活動内容
  - ◆ 東北6県を多角的に見つめ、因数分解し、内在するエッセンスを抽出することによる新たなビジネス・コンテンツの開発・発信

郷の竹うち (対決文化)、理美容室の鼓、川反、宵  
 帰属と開放の民  
 たない、砂糖入れたがり、選挙好き (投票率2  
 秋田犬、精肉店5位→肉食、パ  
 秋田県  
 的な性格、さりたんぼ、  
 自  
 殺率高い、スマホ (内)  
 イブイン・道の駅多い、  
 なべっこ遠足、夕日、稲庭うどん、ハタ、男鹿半島、佐々木希、加  
 藤夏希、藤あやこ、榎室、(七太)  
 原基 (BUMP OF CHICKEN)、高橋優、  
 不器用な番長  
 榎庭和志、落合満博、山田久志、小林多喜二、小倉智昭  
 飲酒、酒豪、六郷の竹うち (対決文化)、理美容室の鼓、川反、宵  
 越しの金は持たない、砂糖入れたがり、選挙好き (投票率2  
 位  
 一にも二にも、仲間想い。それゆえに、  
 半径1m以内に入ってくるよそ者への敵対心が強い。  
 その一方で、コミュニケーション大好き (社会的) な部分も。  
 自分の見せ方を理解しており、さまざまな分野で  
 全国区の認知・ブランドを確立している。

Future Tohoku  
 未来の東北  
 未来の東北  
 未来の東北  
 未来の東北



出所: 当団体作成資料等より作成

「生業景～地域に根付く『地技』を背景から掘り起こす～」

- 東北工業大学大学院大沼教授(ライフデザイン学研究科)を中心に立ち上がった生業景デザイン研究所では、地域に根ざしたものづくり・建築・周辺景観の統合デザインについて共同研究を進め、地域資源の価値となる地技にフォーカスしながら、それを発展・継承し、地域の景観醸成につなげることを目指している。
- JST(科学技術振興機構)から研究助成(2016～2019年)により、コアトリエ(生業を共創するような様態)を取材する研究を立ち上げ、『住み継がれる集落をつくる』の出版も行った。当該研究では、「この地に技ありプロジェクト」として取り組み、文化的景観・産業遺産・伝統工芸品等について、場所に価値・焦点を当て、情報を集め、地域資源を再発掘するワークショップツール「地域資源クエスト」を開発した。
- この中で、研究を通じた共創のスタイルの類型化や地域資源の背景となるつながりが価値増幅・持続性確保に寄与すると考え、「生業景」という概念を定義して、事例を公表している。

【団体概要】

- 名称: 生業景デザイン研究所
- 設立: 2016年
- 代表者: 大沼 正寛
- 所在地: 宮城県仙台市太白区二ツ沢6番
- 活動内容
  - ◆ 地域資源や環境を活かして価値を生み出す「地技」を用いた生業がおりなす地域固有の景観の研究・デザイン協力



出所: 当団体作成資料等より作成

# 株式会社オノデラコーポレーション『アンカーコーヒー』 「前に進む心とコーヒーが拓げる多様な空間づくりへの挑戦」

地域資源

宮城県

- 当社は1997年の創業当時、遠洋マグロ漁船へのエンジンパーツ等の販売から事業を始め、漁労資材の輸入・販売、三陸産サンマ・サバ等の海外輸出、アジ・イカ・イワシ・エビなどの輸入・販売に取り組んでいる。
- また、当社は、2005年にコーヒー事業部を立ち上げている。専務の小野寺靖忠氏がアメリカで過ごした際に味わったカフェラテのある生活を「ないものは自分でつくろう」とドライブスルー店舗としてスタートした。
- 震災当時は5店舗のうち、市内2店舗が全壊した。市内唯一の珈琲焙煎工房を失ったが、市外3店舗を活用して市内在住者の雇用を維持し、クラウドファンディング等で設備資金の調達にも取り組みながら、同年に市内の仮設商店街にプレハブ店舗をオープンした。2015年には、本社・店舗・工房を再建した。
- 専務が前向きに取り組む中で縁が拓がり、復興の歩みとともに、女川町内のモール内店舗、楽天スタジアムにおけるオープンテラス店舗、仙台市内の病院前店舗等の様々な立地での店舗展開や、いわての蔵ビールを醸造する世嬉の一酒造と連携した岩手県平泉町内でのコラボ店舗など、多様な形態にも挑戦している。また、ほぼ日イトイ新聞とコラボしたカップオンコーヒーの開発にも取り組んでいる。
- 2020年には、コロナ禍で飲食店が苦境に立たされる中、テイクアウトの強化や、ECサイトを活用したコーヒーやスイーツの販売も強化しており、新たな挑戦に心を燃やし続けている。

## 【会社概要】

- 名称：株式会社オノデラコーポレーション
- 設立：1997年
- 代表者：小野寺 忠夫
- 所在地：宮城県気仙沼市舘山1-6-31
- 事業内容
  - ◆ オーシャン事業部：冷凍水産物の輸出入および漁業用飼料や漁具の販売など
  - ◆ コーヒー事業部：コーヒーショップ、CAFEの経営及び自家焙煎珈琲豆や関連商品の販売など



出所：当社HP等より作成

自家焙煎する様々なコーヒー

震災後新たな店舗・空間づくりに挑戦

45

# 株式会社門間筆筒店

## 「時代を越えて本物の技と伝統美そして生活文化の伝承」

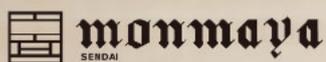
地域資源

宮城県

- 代表の門間氏は、明治時代より続く仙台筆筒製造会社の7代目であり、学卒後、大手広告会社に就職するも、2011年の東日本大震災後、実父の逝去に伴い、家業を承継する。
- 事業承継後は、それまでの「仙台筆筒」の伝統を守りながらも、新たな商品を次々と開発し、販路を国内のみならず海外の市場にも広げ、積極的に展開している。
- 以前は、自社に専門の職人を抱えて製造から販売まで行う仙台筆筒専門店であったが、無垢材のオーダー家具をラインアップに加え、広告出稿も行い、家具やインテリアに興味のある若年層にも好まれる商品を開発した。これにより、将来的に仙台筆筒に興味を持ってもらえる様な客層の獲得につながった。
- また、若手のデザイナーを起用のうえ、屋号のロゴマークを一新し、昔ながらの工法を生かしつつも現代の暮らしになじむスタイリッシュな製品作り（「monmaya+（モンマヤ プラス）」）を開始した。近年は、海外展開を積極的に進め、現在では香港と上海に直営店を持つまでに成長した。
- “仙台筆筒、そして、日本の職人仕事を通して世界中に豊かさと感動を創出する”を企業理念として、江戸時代から続く地元の伝統産業だけでなく日本の職人仕事を守るため、家具そして、工芸品等の販売における新たな展開を模索し続けている。

## 【会社概要】

- 名称：株式会社門間筆筒店
- 設立：1872年
- 代表者：門間 一泰
- 所在地：宮城県仙台市若林区南鍛冶町143
- 事業内容
  - ◆ 仙台筆筒及び家具等の製造、販売、輸出



出所：当社HP等より作成

46

# 株式会社こしき

## 「伝統の技法と新たな挑戦」

地域資源

宮城県

- 代表者の櫻井尚道氏は、学卒後、建築関係の仕事に従事した上で、2015年4月父に弟子入りをした。櫻井氏は江戸時代から続く木地師の家系の6代目、多様な型の伝統こけし・木地雛・創作こけしの制作を行っている。
- 当社は、植林事業、桜井こけし店の運営(こけしの製作、販売)、こけし堂の運営(ギャラリー、コミュニティスペース)、カフェの運営を行っている。
- また、当社では、フランス・パリのデザイン見本市「メゾン・エ・オブジェ」に3度の出展、商品展示会「ててて見本市」に5度の出展等を行っているほか、海外の市場調査によるニーズ把握により、Reflectionsを製作するなど、海外展開に力を入れている。
- 今後も、伝統こけしを広く世界に知ってもらうため、伝統的な技法を残しつつ、海外のニーズに即した個性豊かで新しい作品作りへと挑戦していこうと考えている。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社 こしき
- 設立: 2017年
- 代表者: 櫻井 尚道
- 所在地: 宮城県大崎市鳴子温泉字湯元26-9 こけし堂
- 事業内容
  - ◆ こけしの開発・販売・海外展開
  - ◆ 鳴子観光プログラムの提供
  - ◆ カフェ・ギャラリーの運営



出所: 当社HP等より作成

47

# 株式会社秋田まるごと加工

## 「北限の秋田ふぐのブランド化を通じた町おこし」

地域資源

秋田県

- 当社は、秋田県のふぐを使用した製品の製造・加工・販売を行っている。
- 秋田港のある土崎のふぐは、北緯40度の冷たい日本海で育ち、肉質が引き締まった美味しいふぐの隠れた名産地であるが、全国への知名度が少なく、PRに課題を感じていた。
- そこで、当時の秋田県知事に地元のふぐを「北限のふぐ」と命名してもらい、当社自ら「土崎のふぐまつり」を開催し、PRを行っている。当該ふぐまつりでは、地域の他の飲食店も巻き込んで参加を呼びかけ、イベント時に各店舗共通のお得なメニューの他、各店舗オリジナルの限定メニューの提供を行っている。
- また、秋田信用金庫や秋田市が出資している「あきた創業サポートファンド」から隠れた名産地と評判の「北限のふぐ」を全国展開していくにあたり、さらなる新商品開発、販路拡大を図ることを目的として投資を受け、町おこしのために、地元のふぐのブランド化に取り組んでいる。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社秋田まるごと加工
- 設立: 2017年
- 代表者: 畑中 雄也
- 所在地: 秋田市土崎港北5丁目5-42
- 事業内容
  - ◆ 水産加工品の製造および販売



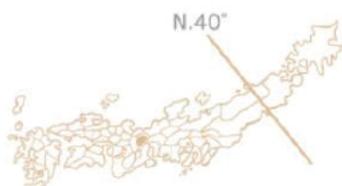
ふぐのお刺身セット



ふぐ鍋セット



ふぐのお刺身と鍋セット



出所: 当社HP等より作成



北限のたらふぐアヒージョ



北限のたらふぐ煮凝り



北限のたらふぐ白子入り玉子豆腐

ふぐの加工品

48

# あきた白神農業協同組合・農事組合法人轟ネオファーム 「園芸メガ団地による白神ねぎの生産」

地域資源

秋田県

- 秋田県は稲作依存度が高く、米価の下落がそのまま県農業に大きな影響を与えていたため、米依存から脱却し、収益性の高い農業構造への転換を目指していたが、これまでの取り組みでは限界があった。そこで「園芸メガ団地」と呼ばれる大規模経営による園芸経営体の育成・連携による産地化を目指した。
- JAあきた白神では、秋田県の事業を活用し、白神の名を冠した戦略作物のうち、白神ねぎを取り組み対象として定め、「園芸メガ団地」の生産者を募り、(農)轟ネオファームを含めた4事業者が参加することとなった。
- JAが事業主体となり、施設や機械をリースする形を取ることで、営農者の費用負担を軽減し、参入を促進している。また、事業計画の策定段階からフォローアップ支援に至るまで、熟練者から初心者へのノウハウの共有を図っている。
- 様々な地域の事業者が営農者として参加することで、多様な作型につながり、地域の雇用に貢献している。

## 【組合概要】

- 名称: あきた白神農業協同組合
- 設立: 1998年
- 代表者: 佐藤 謙悦
- 所在地: 秋田県能代市富町2番3号
- 事業内容
  - ◆ 信用・共済・販売・購買事業



## 【組合概要】

- 名称: 農事組合法人轟ネオファーム
- 設立: 2015年
- 代表者: 高橋 裕
- 所在地: 秋田県能代市字轟68番地2
- 事業内容
  - ◆ 農作物の栽培(大豆、ねぎ、水稻、山うど)



出所: 農林水産省HP等より作成

## NEXT 5

地域資源

秋田県

# 「秋田の素材と技を組み合わせた新たな共同醸造のカタチ」

- NEXT5は、2010年に秋田県内の五蔵の蔵元技術者の交流と向上を目的に発足した。各蔵が集合し、自慢の秋田県の素材(酒米・仕込み水・酵母・人)にこだわり、毎回テーマを変えて醸した後、業界外の様々な人とのコラボにより、共同で醸造酒を製造・販売している。
- 初年度の2010年はホスト蔵が新政酒造となり、始まりの合図「The Beginning」を製造(NEXTFIVEのマークも同時にデザイン)したところ、完売となった。元々は情報交換による技術交流を予定していたが、一緒に1本作った方が早いと考え、共同醸造を行うに至った。
- また、2011年には、東日本大震災の復興に向けて地域を応援するため、秋田醸造がホスト蔵となり、被災した酒蔵の状況を共有するチャリティイベントを開催するなどの工夫を凝らしつつ、チャリティ酒「PASSION」を製造・販売している。
- さらに、2020年にはピエールエルメ氏がローズ・ライチ・フランボワーズを組み合わせた「イスパハン」のケーキを製作し、それに合う貴醸酒「Ispahan」を山本酒造店をホスト蔵として五蔵の素材や技を組み合わせて醸造するなど、他ジャンルとのコラボによる商品開発も行っている。

## 【団体概要】

- 名称: NEXT5
- 設立: 2010年
- 構成蔵元・所在地
  - 新政酒造株式会社(秋田市大町)
  - 秋田醸造株式会社(檜山登町)
  - 合名会社栗林酒造店(美郷町)
  - 福祿寿酒造株式会社(五城目町)
  - 株式会社山本酒造店(八峰町)
- 活動内容
  - ◆ 醸造技術の交流・共有
  - ◆ 共同醸造酒の製造・販売



出所: 当団体HPより作成



出所: ピエールエルメHP

©三輪卓護

# 株式会社花火創造企業

地域資源

秋田県

## 「花火のまちから花火産業の拡がりをつくる」

- 当社は、2014年に大仙市・大曲商工会議所・大仙市商工会によって策定された花火産業構想に基づき、花火製造・打上げ技術を基盤とする新たな花火生産拠点とするために設立された。2017年には新工場が完成し、本格的に製造した花火を国内外に提供することを目指している。
- 当社においては、錦冠菊(にしきかむろがく)という金色の枝垂れ柳の量産化に適した5号以下のサイズのみを製造・販売している。これにより、他社はそれ以外の花火の製造や質の向上に取り組むことができる。
- また、当社は「花火演出プロデュース」という新たなビジネスモデルを確立するために、イベントサポートや企画・演出の提案を行っているほか、2018年には、中小企業庁の補助事業により「花火打上無線点火システム」や「花火打上シミュレーションソフト」の開発・販売にも取り組んでいる。
- なお、日本と世界では花火のあり方が根本的に異なり、一発の質にこだわる日本と比べ、海外は音楽に合わせた大量打ち上げとなっている。機材・ソフトウェアは外国製のものが主流であるため、国産のものを改良することで国内外に販路を広げ、花火産業の新たな雇用を生み出していきたいと考えている。
- 花火大会の実施だけでなく、修学旅行の学生向けの花火の製作体験・学生自身で演出を考案した花火の打上げ体験プログラムの提供など、観光活性化の面でも活動の幅を広げている。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社花火創造企業
- 設立: 2015年
- 代表者: 小松 忠信
- 所在地: 秋田県大仙市内小友字山根89番地31
- 事業内容
  - ◆ 花火製造
  - ◆ 花火大会等開催に関するイベントサポート、花火の企画・演出提案



出所：当社HP等より作成



51

# 有限会社柴田慶信商店

地域資源

秋田県

## 「時を超え世界中の技術が紡がれた曲げ物づくり」

- 当社は、先代の柴田慶信氏が1964年から曲げ輪を独学で学び1966年に創業し、樹齢150年以上の天然杉を用いた大館曲げわっぱの製造・販売を行っている。吸湿性に優れた白木の曲げわっぱは、ご飯のおいしさを引き出し、傷みにくくする効果があり、天然杉の美しい木目と素材の良さを活かす姿勢は世代を超えて多くの人に支持されている。
- 現代表の柴田昌正氏は大学卒業後2年の会社勤めを経て帰郷、1998年から慶信氏に弟子入りし、独学で学んだ先代と同様、先代の背中と自身の試行錯誤を通じて技術を承継し、2012年に代表に就任した。
- 自社の技術を消費者に伝えることで作り手の価値を向上していけるよう、先代が実演販売で信頼を積み重ねてきた日本橋三越本店で2009年に常設店舗を、2010年には自社店舗を浅草に構えるに至っている。
- また、2018年には、大館駅前のビルを自社で購入してリノベーションを行い、伝統×食×交流の3つの機能を持つにぎわい創出の場「わっぱビルヂング」をオープンした。当ビルには、曲げわっぱ体験や世界の曲げ物に触れ合える自社店舗を構えるほか、「いいもの」「いいこと」を発信するカフェ・クリエイティブな活動を支えるシェアオフィス・コワーキングスペース・コミュニティサロンが入居している。

### 【会社概要】

- 名称: 有限会社柴田慶信商店
- 設立: 1966年
- 代表者: 柴田 昌正
- 所在地: 秋田県大館市御成町2丁目15-28
- 事業内容
  - ◆ 天然杉を使用した伝統的工芸品大館曲げわっぱの製造販売



出所：当社HP等より作成

52

## 秋田佃煮若旦那衆smelt

### 「秋田佃煮やわかさぎを未来に楽しく繋げていく若手経営者の挑戦」

- 当団体の名称であるsmelt(スメルト)は佃煮での定番である「ワカサギ」を意味し、将来に向けて秋田の佃煮を作り続けるべく、佃煮の味・技・価値の情報発信やコラボ商品の開発を行う形で、企業の枠を超えて協業する活動を行っている。構成企業・メンバーは、佐藤食品(株)(佐藤賢一代表)、(株)菅英佃煮本舗(菅原英信代表)、(株)千田佐市商店(千田浩太取締役)の20~40代の若手経営者3名となる。
- 秋田県の補助金を活用し、専門家と連携しながら佃煮の認知度向上に取り組み、古くから続く文化である佃煮×新たな商品づくりにも取り組む。2020年には3社のつくだ煮を一度に味わえるコラボ商品「え？辛いジャン！」を開発・販売している。メンバー3人では、他分野の食品・商品を佃煮で表現できないかとアイデアのインスピレーションを得ながら自社またはコラボにより試行錯誤を続けている。
- また、SNSの活用や、Youtubeでの情報発信など、3人で協力して、互いの商品や企業のPR、八郎湯やわかさぎなどの情報発信にも楽しみながら取り組んでいる。

#### 【団体概要】

- 名称: 秋田佃煮若旦那衆smelt
- 設立: 2019年
- 代表者: 佐藤 賢一
- 所在地: 秋田県潟上市
- 活動内容
  - ◆ 秋田県の伝統特産品「佃煮」の味・技・価値に関する情報発信および商品開発・販売



出所: 当団体HP等より作成 53

## 福祿寿酒造株式会社

### 「地域の素材と対話する商品づくりと地域全体を醸し楽しむ場の創出」

- 当社は、地の米・地の水・地の人をモットーに、飲む方も作り手も心から愉しめる酒づくりを目指し、手しごとを柱に想いを込めて醸す、創業330年を超える酒蔵である。
- 代表の16代目蔵元である渡邊康衛氏は、大学卒業後に帰郷し、2001年に入社した。当時醸造するほとんどが普通酒であり、美味しい酒をつくるために試行錯誤する中で、水と麴を中心に見据えるようになった。
- 蔵の地下から湧き出る中硬水を使い、五城目の杉で作られた室で作られた麴、五城目町酒米研究会によって質を高めてきた酒米、麴の量に合わせた醸造タンクのサイズダウンなど、酒造りを一から組み立て、東京の小山商店との縁により、丁寧で贅沢な製法による醸造によって生まれたのが「一白水成」となる。
- 地域の地勢・文化等と酒造りは深く関連しており、2018年にはそれらを包括的に楽しむための場所「下夕町醸し室 HIKOBE(したまちかもしむろ ひこべえ)」をオープンさせている。
- 当施設は“日本酒を醸す風景に埋め込まれた歴史と文化を継承し、この町らしい未来の風景を発信する地域拠点にすること”をコンセプトに、自社商品等の販売やカフェスペースのほか、イベント等も開催しており、旅行者・地域の人など区別なく、多様な人が集う場となっている。また、自社だけではなく、五城目のこだわりの商品や技術を感じることができる空間となっており、地域そのものを楽しめる工夫が施されている。

#### 【会社概要】

- 名称: 福祿寿酒造株式会社
- 設立: 1688年
- 代表者: 渡邊 康衛
- 所在地: 秋田県南秋田郡五城目町 字下夕町48番地
- 事業内容
  - ◆ 清酒製造・販売



出所: 当社HP等より作成

「大規模トマト団地の整備による米依存経営からの脱却」

- 当組合は、米の取扱量が日本一であったが、その反面、米への依存度が高いことが課題として挙げられていた。
- そこで、当組合では、米依存経営から脱却するため、秋田県の事業を活用し、「中仙中央園芸メガ団地」(延べ面積6ha、ハウス104棟)を建設のうえ、リース方式により、生産者である(農)下黒土アグリおよび(農)上黒土の2法人へ施設を貸与した。
- 当該メガ団地では、特許技術である「全農ういずONEシステム(簡易溶液栽培システム)」を活用し、トマトを栽培しているほか、規格外のトマトについては加工等の6次産業化を計画している。また、先進的な栽培技術の提供や、JAの本業である販売支援等の生産に関わるワンストップの支援サービスを実施している。
- 大規模な農業設備を保有することはリスクが高い。そのリスクをJAが負うことで生産者の参入を促し、一定量の収穫を確保しながら、ブランド化を図ることとしている。今後も、大規模経営モデルとしての実行・検証を進めていきたいと考えている。

【組織概要】

- 名称: 秋田おばこ農業協同組合
- 設立: 1998年
- 代表者: 小原 正彦
- 所在地: 秋田県大仙市佐野町5-5
- 事業内容
  - ◆ 農政・営農指導
  - ◆ 農畜産物販売
  - ◆ 農業生産に必要な飼料・肥料・農薬等の提供



全農ういずONEシステム



出所: 秋田県農業公社HPおよび当組合HP等より作成55

株式会社ひろまる食品工房

「男鹿市の地域資源を掘り起こし循環型社会を目指す」

- 当社は、男鹿市の海産物を使用した水産加工品を製造・販売するほか、佃煮のイカあられ製造に関する中間材の製造、市内事業者の社員食堂の運営を行っている。
- 代表の竹谷一広氏は大学卒業後静岡県で働き、市内で実父が経営する食堂「省吾」を手伝うためにUターンし、1999年に事業を承継した。経済環境の変化で食堂は低迷していたが、市内の事業者や行政の食堂を運営しながら、新たに加工事業に取り組みようと、2013年から地域資源を活用した商品づくりに取り組んでいる。
- 男鹿市には、季節の変化により様々な魚種が上がるため、加工商品の安定供給が難しい状況にあった。こうした中、地元の佃煮組合から、地元特産品の原料供給先の事業者が廃業するため、当社に対し原料製造の依頼があり、試行錯誤のうえ要求水準に応えた結果、売上の安定化を図ることができた。
- 現在は、糖尿病に効果のある菊芋の栽培を市内で開始し、海外展開も含めた商品化を行うほか、菊芋の栽培や加工について高齢者や障害者との農福連携を図るなど、市内の循環型社会づくりにも取り組む。

【会社概要】

- 名称: 株式会社ひろまる食品工房
- 代表者: 竹谷 一広
- 設立: 2013年
- 所在地: 秋田県男鹿市船川港船川字片田71-26
- 事業内容
  - ◆ 水産加工品等の製造販売
  - ◆ 秋田県佃煮組合への中間加工原料の製造
  - ◆ 菊芋の栽培・生産・加工・販売
  - ◆ 市内社員食堂の運営



出所: 当社HP等より作成

# 大潟村松橋ファーム

地域資源

秋田県

## 「食べる人とつくる人の関係を作る農業」

- 当ファームは、大潟で家族経営の農業を営む農家であったが、単に売って終わりの関係ではなく、「人と人が繋がる農業」をコンセプトに、農業を通じたコミュニティ作りを目指している。
- 当ファームでは、食べる人とつくる人が互いに顔が見える関係を作るべく、対面販売や種から日本酒をつくるプロジェクト等を実施し、顧客との関係性を築いている。
- 種から日本酒をつくる「農家がつくる日本酒プロジェクト」では、米作りとプロジェクト運営を大潟村松橋ファームが、酒造りを近隣の五城目町にある酒蔵が、販売・発送を地元の酒屋が担当するなど、地元の企業が連携してプロジェクトを運営しており、2021年には9年目を迎える取組みとなる。
- また、「コロッケへの道」プロジェクトでは、実際に店頭に並ぶコロッケの材料としてのジャガイモがどのような過程を経て成長するのかを農作業を通じて体験するプログラムとしている点が特徴と言える。

### 【会社概要】

- 名称:大潟村松橋ファーム
- 創業:1970年
- 代表者:松橋 稔
- 所在地:秋田県南秋田郡大潟村東2-3-11
- 事業内容
  - ◆ 農作物の栽培、販売
  - ◆ 農業体験等イベントの開催



出所: 当社HP等より作成 57

# ヤマガタデザイン株式会社

地域資源

山形県

## 「地域の魅力をプロデュースし、世界からの目的地となる」

- 当社は、山形県鶴岡市で地域が持続・自走する仕組みを創出するために、地域全体の課題を事業としてデザインし、解決するための取組みを行っている。
- 具体的には、日本人にとっての原風景、田んぼの美しさを体感してもらうために、世界的に有名な建築家である坂 茂氏の設計により、田んぼに浮かぶホテル「スイデンテラス」を鶴岡市内に建設、運営している。
- また、当社では、地域資源を循環させた農業生産、販売、農業経営者の育成などの農業事業と、子どもたちが未来志向で挑戦できる場の創出を目的とした全天候型の教育施設の運営のほか、地方で働く価値を伝え、志の高い人材を全国から集める人材紹介業の取組みを実施している。
- こうした事業を通じて、当社は、庄内地方において、日本の地方都市に共通する課題を解決するモデルを創出することを目指している。

### 【会社概要】

- 名称:ヤマガタデザイン株式会社
- 設立:2014年
- 代表者:山中 大介
- 所在地:山形県鶴岡市千安京田龍花山1-1
- 事業内容
  - ◆ ホテル事業
  - ◆ 教育事業
  - ◆ 人材紹介業
  - ◆ 農業



出所: 当社HPおよびFacebookより作成

# The Hidden Japan 合同会社

## 「庄内の魅力をインバウンド観光へ」

地域資源

山形県

- 都会から地元へUターンし、ライティングを中心にフリーランスとして活動しながら山形県の女性向けウェブマガジンを運営している代表の山科沙織氏と、ALTとして山形に来た際に英語での山形の情報がなかったことからブログでの情報発信を始めたDerek Yamashita氏が、酒田市内のコワーキングスペースでのイベントで出会い、海外向けに情報発信を行うウェブメディア「The Hidden Japan」をスタートさせたのが契機となる。
- 当社では、同メディアの運営のほか、訪日外国人向けのプロモーションの企画・運営・映像制作や、個人・団体ツアーの企画・手配・ガイドなどを通じて、外国人の潜在的顧客化や、訪日外国人観光客およびそれらを受け入れたい事業者へのサポートを行っている。
- 外国人が自身の言語でその土地の歴史・文化・自然・風土を伝え、何か困りごとや不明な点があれば、相談やガイドなどにも対応可能なことから、日本に興味のある外国人の閲覧が増え、日本国内を旅するときのガイドの依頼や、国内ツアーの行程に庄内が入る動線づくりにも寄与している。

### 【会社概要】

- 名称: The Hidden Japan 合同会社
- 設立: 2018年
- 代表者: 山科 沙織
- 所在地: 山形県酒田市新橋2丁目26-20
- 事業内容
  - ◆ 訪日外国人観光客向けツアーの企画・運営・ガイド
  - ◆ 各種プロモーション事業



出所：当社HP等より作成 59

# 鶴岡シルク株式会社

## 「新たな視点で飛躍する伝統産業kibisoプロジェクト」

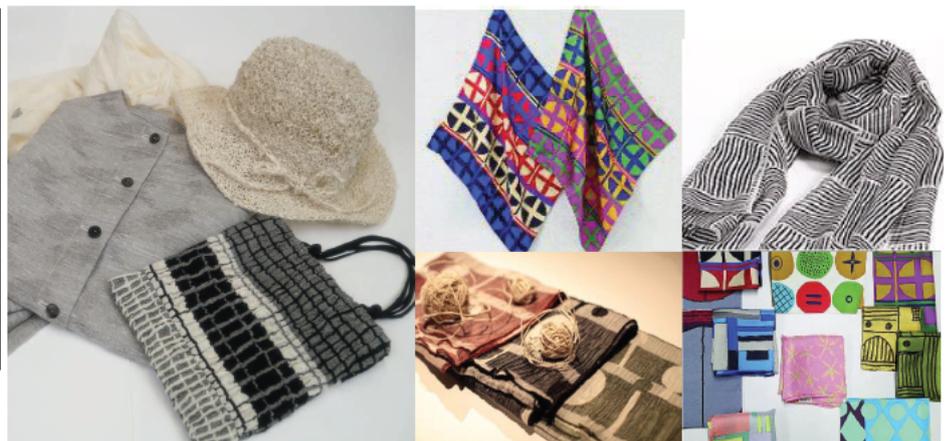
地域資源

山形県

- 山形県鶴岡市は、高品質なシルクの産地として明治から伝統があるが、近年は安価な外国製品が台頭し、同市のシルク産業は衰退傾向にあった。
- こうした中、鶴岡市を視察した日本ファッションプロダクト協会代表理事の岡田氏が、製糸工場の片隅に積まれていた糸に着目し、著名デザイナーの須藤氏に紹介した。それは、カイコが繭を作る際に最初に吐き出す一般的には太くて硬いために加工に適していないとされていた糸である。
- この糸を「kibiso」と名付け、織物に不向きとされていた素材を活用するという逆転の発想から、商品開発に取り組んだ。「kibiso」は、軽やかで立体感があり、保湿力等の機能性にも優れていたため、注目を集めた。
- こうして、外部専門家の視点を契機に眠っていた資源のイノベーションが図られた。現在、kibisoはサステイナブル素材として注目されており、循環型社会の構築に向けてさらなる進化を続けている。

### 【会社概要】

- 名称: 鶴岡シルク株式会社
- 設立: 2010年
- 代表者: 大和 匡輔
- 所在地: 山形県鶴岡市大宝寺日本国223-5
- 事業内容
  - ◆ kibiso商品の企画・製造・販売
  - ◆ 絹を中心とした繊維製品の企画・製造・販売



kibisoを使用した商品

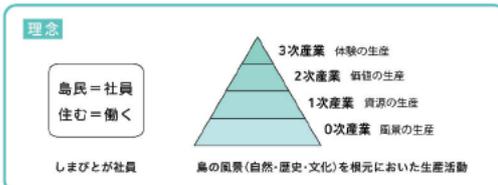
出所：当社HP等より作成 60

「0次産業を大切にした持続可能な未来の島づくり」

- 山形県唯一の離島である飛島において、人口約180人・平均年齢70歳と島の存続が危ぶまれる中、飛島出身の本間代表と大学在学中に飛島に地域移住体験した松本代表が、島に雇用を生み出し、観光客や関係人口を呼び込むことで、島をプラットフォーム化し、島全体を会社にするコンセプトで当社を創業した。
- 島の魅力である風景を維持するために、「0次産業」と称した産業になり得る前の風景の保存・継承を行いながら、生産・加工・流通である1～3次産業までを総合的に行う6次産業化の活動に取り組んでいる。
- ツーリズム事業では、島の魅力を伝えるメディアの立上げのほか、インストラクター資格を有する社員が島ならではのアクティビティを提供する。また、お試し移住の島ターン事業がコロナ禍で実施困難なため、オンラインでのツアーも開催した。ITツールを活用しWebコミュニティを形成するなど、関係人口の繋がりに取り組む。
- 最近では、新技術とローテクを組み合わせた新たな島暮らし「TECH ISLAND」を追求し、他の離島への輸出も視野に取り組んでいる。

【会社概要】

- 名称: 合同会社とびしま
- 設立: 2013年
- 代表者: 本間 当、松本 友哉
- 所在地: 山形県酒田市飛島勝浦乙132-19
- 事業内容
  - ◆ 0次産業: 資料館の運営、環境保全など
  - ◆ 1次産業: 農作業、水産業など
  - ◆ 2次産業: 加工所の運営、商品開発、パッケージデザインなど
  - ◆ 3次産業: 飲食店運営、土産店運営、観光ツアー企画・運営、ガイドなど
  - ◆ その他: 地域活性化・地域維持管理など



出所: 当社HP等より作成 61

有限会社ツルヤ商店

「籐を使用した無着色・無塗装のネコに優しいネコハウス」

- 椅子・テーブルに使用される籐(ラタン)という素材は、平安時代に遣唐使が日本に伝えたことが始まりであり伝来以降、日本でも多方面で活用されるようになった。
- 当社は、明治末期の創業以来、厳選した籐を使用した「自社製造」にこだわり、製品を製作している。現在、日本の技術で作られる籐工芸品は少なくなりつつあるが、当社は、東北で唯一の籐工芸品のメーカーとして、籐の製品を製作し、伝統を継承している。
- 籐の特徴としては、軽くて丈夫・弾力に富む・しなやかであることが挙げられるが、当社では、他社との差別化として、籐を用いて無着色・無塗装のネコハウスを製作している。
- 今後については、籐を使用した素材の良さを生かし、環境に優しい籐工芸品を製造し、その価値を提供していきたいと考えている。

【会社概要】

- 名称: 有限会社ツルヤ商店
- 設立: 1961年
- 代表者: 会田 源司
- 所在地: 山形県山形市宮町5-2-27
- 事業内容
  - ◆ 家具およびインテリア製品の製造



籐の素材を生かしたネコハウス「nejiro」

出所: 当社HP等より作成



## 「真室川町に受け継がれる地域資源の伝承」

- ・ 伝統野菜農家の「森の家」では、室町時代から代々続く伝承野菜の里芋「甚五右エ門芋」をはじめ、真室川町の伝統野菜を栽培している。
- ・ 代表者の佐藤氏は、一旦は町外に転出したものの、帰省を契機として祖父母の家業である農業に関心を抱くようになり、その後、2年間の農業大学校での学習を経て、家業を継いだ。
- ・ また、デザイナーである井上氏は、築150年以上の古民家を伝承野菜農家「森の家」としてリノベーションし、2015年にグッドデザイン賞を受賞した。当施設では、食や農に関心のある人が宿泊者として訪れ、地元農家と季節の食を楽しみながら交流ができるほか、食を学ぶワークショップの会場としても使用されている。
- ・ 佐藤氏の栽培方法は農薬・化学肥料を一切使わず、JAS有機認証の肥料を使用している。安心・安全の伝統野菜とともに、地域に受け継がれる暮らしの風景を後世に残しつつ、新たな交流の場を創出している。

### 【会社概要】

- ・ 名称：株式会社日々
- ・ 設立：2015年
- ・ 代表者：佐藤 春樹
- ・ 所在地：山形県最上郡真室川町大沢2052-1
- ・ 事業内容
  - ◆ 野菜の栽培および販売
  - ◆ 宿泊施設の運営



出所：当社HP等より作成 63

## 株式会社やまがたさくらんぼファーム

### 「6次産業化と観光を組み合わせた農業の取組み」

- ・ 当社は、山形県天童市において、果物を栽培する観光果樹園を基盤とした農業法人である。
- ・ 農業者の高齢化が進行し、優良農地を後世に残すよう積極的に農地を受託し、経営効率の向上のため、地域の若手農業者と協力しながら農地の面的集積を推進している。
- ・ さくらんぼ狩りで収穫されずに廃棄されるさくらんぼを、1次加工で果汁に、2次加工によってその果汁を利用したソフトクリーム、パフェおよびリキュールなどに商品化することで、廃棄ロスを減らす取組みを行っており、SDGsや持続性に配慮した事業となっている。
- ・ また、離農した農家の自宅を買い取って研修施設に転用し、新たな農泊を体感する場として活用することで、本格的な農業体験を可能としており、体験型観光にも取り組んでいる。

### 【会社概要】

- ・ 名称：株式会社やまがたさくらんぼファーム
- ・ 設立：1986年
- ・ 代表者：矢萩 美智
- ・ 所在地：山形県天童市川原子1303
- ・ 事業内容
  - ◆ 果樹の生産・販売・観光・加工・飲食
  - ◆ 王将果樹園とoh!show!caféの運営



出所：当社HP等より作成 64

## 軽部草履株式会社 「足元から支える」

地域資源

山形県

- 1913年に山形県河北町天満で農家が副収入源として山形の稲を使った草履加工業を始め、1993年に山形県寒河江市八楯で軽部草履株式会社を創業する。
- その後、農家の間で草履編みが広まり、山形草履の生産数は日本一となるが、終戦後は、日本の生活様式が洋式に変化したことから、草履業者がニット産業やスリッパ産業に転換し、手編み草履の生産を行う事業者は僅かとなっている。
- 一方で、伝統芸能や時代劇などは依然として草履を必要としている。草履の生産には、田植え・竹皮集め・薫蒸・稲刈り・竹皮裁断・草履編み・天日干し等の工程があるが、当社では、原材料の生産から製造までを一貫した体制で実施している
- 今後も、当社では、現在も伝統を重んじる祭事や芸能の世界で愛用されている草履を残すため、伝統的な技術の継承を行うとともに、担い手の育成に力を注ぐこととしている。

### 【会社概要】

- 名称: 軽部草履株式会社
- 設立: 1993年
- 代表者: 軽部 陽介
- 所在地: 山形県寒河江市中央工業団地51
- 事業内容
- ◆ 手編み草履の製造



出所: 当社HP等より作成

65

## オリエンタルカーペット株式会社 「足もとからのおもてなし」

地域資源

山形県

- 当社は、1935年に創業者が疲弊した地域経済において女性の働く場所を作りたいという思いから、中国の北京より7名の緞通(だんつう)織り職人を招聘し、技術を導入し起業したことに始まる。
- 全ての作業工程を内製化することで、高品質のじゅうたんを製造する。独自技術であるマーセライズ加工(化学洗濯艶出し加工)により、これまで、戦艦大和・武蔵の長官公室、バチカン宮殿のローマ法王謁見の間、皇居新宮殿、新吹上御所、迎賓館赤坂離宮、京都迎賓館、歌舞伎座大間等の国内外の著名建造物への納入実績を積み重ねている。また、高い技術力を活かし、文化財の復元新調事業にも取り組む。
- 東日本大震災以降、個人にも当社商品の浸透を図るべく、2013年には「山形緞通」ブランドを立ち上げ、伝統・技術力を強みとして、新たな顧客創出に向けた製品開発に取り組んだ。この結果、山形緞通のじゅうたんは海外展開を果たし、近年、多くの注目を集めている。

### 【会社概要】

- 名称: オリエンタルカーペット株式会社
- 設立: 1946年
- 代表者: 渡辺 博明
- 所在地: 山形県東村山郡山辺町大字山辺21
- 事業内容
- ◆ 緞帳製造販売



当社ショールーム



じゅうたん

出所: 当社HP等より作成66

「枝豆の横綱である“白山だだちゃ豆”」

- 山形県鶴岡市は、江戸時代から「だだちゃ豆」が特産物として知られている。その中でも、同市の白山地区は「だだちゃ豆」発祥の地であり、「白山だだちゃ豆」として呼ばれている。
- 「白山だだちゃ豆」は、枝豆より小粒であるが、甘みが強く香りが高い。加えて、コクがあり、何とも言えない風味と、噛めば噛むほどに味わいが増すことが特徴である。
- 当社では、この様な「白山だだちゃ豆」の伝統を継承すべく、契約農家から仕入れを行い、販売をしている。
- 現在では、十数名しかいない生産者と共に、より高品質の「白山だだちゃ豆」を目指す取組みに努めていきたいと考えている。

【会社概要】

- 名称：成澤農園有限会社
- 設立：2004年
- 代表者：成澤 清賢
- 所在地：山形県鶴岡市白山 字東木村24-3
- 事業内容：青果卸売



コンセプト

美味しいものを、  
美味しいときに、  
美味しいまま、  
庄内からお届けします。

出所：当社HPより作成

株式会社孫の手（郡山観光交通株式会社）

「福島から『おいしい革命』を目指す青空レストランフードキャンプ」

- 郡山観光交通は、タクシー事業を祖業とする企業であり、同社が旅行業として2008年に設立したのが孫の手トラベルである。
- 福島県では、従来から果物や農産物の栽培が盛んであり、農業が活気づいていたものの、東日本大震災後、県内の食産業に対する風評被害があった。当社は、福島の魅力あふれる農業の生産現場を観光資源として捉え、フードカートを導入し、「食」と「観光」を結びつける発想に至った。
- 当社では、畑や高原の牧草地、湖畔などを完全プライベートな限定レストランに様変わりさせ、収穫体験、生産者のトークライブ、ワークショップ等を通じ、福島の魅力をもっと身近に感じる非日常感に溢れたフードキャンプツアーを企画・開催するほか、自宅から送迎可能な四季折々の観光バスツアー、県内の魅力ある生産者の素材を活かしたレストランの運営も行っている。
- 当日限定で畑に設置するアウトドアダイニングでは、旬の食材を生かした地元のシェフの料理を楽しめる体験型観光により、非日常空間の下で福島の食の豊かさを実感してもらうことをポイントとしている。

【会社概要】

- 名称：株式会社孫の手  
(親会社：郡山観光交通株式会社)
- 設立：2008年
- 代表者：山口 松之進
- 所在地：福島県郡山市安積町長久保 1-2-7
- 事業内容
  - ◆ 旅行ツアーの企画・販売
  - ◆ レストラン・ケータリング事業



出所：当社HP等より作成

# 一般社団法人BOOT『NIPPONIA 楡山集落』

関係人口

地域資源

福島県

## 「辺境の集落から未来の暮らしや学びを得られる空間づくり」

- 当団体は、「辺境から未来を描く」をミッションに、辺境の集落に暮らしながら、その風土が育んできた伝統・価値とその持続性・多様性、人口減少時代の仕事・暮らし・生活・コミュニティや自然と人間の共生等を本質的に考え、未来から新たな集落をデザインし、実践・検証・再投資を循環的に行っている。
- 代表者である矢部佳宏氏は、海外でランドスケープアーキテクトとして庭や公園デザイン・都市計画や緑地計画のデザインに取り組み、2012年に現在2軒となる楡山集落を受け継いだ19代目である。
- 東日本大震災により、普通にあった風景が一瞬にして消え去る姿を目の当たりにし、大切な風景の未来を守りたいと考え、自然に寄り添う暮らしから未来への学びを得られるよう、新しい集落の風景を「宿」としてオープンする形で表現した。
- 町内では、2002年に廃校した中学校をリニューアルし、アーティスト・イン・レジデンス事業の拠点となる西会津国際芸術村を2004年に開村して、代表が2013年からコーディネーターに就任した経緯がある。現在は、当団体が指定管理として運営し、人が交わう未来ある過疎をデザインする様々な取組みを展開している。

### 【会社概要】

- 名称：一般社団法人BOOT
- 設立：2017年
- 代表者：矢部 佳宏
- 所在地：福島県耶麻郡西会津町奥川大字奥川大字高陽根字百目貫5900
- 事業内容
  - ◆ 辺境の集落から社会の未来像を研究・デザイン・実践するランドスケープ・デザイン・コンサルティング

出所：当団体HP等より作成



69

# 一般社団法人ふくしま逢瀬ワイナリー

地域資源

福島県

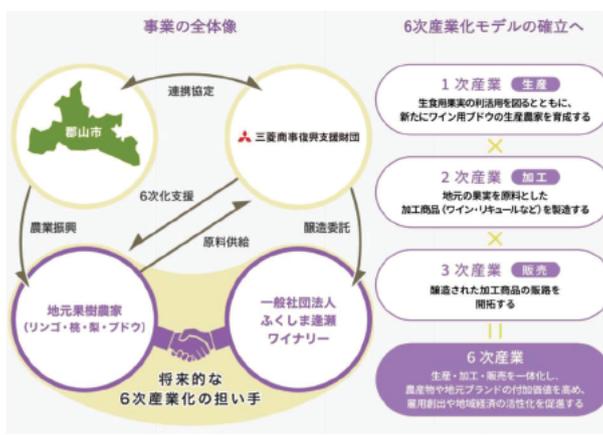
## 「福島県産の果物の付加価値を高めるワイナリー」

- 当法人は、三菱商事復興支援財団が福島県郡山市と連携協定を結び、福島県の果樹農業の6次産業化を支援するプロジェクトとして設立された。当プロジェクトは、福島県の特産品である果物の生産から加工、販売までを一体的に運営する新たな事業モデルを構築し、農産物や地元ブランドの付加価値を高めることを目指すものである。醸造施設「ふくしま逢瀬ワイナリー」を建設し、福島県で生産されたリンゴや桃、梨、ブドウを原料にワインやリキュールなどを生産しながら、新たにワイン用ブドウを生産する農家を支援している。
- 2019年には、郡山で育てたブドウで醸造した初の郡山産ワイン「Vin de Ollage」を、2016年からはその年に収穫された福島県産の「ふじ」を100%使用し低温発酵させた「CIDRE」を発売している。「CIDRE」は生産年毎の味わいを楽しめるほか、CIDRE2018が第23回ジャパン・ワイン・チャレンジ内の「第4回フジ・シードル・チャレンジ2020」において最高賞を受賞した。
- また、アートラベルシリーズでは、福島県内のアーティスト等が描いた作品を採用している。

### 【会社概要】

- 名称：一般社団法人ふくしま逢瀬ワイナリー
- 設立：2015年
- 代表者：河内 恒樹
- 所在地：福島県郡山市逢瀬町多田野字郷土郷土2番地
- 事業内容
  - ◆ 福島県で生産が盛んな生食用果実(桃・梨・リンゴ)の活用
  - ◆ ワイン用ブドウの生産農家を育成
  - ◆ ワイン、ブランデー、リキュールの製造・販売

出所：当法人HPおよび三菱商事復興支援財団HP等より作成



70

# 株式会社マストロ・ジェッペット

## 「地元木材を活用した玩具の製品開発・販売」

地域資源

福島県

- 当社は、福島県南会津町の複数の林業に従事する企業等が共同出資により設立した会社である。
- 南会津町は、豊富で質の高い森林資源を背景に、林野庁の「林業成長産業化地域」に指定されているが、東日本大震災後の原発事故に伴う風評被害の影響を受けており、林業による地域経済の再生が喫緊の課題となっていた。
- そこで、地域住民が幼少期から木に親しみ、林業への興味を抱いてもらうべく、子どもを主なターゲットとして、木製玩具の制作を始め、林業の活性化に取り組んだ。具体的には、木製玩具の制作にあたり、東京都内に在中するデザイナーと連携し、子どもの創造力をかき立てるようなデザインとなるよう、工夫を重ねた。
- さらに、南会津町産のヒノキ材を使用した玩具を同町の新生児へ贈呈することや、同町の広葉樹を用いた玩具を大手コーヒーチェーンコンセプト店舗にて販売する取組みなどを通じて、地域住民にも「木製品の良さ」について再認識してもらうための機会を提供している。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社マストロ・ジェッペット
- 設立: 2010年
- 代表者: 富永周平
- 所在地: 福島県南会津町田島字南原66-2
- 事業内容
  - ◆ 木材玩具の商品企画・製造および販売



出所: 当社HPより作成

71

# 有限会社仁井田本家

地域資源

福島県

## 「日本の田んぼを守る酒蔵へ～自然酒が醸す自然と地域社会～」

- 当社は、創業300年を超える老舗酒蔵であり、米づくりを大事にした「自然酒」を造っている。
- 「自然酒」は、代表の仁井田稔彦氏の父・稔光氏が話を受け、自然の力で育った米での酒造りに取り組み、1967年から販売を開始した。その後、自社田で自然農法による米作りに取り組みながら、農業生産法人を設立して自然の力を活かした田んぼや自然環境づくりに取り組み、2011年には全ての酒造りを自然由来の素材にすることを決意した。
- その直後、2011年の東日本大震災により、福島原発の風評被害によって県内の農産物や食品加工品の販売が激減する中、自然農法に取り組む農家を助けながら、地元の田んぼでの酒造りから逃げず、古い種類の米の栽培や商品リニューアルにより、既存顧客から若年層・海外顧客にも目を向けた商品づくりに取り組んだ。こうした中で、こうじチョコやあまさけなどの発酵商品の開発・販売にも取り組み、醸すことによるスローな顧客層からの共感を獲得し、自社のコミュニティの拡大が進んでいる。
- また、地域の集いにも心がけ、子供やお酒を飲まない人も集まれるスイーツデーを震災後に開催したほか、震災前から自社田で「たんぼのがっこう」を10年以上開催し、教育面でも地域に貢献している。

### 【会社概要】

- 名称: 有限会社仁井田本家
- 設立: 1711年
- 代表者: 仁井田 稔彦
- 所在地: 福島県郡山市田村町金沢字高屋敷139番地
- 事業内容
  - ◆ 日本酒(自然米を原料とした純米酒)の醸造販売
  - ◆ 甘酒、発酵食品の製造販売



しぜんしゅを中心とした酒づくり



発酵スイーツ・食品



自社田での「たんぼのがっこう」



老若男女が集まるスイーツデー

出所: 当社HP等より作成

72

# 東北協同乳業株式会社・東京大学 「産学連携による新たな乳酸菌の活用」

地域資源 福島県

- 当社は、震災による設備・建物の甚大な被害やその後の風評被害に苦しみながらも、「東北のみんながんばろう牛乳・ヨーグルト」の開発・販売を通じて、震災に負けずに福島から元気を発信するよう活動してきた。
- 関水久教授(当時:東京大学薬学系研究科)は、永年の研究により2012年に新たな乳酸菌を発見し、風評被害の払拭および福島県の酪農乳業復興を通じて、地域住民の心の豊かさや健康維持に役立ちたいと、当社に対して11/19-B1乳酸菌を利用した商品開発を提案し、2013年から産学連携の取組みが始まった。
- 11/19-B1乳酸菌はとでもデリケートであり、苦労しながらもヨーグルトの商品開発に取組み、2014年に発売した。ヨーグルトには、一般的な乳酸菌に比べ免疫力を高める働きが非常に高い11/19-B1乳酸菌と福島県の生乳を70%以上使用している。
- なお、当社は、商品売上の一部を寄付し、福島県の東日本大震災に関する教育活動をサポートしている。
- 最近では、ふくしま笑顔プロジェクトを通じて、福島県内企業と連携したコラボ商品の開発にも取り組んでいる。

**【会社概要】**  
 ・名称:東北協同乳業株式会社  
 ・設立:1966年  
 ・代表者:佐久間 博康  
 ・所在地:福島県本宮市荒井字下原14  
 ・事業内容  
 ◆牛乳および乳製品の製造・販売



**ふくしまプライド。**  
**ふくしま笑顔プロジェクト**  
 ふくしまには美味しい食材が沢山あります。福島県内の企業とコラボしてお客様に「美味しい商品」をお届けします。すべては、お客様の笑顔の為に!

<b>郡山市</b> 共同研究開発商品 「あまざけヨーグルト」  ▼宝来屋本店HP	<b>北塩原村</b> 共同研究開発商品 「会津山塩(バニラプリン)」  ▼会津山塩企業組合HP	<b>二本松市(工場)</b> 共同研究開発商品 「B1キャンディ」  ▼ライオン菓子HP
---	--	---

▼宝来屋本店HP  
 ▼会津山塩企業組合HP  
 ▼ライオン菓子HP

 2014年07月	 2015年04月 (東京大学PB商品)	 2018年08月 (東京大学PB商品)	 2020年02月
 2014年11月	 2018年05月	 2019年04月 ※2020年02月 賞味期限切れのB1リニューアル	 2020年08月 (期間限定販売)

出所: 当社HP等より作成 73

# 信陵建設株式会社 「地元果物を活用した商品開発および飯坂温泉の活性化」

地域資源 福島県

- 当社は、1965年に設立された地元の建設会社であり、奥州3名湯にも選定されている飯坂温泉(福島県福島市)の地域活性化のため、「地元の食材で新名物を」との思いから、当社を含めた飯坂町の農家および飲食店等が連携し、地元の地域資源を活用した特産品の開発への取組みが始まった。
- 飯坂温泉で、NHK朝の連続ドラマ小説「エール」にちなんで、作曲家古関裕而の地元(福島市)の果物を使ったシリアル食品「飯坂温泉グラノーラ」を販売している。また、当該商品は、当社が、廃業した和菓子店の店舗を借り、飯坂温泉街の一角にある加工施設で製造している。
- グラノーラを生かしたスイーツの販売を検討しているほか、将来的にはオーツ麦の栽培も計画し、温泉街の新たな名物を目指している。
- 地元飯坂温泉周辺の農家・商店・宿泊施設等と販売委託・再加工などで密接に連携し、地域の輪を広げながら、飯坂温泉の特産品づくりとPRを進めている。

**【会社概要】**  
 ・名称:信陵建設株式会社  
 ・設立:1965年  
 ・代表者:斎藤 孝裕  
 ・所在地:福島県福島市飯坂町字月崎町11-4  
 ・事業内容  
 ◆総合工事業



出所: 福島市HPおよび道の駅とよはしHP等より作成 74

## 「福島の未利用資源に光を当て自然でシンプルな豊かさを発信する」

- 当社は、「しあわせ・笑顔・豊かさの循環」をビジョンとして掲げており、眠ったままの地域資源を見つけ出し、価値あるものに変え、地域と都市で、しあわせが循環する社会をつくるため、農産物を新たな規格で都市の青果店に流通する仕組みの構築や、催事・イベントでの物販、地域資源を活用した商品企画、自社ブランドの開発等を行っている。
- 代表の小林味愛氏は、国家公務員で地域経済関連の施策に携わり、その後株式会社日本総合研究所にて地域活性化等の業務を行う中で、福島県の魅力に惹かれ、同時に眠っている地域資源に気づき、国見町に地域商社を設立するに至った。現在も、子育てをしながら東京と福島の2拠点生活を送っている。
- 2020年には、自社ブランドである「明日 わたしは柿の木にのぼる」をリリースしている。本商品は、福島県の特産品であるあんぽ柿の製造工程で廃棄されていた柿の皮を主原料としたデリケートゾーンのためのフェミニンケアブランドであり、無添加で厳選した植物由来成分を使用している。柿渋には消臭・抗菌作用があり、古来から生活の知恵として用いられてきたものを、シンプルかつ丁寧に活用する想いは、持続可能な社会の実現につながるとして、優れた商品に贈られる「ソーシャルプロダクツ・アワード」のソーシャルプロダクツ賞や「サステナブルコスメアワード」のシルバー賞などを受賞している。

## 【会社概要】

- 名称:株式会社陽と人
- 設立:2017年
- 代表者:小林味愛
- 所在地:福島県伊達郡国見町山崎館東14-8
- 事業内容
  - ◆ 地域を伝える農産物の生産・流通・卸売事業
  - ◆ 地域資源を活用した商品の企画・販売事業
  - ◆ 催事やイベントでの物販
  - ◆ 地域づくりコンサルティング・プロデュース等



出所: 当社HP等より作成 75

## 自然食品ばんだい

## 「喜多方産こしひかり米粉を活用したもちり餃子」

- 当社は、福島県喜多方市にて無農薬の米を栽培し、顧客規模を拡大してきたが、2011年の東日本大震災による原発事故の風評被害に伴い、米の売上が大幅に落ち込んだ。喜多方市はラーメンが有名であるが、喜多方ラーメン店の売上も減少し、地元を何とかしなければという思いの中、ラーメンと相性の良い「餃子」に着目し、自社の米粉を使った6次化の商品開発に取り組んだ。地元の農産物が原料の「喜多方もちり餃子」を製造し、地元のラーメン店や一般向けに販売している。餃子には、素材や味へのこだわりが凝縮しており、皮は福島県産のこしひかりやこがねもち米粉に、小麦粉と馬鈴薯を混合して製造され、餡は福島産エゴマ豚、会津産キャベツやニラ等を使用している。ほうれん草・さつまいも・ムラサキ芋・かぼちゃの粉末入り餃子の皮等も製造しており多様化するニーズに応えている。量産に際しては、東北農政局のアドバイスのもと、復興支援型地域社会雇用創造事業の助成金を活用し、設備導入を行った。
- 今後は皮の製造過程で生じる食品ロスを再利用した新たな商品を開発する。

## 【概要】

- 名称:自然食品ばんだい
- 設立:1994年
- 代表者:瓜生 和徳
- 所在地:福島県喜多方市熱塩加納町大字加納字古屋敷甲2889-4
- 事業内容
  - ◆ 食品の開発・製造・販売



餃子の皮

餃子の餡

完成品

出所: 当社HP等より作成

「事業承継（役割分担・伴走）を機会とした成長戦略の実行」

(1) 事業創造領域(現社長) - 受託生産から自社製品開発企業への飛躍 -

① フッ素樹脂(PTFE)圧縮成形切削加工技術の高度化

・環境対応を重視する箇所、保守メンテ回数を低減したい箇所  
→特に水中・塩水内用途に適したベアリングを開発・評価・販売へ



フッ素樹脂ベアリング ミニ樹脂ベアリング

② 戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)/

福島県ロボット関連産業基盤強化事業による研究開発

・産学官の連携により、接合技術・残留応力解析技術・樹脂性ギアを研究開発中  
→総合的な取り組みが評価され、令和3年度に地域未来牽引企業に選定

③ 中小機構アクセラレーションプログラム「FASTAR」による成長計画策定

社長自らピッチイベントに登壇し、樹脂展望をプレゼン(令和3年2月24日)  
→業界変化(EV化・燃料電池化)を見据えた技術開発を推進



樹脂精密切削加工による新しい世界の実現

(2) 企業変革領域(後継者) - 率先した活動ができる企業への革新 -

① 工場新棟の建設(津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金 採択) -A)

新たな成長に向けて、拠点集約及び成長基盤を整備、県外からの経験者採用も実施



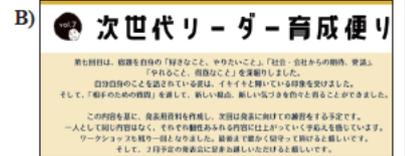
A)

② 横断チームによる経営課題解決活動の推進

経営課題である生産性向上・IT化、技術伝承、強い製造現場の実現のため、横断的な取り組みにより、相互理解・課題の認識共有から活動を実施。

③ 個人の思いを育むワークショップの開催 -B)

次世代リーダー候補を対象に、多様な個性の発揮と内発的動機を見出すため、対話(コーチング手法を取り入れた)を通じたワークショップを実施



B)

【会社概要】 <https://iidaf.com>

・名称: 有限会社飯田製作所(設立:1964年) ・代表者: 野渡 透一  
・工場拠点: 福島県本宮市糠沢字水上21-2 ・事業内容: 樹脂加工, 輸送用機器製造



「自然の流れの中で、漆と人と食を繋ぐ」

- ・ 当社は、「山と、人と、食卓を繋ぐ」を理念に、縄文から現代まで繋いできた「漆器」のうち、400年の伝統を持つ「会津漆器」を中心に、漆のガイドツアー「テマヒマうつわ旅」および世代を超えて受け継いでいく漆器『めぐる』を販売している。
- ・ 代表の貝沼航氏が工芸の工房を訪れたときの職人たちの姿に、信念に忠実な「ロックな魂」を感じ、翌年の2005年に伝統工芸の作り手を応援する会社「明天」を設立した。震災後、自然と共生する暮らしを見つめ、漆と漆器に深く向き合う中で、漆器は全てが木の恵みから生まれるものであり、手間ひまをかけて生まれる漆器とその原料である漆の世界観を伝えていくための活動に軸を定め、取組みを進めている。
- ・ 2013年に開始した「テマヒマうつわ旅」では、漆の木の植栽地や漆器工房の見学、製作体験、漆器を扱う飲食店での食事、漆講座などをパッケージやオーダーメイドにて販売する。
- ・ 2015年に販売開始した漆器『めぐる』は、適量生産による季節の循環に即したものづくりを行うため、年1回の受注期間を設けて生産している。
- ・ また、漆の木を未来に残していくためのNPO法人でも活動し、漆の木の植栽活動を長年続けている。

【会社概要】

・名称: 漆とロック株式会社  
・代表者: 貝沼 航  
・設立: 2005年  
・所在地: 福島県会津若松市新横町4-16  
・事業内容  
◆ 漆をテーマにしたガイドツアーの開催  
◆ 漆器『めぐる』の販売



出所: 当社HP等より作成

## 「ユニバーサルデザインを用いた新しい伝統工芸」

- 当社は、手に障がいがある人とコーヒーを飲んでいた際に、「このコーヒーカップ、僕には持ちづらい。」という何気ない一言から誰もが持ちやすい食器を開発したことをきっかけに設立された。職人が減少傾向にある漆器産業への貢献に繋げるべく、商品化に際しては、地元の伝統工芸である会津塗を活用している。
- 当社では、会津塗を活用し、障がい者も含めて誰でも使いやすいものになっているかの検証を行ったうえで会津塗職人、NPO法人およびデザイナーが共同でユニバーサルデザインの食器を製作している。素材を漆器とすることで樹脂製では得られないものを実現している。
- 商品の1つである「楽膳椀」は、おしりのような形としたお椀で、底部のカットに指を掛けて持てることから、握力が弱い人でも簡単に、美しい仕草でお椀を持つことが可能である。
- デザインの力を活用して、障がい者を含む生活者のより良い暮らしや伝統産業の活性化に貢献している。

### 【会社概要】

- 名称: 合同会社楽膳
- 設立: 2006年
- 代表者: 大竹 愛希
- 所在地: 福島県福島市丸子御山越 55-203
- 事業内容
  - ◆ 日用雑貨の製造および販売



ユニバーサルデザインの食器



くちあたりが柔らかな箸



出所: 当社HP等より作成

# 有限会社まるせい果樹園

## 「GAP認証の取得を社員教育等に活用！震災から復興した果樹園経営」

- 当社は、さくらんぼ・桃・柿・リンゴ等を総面積7.5haで栽培している福島県内最大級の観光農園であるが、東日本大震災後の原発事故に伴う風評被害によって、売上高は原発事故前の54%に低迷していた。
- そこで、当社では、農産物への風評被害を乗り越えるべく、第三者認証制度があり客観的に安全性が担保されているGAPに着目し、安全性のPR手段とすることとした。
- 2013年6月には、放射能試験が義務付けられたJGAP認証を取得し、当認証を強みに取引が無かった大手量販店への営業および通信販売等に力を入れたほか、社員全員(4名)にJGAPの専門研修を受講させるなど、消費者の信頼向上と社員のスキル向上に努めた。
- この結果、当社は、安全性を担保された農産物の産出者として取引先から評価され、その知名度も向上し、東日本大震災前を上回る規模までに売上が回復している。

### 【会社概要】

- 名称: 有限会社まるせい果樹園
- 設立: 2001年
- 代表者: 佐藤 清一
- 所在地: 福島県福島市飯坂町平野 字森前50-1
- 事業内容
  - ◆ 果物の生産・販売
  - ◆ 直売所および観光農園の運営



出所: 当社HPおよびFacebook等より作成

「地域資源を活用した自家製ビントゥバーチョコレートの開発」

- 世界でも数少ない珈琲の国際審査員である代表者中島氏が、珈琲で培った焙煎技術を応用し、ビントゥバーと呼ばれる生力カオの仕入れからチョコレートの製造までを一貫して自社で行っている。
- その際に、地元の郡山美味しい街づくり推進協議会より、日本ウイスキーを使った新しいチョコレートを作って欲しいと声がかかり、地元である福島県のウイスキーを活用したチョコレートの商品づくりが始まった。
- 生力カオからビントゥバーチョコレートを自社で一貫して製造しており、福島県郡山市のウイスキーメーカーとコラボし、ウイスキーボンボンチョコレートにより、地元ウイスキーの存在を大きくPRしている。福島県の日本酒や地元食材活用したコラボ商品の開発も実施している。
- チョコレートという巨大なマーケットへの参入で、チョコレート趣向者に地元福島県のウイスキー963を認知してもらおうきっかけとなっている。既にウイスキーの聖地であるスコットランドからも評価の声が挙がっている。

【会社概要】

- 名称: 株式会社 富久栄商会
- 設立: 2008年
- 代表者: 中島 茂
- 所在地: 福島県郡山市亀田1-51-19
- 事業内容
  - ◆ コーヒー豆の仕入れ、焙煎および販売
  - ◆ カカオ豆の焙煎、製造および販売
  - ◆ カフェの運営



スペシャルティコーヒーとは生産国における栽培管理、収穫、生産処理、選別、そして品質管理が適正になされ、欠点豆の混入が極めて少ないもの。



出所：当社HP等より作成



自家焙煎珈琲豆  
富久栄珈琲



NPO法人プラットフォームあおもり

「『あおもりらしい』新しい価値につながる仕組みの創出」

- 当団体は、「あおもりの新しい価値を創る」を目標に、あおもりに暮らしている人と人のつながりを活かし、地域課題に共感することで、目の前の困りごとを解決する取り組みを行っている。また、一歩先を見つめ、課題解決のために行動し、地域の未来に生きる仕組みを創り、次世代につなげるための事業を展開している。
- 当団体では、大手企業のように自社のみで完結するのではなく、地域内で連携した「あおもりらしい」仕組みを創ることで、人口減少社会にも対応し得る「みんながよくなる」プラットフォームづくりに取り組んでいる。
- また、当団体が取り組む事業は、UIターン・関係人口の創出、子どもの居場所づくり、婚活サポート、副業・兼業、6次産業化を含む産業支援や人事コンサルティングなど、多岐に亘るが、地域のニーズや国内外の社会の動きを捉え、地域が求める事業を創出する活動を実施していることが特徴である。

【団体概要】

- 名称: NPO法人プラットフォームあおもり
- 代表者: 米田 大吉
- 設立: 2011年
- 所在地: 青森県青森市古川1-20-11  
メゾンビル3F
- 事業内容
  - ◆ Community Innovation事業
  - ◆ LINK&BRIDGE事業
  - ◆ JOB FIT事業

JAPANブランド育成支援事業を活用した  
青森とイタリアが繋がる「Local to Local」



令和2年度「関係人口・拡大事業」モデル事業  
東北3県3自治体と連携した関係人口づくり

田子町を中心に農泊推進を行う  
「環十和田湖Gateway構想」



あおもりの人財の確保・育成・定着を支援します  
プラットフォームあおもり



出所：当団体HP等より作成

# 一般社団法人かなぎ元気村

地域資源

青森県

## 「地域資源・地域人材を活用したエコツーリズム・ヘルスツーリズムへの挑戦」

- 当法人は、2018年に「組織として取組目標を明確化し、具現化することで、地域の健康寿命延伸による医療費抑制、新たな雇用の創出と地域コミュニティ活性化につなげることを目標に設立された。
- 地域資源が豊富な青森県奥津軽において、「健康×交流」をテーマにした健康プログラムと健康食メニューの開発によるヘルスケアビジネスを創出していくことで、短命県返上と健康寿命延伸に向けた具体的なアクションを展開し、付加価値の高いヘルスツーリズムの商品化を目指している。
- 当法人の取組みとしては、太宰治の親戚関係にある古民家を取得・改修したうえで、滞在型の体験交流施設・ヘルスツーリズムの拠点運営、母屋に併設する茶房「鄙家」(ひなや)での地場産食材にこだわった食事およびキャンプサイトを提供している。また、「青森ひば」の森・「旧津軽森林鉄道」の遺構といった地域資源を活用した奥津軽トレイルを実施している。なお、奥津軽トレイルでは、弘前大学大学院医学研究科と連携し、クナイプ療法や脳トレを取り入れた新たなトレイルも試行しており、地域産業の創出に取り組んでいる。
- 「エコツーリズム」「ヘルスツーリズム」といったブームに対して、地域の様々な団体・企業・行政と連携し、地域の文化的資源・自然資源を活用して、新たな価値を提供していることが特徴である。

### 【会社概要】

- 名称：一般社団法人かなぎ元気村
- 設立：2018年5月
- 代表者：伊藤 一弘
- 所在地：青森県五所川原市金木町 蒔田桑元39-2
- 事業内容
  - ◆ かなぎ元気村の運営
  - ◆ 奥津軽トレイル倶楽部の運営
  - ◆ DAZAI健康トレイルの普及推進



出所：当社HP等より作成

83

# 株式会社パソナ東北創生

関係人口

岩手県

## 「復興支援から生まれる地域×関係人口の混ざり合い」

- 当社は、岩手県釜石市に本社を置き、研修ツーリズムやなりわい・ライフスタイル創造の支援を行っている。
- 代表の戸塚絵梨子氏は、株式会社パソナに新卒で入社し、震災後に休職して釜石市の復興支援に関わり、復興が進む中で、同社内に設立された「東北未来戦略ファンド」に事業プランを応募し、当社を立ち上げた。
- 「地域での豊かな生き方・働き方を作る」をコンセプトに、研修ツーリズム等による都市と地域の接点づくりと、地域内のキャリア形成や副業・兼業人材とのマッチング事業を軸に取り組んできた。
- 2016年には移住者が地域での事業創出を進める「ローカルベンチャー育成事業」に取り組み、地域の余白を可視化し、移住者がそれを解決するために挑戦する仕組みを地域おこし協力隊制度により実現した。
- 2018年・2020年と岩手県の事業を通じて関係人口の創出・拡大に取り組んできたほか、2020年には釜石市の多様な生き方に触れる「LIFE QUEST」(オンライン配信)の提供や、地元企業および株式会社日本能率協会マネジメントセンターと連携したワーケーションプログラムの開発にも取り組み、首都圏と釜石市との繋がりを深めることで、市内の担い手確保・拡大を目指している。
- 2021年には、市より事業受託したしごと・くらしサポートセンター「ジョブカフェかまいし」を開所・運営している。

### 【会社概要】

- 名称：株式会社パソナ東北創生
- 代表者：戸塚 絵梨子
- 設立：2015年
- 所在地：岩手県釜石市甲子町5-72-2
- 事業内容
  - ◆ 人財開発研修ツーリズム事業
  - ◆ 事業開発支援事業
  - ◆ 人材マッチング事業

出所：当社HPおよびFacebookページ等より作成



活動人口を可視化「LIFE QUEST」



ワーケーションプログラムを提供



岩手県と協働「遠恋副業課」



移住・仕事・暮らしをワンストップに提供

84

## 「岩手のチャレンジを応援するコーディネーターへ」

- 同法人は、東日本大震災をきっかけに岩手に戻ってきた若者を中心に2014年に設立され、「アクションすることを、岩手のスタンダードに」をミッションとして、岩手で自己実現を目指してチャレンジする若者に対し、若手主体の新たな出会い、ネットワークの創出、コーディネートによって、岩手に関わる選択肢を提供している。
- 複数の自治体から地域おこし協力隊の募集等のコーディネートや、岩手県出身の学生等と県内事業者を結ぶ「実践型インターンシップ」の運営、岩手県内のチャレンジを応援するクラウドファンディングサイト「いしわり」に取り組み、2020年には岩手県内の副業人材マッチングプラットフォームの「RE:SIDE」をスタートした。
- 2020年度の実践型インターンシップは、コロナウイルスの影響でオンライン開催となったが、同じ県内のNPO法人みやっこベースとともに、多くの学生・企業とのマッチングのコーディネートに取り組んでいる。

### 【会社概要】

- 名称: NPO法人wiz
- 代表者: 中野 圭
- 設立: 2014年
- 所在地: 岩手県大船渡市三陸町越喜来字 明神道24-2
- 事業内容
  - ◆ 実践型インターンシップのコーディネート
  - ◆ クラウドファンディング「いしわり」の運営
  - ◆ 岩手県内のU・Iターン促進事業



出所: 当法人HP等より作成

## 釜石市役所オープンシティ推進室

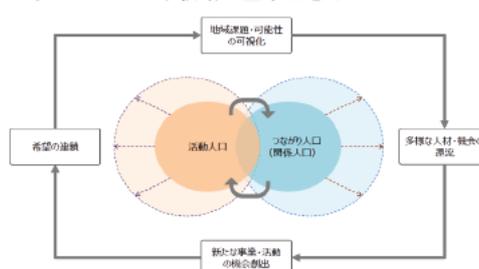
## 「復興プロセスで得た最大の資産「つながり」を活かすまちづくり」

- 東日本大震災後、釜石市の職員となった石井重成氏は、泥臭い仕事からまちの計画策定まで様々な仕事に取り組み、2015年にはオープンシティ戦略を立案し、実践機関となるオープンシティ推進室を立ち上げた。同戦略では、復興を通じて得た最大の価値を「つながり」と定義し、関係人口をまちづくりに活かし、まちづくりで生まれた多くの取組みを次の関係人口の創出に繋げていく仕組みの構築に取り組んでいる。
- 関係人口を創出するには、地元の「受け入れ側」をしっかりと可視化していくことが重要であり、その関係性を構築できるような場作りに取り組んできた。
- この中で、地域コミュニティ支援×関係人口の「釜援隊」、学生×地元×関係人口のKAMAISHIコンパス、地域の余白・関わる余地を明示した起業型の地域おこし協力隊「LOCAL VENTURE COMMUNITY」など、様々な協働・共創を通じた攻めのまちづくりの取組みを行政側から仕掛けている。

### 【団体概要】

- 名称: 釜石市役所オープンシティ推進室
- 室長: 石井 重成
- 設立: 2015年
- 所在地: 岩手県釜石市只越町3-9-13
- 業務内容
  - ◆ オープンシティ戦略(まち・ひと・しごと創生)、少子化対策、総合戦略の推進

オープンシティ戦略の基本理念イメージ



KAMAISHIコンパス (学生×地元×関係人口)



地域の余白を生かした地域おこし協力隊活用



Meetup Kamaishi 観光体験プログラムを通じて受け入れ側を可視化



出所: 釜石市HP・オープンシティ釜石HP等より作成

# 西和賀デザインプロジェクト『ユキノチカラ』 「豪雪地域における自然の恵みを新たなブランド価値へ」

地域資源

岩手県

- 当プロジェクトは、西和賀町・町内事業者・岩手県内在住のデザイナー・北上信用金庫が連携し、デザインを活用した地域資源の魅力発掘と商品・サービスづくり、情報発信、人材育成等を進める取組みである。
- 当町の住民にとって冬の活動の妨げになる雪は、一方で西和賀の美味しい食べ物と豊かな食文化、雪遊びなどのアクティビティを生み出すために必要なものであり、その雪を価値化し、町全体の魅力にすることをミッションとしている。
- 2015年に町の主導により活動を開始し、地域ブランド「ユキノチカラ」を創設、町内事業者と県内デザイナーによる商品づくりや、販売イベントの開催等の販促活動、「ユキノチカラ新聞」を軸とした広報活動、雪国の魅力を知ってもらうための「ユキノチカラツアー」の開催など、多角的な情報発信を行ってきた。
- また、2019年からは町内事業者でユキノチカラプロジェクト協議会を結成した。当プロジェクトを契機に移住したデザイナーの加藤紗栄氏を事務局に、協議会独自の商品企画や町外の催事等への出展を行っている。

## 【団体概要】

- 名称:ユキノチカラプロジェクト協議会
- 代表者:高鷹 政明
- 設立:2019年  
(プロジェクト開始:2015年)
- 所在地:岩手県和賀郡西和賀町川尻40-73-11
- 活動内容
  - ◆ 地域ブランド「ユキノチカラ」の情報発信
  - ◆ 商品企画・販売の実施



ユキノチカラ新聞



町内事業者で幅広い商品ラインナップを統一感のあるデザインで揃える

出所:ユキノチカラ公式HP等より作成

87

# NPO法人みやっこベース 「子ども・学生とともに地域が育つまちづくりへ」

関係人口

岩手県

- 当法人は、2013年に設立された教育系まちづくり団体であり、「みやこと育つ」を理念に、学生や若者が育つ場づくり・まちづくりを推進している。
- 代表の花坂雄大氏は市内企業の経営者であり、市内事業者・移住者・学生等の繋ぎ手であるほか、事務局長の早川輝氏は福岡県北九州市から復興ボランティアの中で出会った縁で活動を続けている。
- 震災後、まちのために何かしたいと話す学生とともに、市内の活性化を話し合う「高校生サミット」を開催し、アイデアを形にするために伴走支援を行うほか、学生に地域を再発見してもらう「地元修学旅行」、学生の居場所となるフリースペース「みやっこハウス」、子供たちが社会の疑似体験を行う「みやっこタウン」、地域の同期入社たちのコミュニティ形成のための「ルーキーズカレッジ」を企画・運営するなど、地域と子供たちが日常的に関わる様々な機会を創出しながらコミュニティを育む取組みを進めている。
- また、岩手県の実践型インターンシップ事業では、NPO法人wizと協働し県内企業と学生を繋ぐコーディネートを行いながら、地域の新たな価値の掘り起こしに取り組んでいる。

## 【会社概要】

- 名称:NPO法人みやっこベース
- 代表者:花坂 雄大
- 設立:2013年
- 所在地:岩手県宮古市末広町8-24
- 事業内容
  - ◆ 学生向けのふるさと教育・キャリア教育
  - ◆ UIJターン者の育成・定着支援
  - ◆ 実践型インターンシップのコーディネート



若者が自由に集まり交流できる場所  
みやっこハウス



地域を語り、行動を起こす  
高校生サミット



地域の魅力を発見するツアー  
地元修学旅行

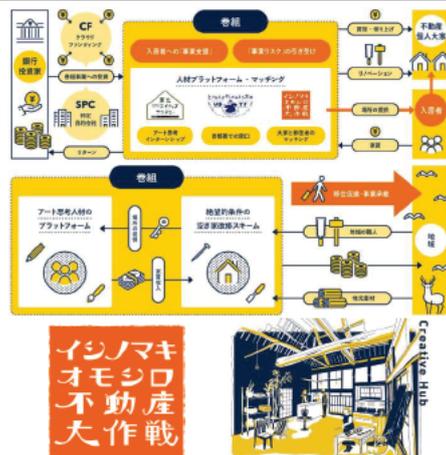
出所:当団体HP等より作成 88

# 「絶望的条件の空き家を地域の創造的拠点に」

- 当社は、空き家をクリエイティブな起業家の拠点にする活動を行っている。具体的には、築20年以上・未接道の空き家を取得のうえリノベーションし、シェアハウス・ゲストハウス等にて運営する事業を展開している。
- 代表の渡邊享子氏は、東日本大震災後に縁あってボランティアで石巻市を訪問し、同様に支援に来たボランティアが家がないことを理由に当地を離れてしまうことを解決するため、空き家の活用を始めた。その後、住宅整備が進み、古くて立地条件が悪い住宅の空き家化が増える中で、特に絶望的な条件の空き家を活用することにより、クリエイティブな仲間が共感して集まるようになった。また、空き家活用の担い手育成・コミュニティ形成のための取組み「イシノマキオモシロ不動産大作戦」にも取り組んでいる。
- 2020年には、贈与によりクリエイターを支えるプラットフォーム「Creative Hub」を立ち上げ、クリエイターの卵を募り、空き家を改修して無償家賃(最長1年)で共同生活の場の提供を開始した。併せて、食料・電子デバイス・生活用品等を寄付者から集め、クリエイターの最低限の生活を保障するなど、作品制作や事業づくりを支援する取組みを行っている。

## 【会社概要】

- 名称: 合同会社巻組
- 代表者: 渡邊 享子
- 設立: 2015年(創業: 2014年)
- 所在地: 宮城県石巻市中央2-3-14 観慶丸ビル2階
- 事業内容
  - ◆ シェアハウス、ゲストハウスの運営
  - ◆ 建物の設計施工(リノベーション)
  - ◆ ローカルベンチャー(起業型人材)の育成
  - ◆ 実践型インターンシップのコーディネート
  - ◆ 地方創生コンサルティング等



出所: 当社HP等より作成

# 一般社団法人まるオフィス・認定NPO法人底上げ

## 「学生×移住者×地元が織り成すワクワクする地元づくり」

- 両団体は、東日本大震災後のボランティアから地域に根付き、次世代を担う小中高生に対し、地域に根差した活動を通じて、多様な学びの機会の提供や、子供たちが考える新しい地域・社会に向けて、自身が取り組む行動を描く支援を行っている。
- 一般社団法人まるオフィスでは、2016年から地域住民・事業者と学生を繋ぐ「じもとまるまるゼミ」を開始し、地域の産業・文化に触れる活動を展開している。また、認定NPO法人底上げでは、高校生が集まる場作りを行っており、主体的に何かをしたいという学生の想いを形にするサポートを展開している。
- 両団体が気仙沼市と協働して2017年より開催している「気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード」は、学生が地域の資源に目を向けながら、主体的な想いを形にする取組みであり、継続的な伴走を行なっている。
- 2020年からは、市の教育委員会と連携し、「探究学習支援事業」の探究学習コーディネーターとして、複数の市立小中学校のカリキュラムの構築・提供に関わっている。

## 【コーディネーター概要】

- ①加藤 拓馬
  - 所属: 一般社団法人まるオフィス代表
  - 団体設立: 2015年
  - 団体所在地: 宮城県気仙沼市唐桑町宿浦232-2
  - 団体活動内容
    - ◆ 教育・学習支援、移住定住支援センター運営等
- ②成宮崇史
  - 所属: 認定NPO法人底上げ理事・事務局長
  - 団体設立: 2012年
  - 団体所在地: 宮城県気仙沼市古町2-7-117
  - 団体活動内容
    - ◆ 学生支援・育成、気仙沼の教育魅力化事業等

### 気仙沼の高校生マイプロ2020



出所: 両団体HP等より作成

### じもとまるまるゼミ「体験型ゼミ」(抜粋)



### 探究学習コーディネートでの活動(抜粋)



「『Startline』を通じた東北の自社らしい商品づくりの推進」

- 兵庫県に本社を構える通信販売会社の株式会社フェリシモでは、「事業性×独創性×社会性」の重なりを大切にしており、阪神・淡路大震災の頃から被災地支援に取り組み続け、東日本大震災後は、東北を支援するためのECサイトを活用した「毎月100円義捐金」や、女性による東北の産業復興を支援する「とうほくIPPOプロジェクト」の展開などを通じて、被災地域の事業を支援してきた。
- 2016年からは東北事務所を立ち上げ、より踏み込んだ東北の商品づくりをサポートする「Startline」を開始した。同事業では、マーケティング・商品企画を学ぶ「商品企画アカデミー」や個別のマーケティング・商品企画のコンサルティングのほか、全国に販路を有する流通・小売企業のバイヤー・プランナーと事業者を繋ぐ「スター商品誕生オーディション」を開催している。
- 被災地の企業では、復旧・復興までに販路が途切れてしまうケースも多く、自社の商品づくりを再構築する必要があるが、これまで都心部からの「請け仕事」だけをしていたメーカーが、自社のものづくりを一から組み立てることで、新たな事業展開が見えるケースがあるなど、事業者の経営基盤の再構築にも貢献している。

【会社概要】

- 名称：株式会社フェリシモ
- 創立：1965年（東北事務所：2016年設立）
- 代表者：矢崎 和彦
- 所在地  
(本社)兵庫県神戸市中央区新港町7番1号
- 事業内容
  - ◆ 通販・定期便事業
  - ◆ 商品開発・開発事業 等

スター商品誕生オーディション



出所：当社HP・StartlineHP等より作成

事業者との共創を目指す協力企業



一般社団法人ワカツク

「課題解決型人材の育成と若者が挑戦できる環境づくりへ」

- 当団体は、学生時代から宮城県の大学生の就活やインターンシップのコーディネートに取り組んできた代表の渡辺一馬氏が設立し、震災後に複雑な課題が増えることが予想される中、課題解決型の人材を育成するため、若者と被災地をインターンシップやボランティアで繋げ、若者・地域・企業が成長していく仕組みづくりに取り組んできた。
- 2017年からは復興庁と連携し、被災・沿岸地域を中心に、約1か月に亘る実践型インターンシップを開催している。延べ1,200人を超える学生が被災企業の課題解決に挑戦し、企業や地域を理解し、行動していく取り組みを進めている。同事業では、地域側に企業と若者を繋ぐコーディネーターが存在し、新たな人材マッチング事業の流れが創出されている点が特徴である。
- その他、社会貢献を行う若者を表彰する「仙台若者アワード」やコロナ禍で生活に苦しむ学生向けの食糧支援など、学生団体等に寄り添う活動も行っている。

【団体概要】

- 名称：一般社団法人ワカツク
- 代表者：渡辺 一馬
- 設立：2011年
- 所在地：宮城県仙台市青葉区北目町4-7HSGビル内
- 事業内容
  - ◆ 若者の育成を目的としたインターンシップ等、若者と地域をつなぐコーディネート
  - ◆ 地域社会の課題解決を目指した若者主体のプロジェクトの支援
  - ◆ 地域社会の課題解決の為の産業・行政・大学・市民の連携の促進

ワカツクの事業



出所：当団体HP等より作成

復興・創生インターンの流れ



出所：復興庁HP

# 一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン 「漁業を新3Kに変える」

関係人口

地域資源

宮城県

- 当法人は、漁業のイメージを、カッコよくて、稼げて、革新的な“新3K”に変え、次世代へと続く未来の水産業の形を提案していく三陸の漁師団体である。
- 東方人の活動は多岐にわたる。水産業のしくみを変える取組みとして、東北経済産業局と三陸の水産を世界に発信する「三陸水産イノベーションサミット」の開催や、魚払いによる副業での関わり方の提示(gyosomon!)、東アフリカでの流通改革プロジェクトへの参画、漁業のDX化を促進するべく水産業ITベンチャーとの連携もしている。
- 未来のフィッシャーマンを育てる活動として、水産業の担い手を増やし育てる「TRITON PROJECT」、水産業特化型求人サイト「TRITON JOB」、磯焼け対策しながら未来の海を守る「ISOP」やサステナブル・シーフード認証の取得の促進や海の問題を親子で学べる絵本の制作など、これからの水産業を持続可能にするための活動にも取り組んでいる。
- 直近では、仙台空港内に牡蠣と海鮮丼のお店「ふいっしやーまん亭」、東京駅グランスタ内にフィッシュサンド専門店「フィッシャーマン・サンドイッチ」をオープンするなど、漁業の魅力を積極的に伝える取組を推進している。

## 【会社概要】

- 名称: 一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン
- 代表者: 阿部 勝太
- 設立: 2014年
- 所在地: 宮城県石巻市千石町8-20 TRITON SENGOKU
- 事業内容
  - ◆ 水産業担い手育成事業
  - ◆ BtoB事業、飲食事業、海外事業
  - ◆ 水産リサーチ&コンサルティング事業

出所: 当団体HP等より作成



93

# 株式会社MAKOTO

関係人口

宮城県

## 「社会に対する志を持つ起業家を引き上げるプラットフォームへ」

- 当社は、東日本大震災後、仙台市内のベンチャーキャピタルに勤めていた代表の竹井智宏氏が東北の起業家・経営者を支援するために一般社団法人を設立し、2018年に株式会社化とともに事業部毎に分社化した。
- 投資・起業家育成・地域創生・M&A等、様々な形で東北の事業創出・チャレンジを支援している。社名の由来は「至誠」であり、「誠」を尽くし、利己ではなく人としてやるべき事を大事にして事業を推進している。
- これまで、起業家が集まるコワーキングスペースの立ち上げ、福島の再チャレンジを応援する福活ファンドを含む投資業務、金融機関・自治体と連携した起業家支援プログラム、東北大学と連携したスタートアップガレージなど、東北からの挑戦を応援する形で幅広い取組を行っている。
- 仙台市と連携した起業家育成の仕組みづくりについては、2013年からSENDAI for Startups!による起業家にスポットライトを当てるイベントを開始し、2019年には仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会を発足、その翌年には、内閣府「スタートアップ・エコシステム拠点都市」として採択され、「日本一起業しやすいまち」の実現に向けて歩みを進めている。

## 【会社概要】

- 名称: 株式会社MAKOTO
- 代表者: 竹井 智宏
- 設立: 2011年
- 所在地: 宮城県仙台市若林区清水小路6-1 東日本不動産仙台ファーストビル 1F
- 事業内容(各グループ企業にて実施)
  - ◆ 投資・アクセラレーター事業
  - ◆ 自治体課題解決・地方創生事業
  - ◆ M&Aアドバイザー
  - ◆ 化学製品事業、シェアリング・DX事業
  - ◆ 住宅事業・健康食品事業



出所: 当社HP等より作成

94

# 一般社団法人歓迎プロデュース『鶴亀食堂・鶴亀の湯』 「地元×移住者で日本一漁師を大切に作る街を目指す」

関係人口

宮城県

- ・当法人では、市内の防潮堤工事のために銭湯が廃業することで、漁師が入る風呂がなくなってしまうことから、地域の水産関連企業の女将と移住者により、気仙沼魚市場前に開業する屋台村「みしおね横丁」内でトレーラーハウスの銭湯および食堂を立ち上げた。
- ・気仙沼魚市場は、鮫・生鮮鰹・サンマ・メカジキ等の水揚げがあり、東北でも有数の水揚げ港であるが、地域の船は少なく、地域外の漁師に支えられている街である。当市場は漁師との交流を大事にする文化があり、当法人のメンバーも所属する「気仙沼つばき会」では、東日本大震災以降に気仙沼の漁師カレンダーの企画および販売や、漁船が出航する際に安全と大漁を祈願する「出船おくり」の観光資源化などを手掛けている。
- ・食堂では、漁師・住民・観光客が交流し、漁師が持ってきた新鮮な魚と漁師の話を目当てに来訪される観光客もいるほか、漁師同士の交流も生まれており、漁師を愛する心から様々な交流が生まれている。
- ・2020年からは、気仙沼市および一般社団法人フィッシャーマンジャパン（石巻市）と連携し、漁業を担う次世代をまち全体で受け入れ、育成する事業に取り組んでいる。

## 【会社概要】

- ・名称：一般社団法人歓迎プロデュース
- ・代表者：小野寺 紀子
- ・設立：2018年
- ・所在地：宮城県気仙沼市魚市場前4-5
- ・事業内容
  - ◆ 銭湯および食堂の運営
  - ◆ 漁業水産業の担い手確保および定着支援事業



出所：当団体HPおよびFacebook等より作成

95

# 経営コンサルティング波多野事務所『一番商品づくり塾』 「生業をじっくりと考え、創業後も東北内で助け合える場」

関係人口

宮城県

- ・宮城県大崎市に所在する経営コンサルティング波多野事務所の代表である波多野卓司氏は、スロー・スモール・ローカルで、無理なく、継続していく生業づくりを支援する中小企業診断士であり、起業塾OBおよび起業者の相互支援コミュニティである「一番商品づくり塾」を主宰している。
- ・波多野卓司氏の起業塾では、自身の命を見つめ、誰に愛を向けたいかを考え、愛を商品・サービスとして作り、商品・サービスをお金に変え、お金を自身に還元して再び回していく、循環型の生業づくりを作っていく。
- ・このため、起業塾参加者は自身の内面を見つめ、本当にやりたいことを見つめる。起業塾では、これが見つからない場合や迷いがある場合には、参加者に無理をさせず、あたたかく見守ることとしているため、起業塾に参加して何年も経過してから創業する人や、70歳を超えた高齢者で創業する人もいる。なお、起業塾に参加した1,000人を超えるOBのうち、その多くが創業に至っている点が特徴的である。
- ・また、「一番商品づくり塾」は、東日本大震災が発生した2011年3月を除き、毎月実施されており、2021年3月で170回を迎える。自身の生業について参加者間で情報を共有し、意見交換を行う講義では、発表者と聴講者が心で繋がりに、新たな取引や展開が生まれることも多い。

## 【取組概要】

- ・名称：一番商品づくり塾
- ・主宰：波多野 卓司
- ・設立：2007年
- ・開催地：宮城県仙台市内
- ・活動内容
  - ◆ 波多野卓司氏の創業塾OBが中心に集まる月例会の開催
  - ◆ メーリングリストを用いた相互交流



出所：仙台市起業支援センターアスタHPおよびNPO法人ハーベスト「ミヤギ志ワカル塾」HP等から作成

96

# NPO法人森は海の恋人

関係人口

宮城県

## 「『森と海』が人の心と地域の豊かさを育む」

- 当団体は、近年の環境問題の深刻化を背景として、自然環境を良好に維持するために、自然の雄大さに焦点を当て、環境教育・森づくり・自然環境保全の3つの事業に取り組んでいる。
- 環境教育事業では、多くの人々に自らの体験を通じ、自然に対してバランスのとれた感覚を養ってもらうための体験型プログラム等を提供している。
- 森づくり事業では、「森は海の恋人植樹祭」を主軸とし、豊かな生態系を有する里山を維持管理することで、自然環境を良好な状態に保ちつつ、川とつながっている海の環境保全を図っている。なお、毎年6月の第1日曜日に行われる植樹祭では、岩手県一関市にそびえる室根山の山頂付近に多くの大漁旗が翻っている。
- また、自然環境保全事業では、多くの研究者や研究機関等との連携によって、各種の自然環境調査を実施し、その調査結果に基づき動植物の保全を行い、環境の変化を地域や教育の場にフィードバックすることで自然環境に対する地域住民の意識向上にも努めている。
- 今後も、豊かな海を守るために、森を大切にするという活動を進め、「海のことを考える時には森まで視野に入れ」また、「森のことを考える時には海まで視野に入れる」といった自然のつながりを意識できる人の輪を拡げ、地域が豊かになっていくことを目指している。

### 【団体概要】

- 名称:NPO法人森は海の恋人
- 設立:2009年
- 代表者:畠山 重篤
- 所在地:宮城県気仙沼市唐桑町東舞根212
- 事業内容
  - ◆ 森づくり事業
  - ◆ 環境教育事業
  - ◆ 環境保全事業



環境教育事業

森づくり事業

環境保全事業

出所:当法人HP等より作成 97

# NPO法人みらいの学校

関係人口

秋田県

## 「ワクワクする地域の“みらい”をつくる」

- 当法人がある秋田県羽後町は、子どもたちを地方創生人材と位置づけ、その人材を町を挙げてキャリア教育している。当法人では、未来を語る場をつくり、夢や目標を実現するためのチャレンジが生まれる地域づくりを目的として、子どもを含めた地域の方々を対象に、多様な人材とのコミュニケーションの場およびチャレンジ実践の機会を提供している。
- 具体的には、小中高生向けのキャリア教育、グローバル交流、メディア・PR活動および課題解決に資する事業に取り組んでいる。
- 活動のポイントは、2030年に秋田県南エリアが「理想を語り合う場があり、夢や目標を実現するためのチャレンジが生まれている地域」になることをVISIONに、また「ワクワクする地域のみらい」をMISSIONとして、様々な地域関係者と協力し、関係人口の創出を目指している点にある。
- 当法人は、地域の方々から自らの生き方に主体性を持ち、地域で暮らすうえで必要な能力を培い、積極的に地域社会に参画するよう、今後も活動を継続していくこととしている。

### 【関係案内所概要】

- 名称:NPO法人みらいの学校
- 設立:2019年
- 代表者:松浦 孝行
- 所在地:秋田県雄勝郡羽後町西馬音内字裏町71番地
- 事業内容
  - ◆ 教育プログラムの企画および実施
  - ◆ 国際交流活動の企画および実施
  - ◆ 地域PR活動の企画および実施



職業体験



グローバル交流



サッポロビールとのコラボ商品によるPR



出所:当法人HP等より作成

# OGA NAMAHAKE ROCK FESTIVAL実行委員会

## 「野外ロックフェスを通じた男鹿市の活性化」

関係人口

秋田県

- 代表者の菅原圭位氏は、地元の秋田県男鹿市を盛り上げようと考え、地元内外の協力により、野外ロックフェス「OGA NAMAHAKE ROCK FESTIVAL」を開催している。
- 何もない段階からイベントを作り上げていったため、最初は小規模のイベントから始めて運営や地域の輪を拡げ、野外開催後当初は赤字であったが、長期的な視点で開催を続け、野外5回目の開催で単年度黒字を達成し、現在では2日間の開催で1.5万人もの来場者があるイベントとなっている。
- 野外開催の2回目の年に東日本大震災が発生し、フェスの開催に躊躇していたが、参加ミュージシャンや被災地の人から「ぜひ開催してほしい」との声に後押しされ、災害復興をテーマとして開催を実施した。
- ロックフェスが魅力的なイベントとして認知され、男鹿市の知名度が上がることにより、地元に住む若者が誇りに感じて地元に残るといった選択肢を作り出している。また、これまで男鹿市に訪れたことがなかったような若年層に対してアプローチすることで、地域内外の交流創出にも貢献している。
- 2020年にはコロナ禍で延期を判断したが、2021年夏の開催に向けて再始動を行ったところである。

### 【団体概要】

- 団体名: OGA NAMAHAKE ROCK FESTIVAL実行委員会
- 設立: 2007年
- 代表者: 菅原 圭位
- 所在地: 秋田県男鹿市船川港船川字海岸通り2-2-4
- 事業内容
  - ◆ OGA NAMAHAKE ROCK FESTIVALの運営



過去のロックフェスの様子

出所: 当社HP等より作成 99

# NPO法人かつのclassy『鹿角家』

## 「関係人口を家族として見立てる繋がりづくり」

関係人口

秋田県

- 鹿角市では、2015年から地域おこし協力隊制度を活用した移住コンシェルジュを通じて、移住相談のプログラムを運営している中で、移住は難しいが鹿角市が好きの方から継続的に当市に関わりたいとの声が多く寄せられたことから、関係人口「鹿角家」として、鹿角市に関わる関係人口のコミュニティを創出した。
- 当法人は、元移住コンシェルジュを中心に、先輩移住者・地域の市民団体で設立されており、市と連携した移住定住サポートや関係人口「鹿角家」の運営などに取り組んでいる。
- 地域課題を「かかわりしろ」として可視化し、地域と交流することを通じて、移住ではない新たな関わり方を持つ関係人口と接点を創出している。
- また、鹿角家では、家族証の交付、交流イベント「家族会議」、メールマガジン「家族通信」等により、関係人口の機運醸成に努めるほか、古民家を活用した交流拠点「kemakema」を案内所とし、現地での地域と関係人口とのマッチングを行っている。
- なお、「鹿角家」には、現在200人を超える登録があり、首都圏と地域を繋ぐ接点となっている。

### 【会社概要】

- 名称: NPO法人かつのclassy
- 代表者: 木村 芳兼
- 設立: 2016年
- 所在地: 秋田県鹿角市十和田毛馬内下小路51-8kemakema内
- 事業内容
  - ◆ 地域住民と移住者の交流促進
  - ◆ 移住相談・サポート
  - ◆ 地域と関係人口のマッチング



出所: 当法人HPおよび鹿角家HP等より作成

# 一般社団法人ドチャベンジャーズ『BABAME BASE』

「地域の課題に土着の起業家・企業・人が協働して取り組むまちへ」

関係人口 秋田県

- 当法人は、秋田県五城目町馬場目にあるBABAME BASEを拠点に、五城目町内の土着企業・個人にて設立され、移住・定住・起業といった人生において軽くはない出来事を、土着チームが情報発信・サポートすることで、地域課題解決の一助となることを目指している。
- ドチャベンとは「土着ベンチャー」の略で、地域を動かし活かす起業家・企業・人が、人口減少、高齢化、担い手不足、移住・定住などの様々な課題に対し、企業・個人がそれぞれ得意とする分野で協働しながら解決の糸口を探り、地域内外を巻き込みながら推進する活動である。
- BABAME BASEは2013年に廃校となった小学校(2001年リニューアル)を活用して生まれた地域活性化支援センターの愛称であり、五城目町によって運営された後、2018年から当法人によって運営され、16社・団体の入居がある。代表者の柳澤龍氏は、2014年に地域おこし協力隊として五城目町に移住し、地域の新たなカタチを生み出す様々なプロジェクトに関わり、2017年にBABAME BASEに集まるドチャベンと共に当法人を設立した。2021年には新たに町内の空き家(旧吉田邸(築地町町内会))の民間運営を行う予定である。

**【会社概要】**

- 名称: 一般社団法人ドチャベンジャーズ
- 代表者: 柳澤 龍
- 設立: 2017年
- 所在地: 秋田県南秋田郡五城目町馬場目蓬内台117-1 BABAME BASE
- 事業内容
  - ◆ 移住・定住・起業に関する情報発信・広報
  - ◆ 移住希望者の発掘・移住検討の機会創出
  - ◆ 仕事や暮らしの体験機会創出、起業支援
  - ◆ 就労機会情報の収集・提供
  - ◆ 商品事業開発・販促支援



**BABAME BASE** 2021年3月にHPをリニューアル

出所: 当団体HP・BABAMEBASEHP等より作成

# NPO法人はじまりの学校『高畠熱中小学校』

「子どもに戻って強い探求心による新たな創発を生み出す場」

関係人口 山形県

- 当法人が運営する「高畠熱中小学校」は、「もういちど7歳の目で世界を…」をコンセプトに、かつてTVドラマ「熱中時代」の舞台となった廃校で、老若男女や様々な職業の生徒が集い、学び、交流し、地方発の新たな価値創造活動を考え行動するプロジェクトである。
- 代表の佐藤廣志氏が廃校の利活用を検討する中、東日本大震災を機に日本IBMを退社しオフィスコロボックルを立ち上げた堀田一芙氏(一般社団法人熱中学園代表)に相談し、廃校の下見を行った際、高畠町役場の職員の熱量に共感し、プロジェクトを進めることとなった。その後、250人以上の各界のボランティア、1,000人を超える生徒が集い、生涯学び続ける「熱中人」による活動は、国内に16校・海外に1校へと広がり、地域の垣根を超えた地方創生プロジェクトとして注目を集めている。
- 高畠熱中小学校のプログラムは、1期5か月で行われ、2015年の開校以降11期まで授業が行われており、IT企業の社長・大学教授・デザイナー・技術者等の豪華な教諭陣が、様々なトピックの講義を行い、地域の人材育成・異業種間交流・特産品開発・サテライトオフィス事業に取り組んでいる。

**【会社概要】**

- 名称: NPO法人はじまりの学校
- 代表者: 佐藤 廣志
- 設立: 2015年
- 所在地: 山形県東置賜郡高畠町大字時沢1256番地1号(旧時沢小学校)
- 事業内容
  - ◆ 人材育成事業「熱中小学校」の企画・運営
  - ◆ 周辺の耕作放棄地活用によるぶどう畑の再生 等



<p><b>通常授業</b></p> <p>知見、10年の経験から学ぶ授業 最新授業日程 (2020.10〜)</p>	<p><b>選択授業</b></p> <p>フェスティバルから専門分野まで 高畠/嵐山とワイン</p>	<p><b>課外活動</b></p> <p>移住者や地元で活動している方から様々なイベントや活動</p>
---	---	--

**高畠熱中小学校のサテライトオフィスに同居する企業**

<p><b>GFT</b> グリーンワークテクノ株式会社 福島に本社を構えるバイオマス発電機を取り扱う会社。</p>	<p><b>株式会社コロボックル</b> 山形県出身の若者の経営するドローンベンチャー企業。</p>
<p><b>株式会社 ちのくら文化研究所</b> 高畠熱中小学校教諭の宮澤博道さまが代表取締役を務める。人と人の心のこもったコミュニケーションの取り方や作法と立ち振る舞いについて講習を行う。</p>	<p><b>株式会社ファイブ</b> 高畠町の長内加工・販売企業。ドイツの国際長内見本市「IFA2016」にて金賞受賞。給食室にて製造を支援。</p>
<p><b>株式会社 ぬ・ぬ</b> 高畠熱中小学校主任も兼任されたものづくりコースの先生が起業された製造型関係会社。高畠熱中小学校の2Fのジヨラマ製作室を手付けている。</p>	<p><b>有限会社ワンダフル</b> 住宅設備製作会社。熱中小学校第1期の生徒であり、留学で学んでいる方が中心として展開中。</p>
<p><b>株式会社 山形県立大学</b> 山形県立大学の学生が中心として展開中。</p>	<p><b>株式会社 山形県立大学</b> 山形県立大学の学生が中心として展開中。</p>
<p><b>SDAL</b> 山形県立大学の学生が中心として展開中。</p>	<p><b>株式会社 山形県立大学</b> 山形県立大学の学生が中心として展開中。</p>
<p><b>山形県立大学</b> 山形県立大学の学生が中心として展開中。</p>	<p><b>山形県立大学</b> 山形県立大学の学生が中心として展開中。</p>

出所: 当団体等HPより作成02

# 大江町『まちなか交流館ATERA』

関係人口

山形県

## 「重要文化的景観の建物を活用した交流拠点の運営」

- 山形県大江町にある左沢(あてらざわ)は、かつて川港を抱え商業の町として賑わい、2013年には、大江町の「最上川の流通・往来および左沢町場の景観」が山形県で初となる国の重要文化的景観に選定された。
- 大江町では、2013年にきらやか銀行が寄贈した旧きらやか銀行大江支店の利活用を考え、2015年から山形芸術工科大学コミュニティデザイン学科とともに、ハード面・ソフト面での設計を進め、住民・行政・学生が協力した場所づくりを通じて、建物の耐震改修および内装改修を行い、交流拠点「大江町まちなか交流館 ATERA」としてオープンした。
- 当施設の1Fには、銀行時代の金庫をそのまま利用できるギャラリースペースやカフェがあり、2Fには、誰でも利用可能なラウンジスペース・レンタルホールがある。また、「交流」と「居場所」の拠点として、同施設には地域のことから日頃の悩みまでを気軽に相談できるよう、多職種・多年代で組成された団体「Port」が運営管理している。また、町内外の出展者を集めたマルシェ「左市」(あてらいち)や企画を発案・開催し、地域の方々をはじめ、県外からも人が訪れる施設づくりを目指している。

### 【施設概要】

- 名称: 大江町まちなか交流館 ATERA
- 設立: 2018年
- 指定管理団体: Port(ポート)
- 所在地: 山形県西村山郡大江町左沢435
- 事業内容
  - ◆ カフェの運営
  - ◆ ラウンジスペースの運営
  - ◆ ワークショップの開催



1Fギャラリー



床材に西山杉を利用した2Fホール



出所: 大江町まちなか交流館 ATERA HP 等より作成

103

# 株式会社銀山荘

関係人口

山形県

## 「大正ロマンのある温泉街」

- 当社は、日本でも珍しい木造建築群と大正時代に作られた情緒豊かな町並みがある銀山温泉街にて創業270年の歴史を有する老舗旅館である。代表者の小関氏は、大学卒業後、滋賀県の温泉旅館で修行の上、20代半ばに銀山荘へ入社し、温泉街の仲間とともに銀山温泉に「新しい価値」を創出している。
- 東日本大震災時には、東北への旅行者が大幅に落ち込む中、銀山温泉を再び顧客に選ばれる観光地にしなければいけないと考え、「大正ロマンプロジェクト」を本格的に開始した。
- 「大正ロマンプロジェクト」では、大正ロマンの演出し大正時代の服装を着用できる。若い女性に矢絣の着物が人気となっており、銀山温泉の川を挟んで木造の旅館が並び、人のいない風景を大正ロマンの服を着た人が加わることで、銀山温泉の風景の完成度がより高まることとなった。
- 今後も、銀山温泉という歴史ある温泉街において、若い力を結集して新たな取組みを行い、地域関係者を巻き込みながら、より魅力ある観光地にしていこうと考えている。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社銀山荘
- 設立: 1964年
- 代表者: 小関 健太郎
- 所在地: 山形県尾花沢市大字銀山新畑85
- 事業内容
  - ◆ 宿泊業
  - ◆ 飲食サービス業



出所: 当社HP等より作成

104

# 株式会社小高ワーカーズベース

関係人口

福島県

## 「多様に創出される100の会社が1,000人を支える自立した地域社会へ」

- 当社は「地域の100の課題から100のビジネスを創出する」をミッションに、自立した地域社会を実現するため2014年に設立し、南相馬市小高地区にてコワーキングスペースの運営、老舗耐熱ガラスメーカー「HARIO」と連携した職人技術継承のためのファクトリーの運営、市内でチャレンジする方へのサポート、起業型地域おこし協力隊「Next Commons Lab.南相馬」の事務局などを行っている。
- また、原発事故避難指示区域は、5年4か月も居住を許されなかったことから、一から暮らしを再構築するまちおこしが必要であると考え、当社では、前人未踏のフロンティアを開拓し、理想の村を創ることに可能性を見出しており、様々な事業・活動でチャレンジを続けている。
- 2019年にオープンした「小高パイオニアヴィレッジ」は、日本財団やクラウドファンディング等の支援を受け、開放的なコワーキングスペース、簡易宿所として泊まれるゲストハウス、ものづくりを生業とする人たちの共同作業場である「メーカーズルーム」を備えており、2014年から創出されてきた多くの起業家の拠点となり、相互に助け合い・価値を共有するヴィレッジでもあることが特徴である。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社小高ワーカーズベース
- 代表者: 和田 智行
- 設立: 2014年
- 所在地: 福島県南相馬市小高区本町1-87
- 事業内容
  - ◆ 簡易宿所付コワーキングスペース「小高パイオニアヴィレッジ」の管理運営
  - ◆ ガラス製品の製造・販売
  - ◆ 起業型地域おこし協力隊「Next Commons Lab.南相馬」事務局の管理運営
  - ◆ コワーキングスペース「NARU」の管理運営

出所: 当社HP等より作成



小高パイオニアヴィレッジ



マチ・ヒト・シゴトの結び場「NARU」



HARIOランプワークファクトリー小高



同ファクトリーから立上げ「Iriser」 105

# 一般社団法人グロウイングクラウド『co-ba koriyama』

## 「多様なチャレンジャーに愛されるはじまりの場所」

関係人口

福島県

- 当団体は、「人が集い、学び合い、新しい創造が始まる街」を目指し、福島県の次世代を担う若手経営者や起業を志す人材の育成、支援を目的に2014年に設立された。すべての根っこは「人」という考えの下、地方に不足する「人財」や担い手が育つ場を提供し続けるための取組みを推進している。
- 団体名の「彩雲」の言葉には雲の合間から虹がかかる様から“吉兆”という意味があり、福島県に本当の意味での「復興」が果たされ、東日本大震災前より豊かなまちになるよう、吉兆を届けたいという願いを込めた。
- 代表者である三部香奈氏は、大学卒業後にUターンし、地元新聞記者を経て、結婚を機にパートナーが経営する会計事務所に参画した。東日本大震災以降、困難や課題が山積する県内で何かをしたいと考えた同志で読書会を開始し、2014年には専門家で構成される当団体を設立し代表に就任した。
- 同年には多様なチャレンジが集まる「co-ba koriyama」をオープンし、コワーキングスペースの運営と若手経営者・起業家・起業希望者等の交流を生む場づくりに取り組んでいる。郡山市の創業支援ネットワークにも参画、起業家育成の取組みを推進しており、2018年には中小企業庁「認定創業スクール10選」に選出された。
- 2019年には、ママが1日2時間から働ける2hoursを経営する鷲谷恭子氏との協働で、市内の企業・起業家等の経理事務等を支える(株)ケイリーパートナーズを設立し、女性が働きやすい環境づくりに取り組む。

### 【団体概要】

- 名称: 一般社団法人グロウイングクラウド
- 設立: 2014年
- 代表者: 三部 香奈
- 所在地: 福島県郡山市緑町16-1
- 事業内容
  - ◆ コワーキングスペースの運営
  - ◆ 起業家育成・人材育成手段・機会の提供

出所: 当団体HP等より作成



## 「大切な日常を守り、繋がりと地域の食を未来に紡ぐ」

- 当社は、東日本大震災や原発事故で大切な日常が失われた福島から、大切なものを大切にして生きていくライフスタイルを拡げていくために、3つのfである「family」「friend」「future」を大切し、コミュニティキッチン、多拠点居住者向けのシェアハウス・ゲストハウス、ローカルスナックの運営や、福島の実酒・美肴を全国を定期的に届ける「fukunomo」や地産地消カレーショップ「with curry」などの地域の食に関わる事業を行っている。
- 福島の魅力的な「食」と「職」に出逢えるローカルスナック「SHOKU SHOKU FUKUSHIMA」は、地域の人々が地域の魅力である食と職に出会えるきっかけを通じて、より多くの人に地域の良さを知ってもらい、自分の地域に自信を持ってもらうきっかけづくりとなるよう、2018年にオープンした。
- 当店では、全て福島県産の食材を使用し、福島の地酒40種以上が飲み放題であるほか、酒蔵や農業生産者などの地域の個性豊かなゲストを招いたイベントを積極的に開催することから、地域内外の人が素敵な空気に惹かれて来店し、地元の美味しい食やお酒を味わいながら、様々なご縁が広がる場となっている。
- 2018年度には、福島の挑戦を伴走して支援する「ローカルクラウドファンディングラボ」を立ち上げ、2021年1月現在で実践プロジェクト3件、支援プロジェクト42件の合計1億5千万を超える資金調達を行っている。

### 【会社概要】

- 名称: 株式会社エフライフ
- 設立: 2017年
- 代表者: 小笠原 隼人
- 所在地: 福島県郡山市方八町2-8-16
- 事業内容
  - ◆ コミュニティキッチン、シェアハウス・ゲストハウス、ローカルスナックの運営
  - ◆ 福島の実酒と美肴「fukunomo」
  - ◆ 地産地消カレーショップ「with curry」
  - ◆ ローカルクラウドファンディングラボ



出所: 当社HPおよび郡山市観光協会HP等より作成

# 一般社団法人RCF

## 「社会の課題から未来をつくる『社会事業コーディネーター』」

- 当団体では、2011年の東日本大震災をきっかけに、代表の藤沢烈氏が震災復興のための調査を行う団体（RCF復興支援チーム）を発足の上、企業・行政・NPO等とともに「まちづくり」「産業づくり」「ひとづくり」に関する事業に取り組んできた。その後、復興支援のコーディネートノウハウを活かし、社会課題の解決全般に対するコーディネート機関である、一般社団法人RCF（Revalue as Coordinator for the Future!）として名称を変更し、社会の課題から未来をつくる「社会事業コーディネーター」として活動している。
- なお、支援テーマは多岐に亘り、当団体の原点である東北での復興支援（コミュニティ・人材支援・起業支援・事業者支援等）から、こども支援・防災支援に至るまで、社会課題の現場に入り、多様なステークホルダー（民間企業・行政・NPO等）と連携してビジョンを策定し、関係者間の調整を行いながら、課題解決の支援に取り組んでいる。

### 【団体概要】

- 名称: 一般社団法人RCF
- 代表者: 藤沢 烈
- 設立: 2011年
- 所在地: 東京都新宿区市谷八幡町2-1 DS市ヶ谷ビル3F
- 事業内容
  - ◆ ビジネス・パブリック・ソーシャルセクターのコーディネートによる災害からの復興および社会課題解決事業の実施



出所: 当団体HPより作成

社会事業コーディネーターの仕事

STEP 1  
社会化  
問題そのものを発見し、対地域・行政・企業に届ける

STEP 2  
事業化  
特定の場所や事業を開設し、保護モデルの育成を目指す

STEP 3  
制度化  
事業の持続や地域での展開を目指す、成功や失敗に学ぶ

釜石でのコミュニティ支援



行政・NPOと連携したこども支援



福島県内での起業支援



防災・減災に向けたブッシュ支援



# 一般社団法人東の食の会

関係人口

地域資源

その他

## 「地域資源を生かした商品開発とリーダーズコミュニティの形成」

- 当団体は、震災により販路が途絶えた生産者・加工者を支援するために設立し、東北の生産者と首都圏の食関連企業とのマッチングプラットフォームを形成する活動および生産者・加工者の商品設計・開発に対する支援を展開している。岩手県産・岩手缶詰と共に開発した「Cava缶」は、サバの缶詰のデザインを一新し、首都圏の雑貨屋に商品が並ぶなど、楽しくて美味しくて機能的な食文化の形成にも貢献している。また、東北外に知られていない「アカモク」の商品化、ホヤの缶詰開発・海外輸出など、東北をローカルかつグローバルな視点で押し上げている。
- また、生産者を含む「食のリーダー」が繋がり成長していく機会（三陸フィッシャーメンズ・キャンプ、ふくしま Farmer's camp等）の提供や、それらのリーダーが広範に繋がる機会（フィッシャーメンズ・リーグや東北リーダーズ・カンファレンス等）の提供を通じて、東北の食のリーダーのコミュニティ形成にも取り組んでいる。
- 2021年には、震災後10年を契機に、食のリーダー達と今後10年の東北の姿を「United Locals of TOHOKU」として、そのビジョンやアクションを具体化し、その歩みを進めている。

### 【団体概要】

- 名称：一般社団法人東の食の会
- 設立：2011年
- 代表理事：楠本修二郎、高島宏平
- 事務局代表：高橋大就
- 会員企業：特別会員5社・一般会員30社
- 事業内容
  - ◆ 東日本の生産者のマーケティング、及び食関連企業とのマッチング
  - ◆ 食に関する新しい事業の創造
  - ◆ 日本の食の安全・安心を世界に伝え、日本の食文化を世界と繋ぐ情報発信



出所：当団体HP等より作成

109

# 株式会社sotokoto online

関係人口

その他

## 「地域と関わる生き方を発信し、持続可能な地域社会を目指す」

- 当社は、(株)木楽舎が1999年に創刊した「ソトコト」の発行およびWebメディアであるsotokoto onlineの運営を行っている。同誌では、2011年以降は現代表の指出一正氏が2代目編集長となり、スローライフ、ロハス、ソーシャル、ローカル、SDGsなど、社会を豊かにするソーシャルグッドなアイデアや話題を発信している。SOTOKOTOとは、アフリカのバンツー族のことばで「木の下」という意味であり、『ソトコト』という木陰で議論し合い、未来につながる良い知恵を生み出し、それを愉快地伝えたいという想いが込められている。
- 「関係人口」という言葉の提唱者が指出一正氏であり、2010年代より使われてきた本キーワードは、観光などでも地域にうまく入り込むことが難しい「無関係人口」から創出され、地域に居住していない方が何らかの形で他地域に関わることで、双方に何らかの価値が生まれていくことを意図している。この移住ではない選択肢である「関係人口」は、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」などでも利活用が検討されている。
- メディアによる情報発信だけでなく、オンラインサロンやコミュニティ、「しまコトアカデミー」に代表される関係人口創出に関する講座などを通じて、地域と連携した関係人口づくりの事業にも取り組んでいる。

### 【会社概要】

- 名称：株式会社sotokoto online
- 代表者：指出一正
- 設立：2018年
- 所在地：東京都千代田区神田小川町 2-1-2
- 事業内容
  - ◆ 「ソトコト」発行及び運営事業
  - ◆ 出版コンテンツを活用したインターネット事業
  - ◆ 雑誌書籍の出版事業

ソトコト表紙

別冊ソトコト「関係人口入門」

環境省と連携「SDGs ローカルツアー」



出所：当社HP・しまコトアカデミーHP等より作成

「移住」なくても、  
地域を学びたい！かわりたいたい！

110

## NEXT TOHOKU MEETUP

## 東北コーディネーター・フォーラム

～東北との「関わり」を愛する仲間たちの集い～

令和3年3月1日（月） 14:00～16:00

at Microsoft Teams

東北の復興や地域活性化を支えてきたのは、各地域で奮闘してきたコーディネーターであり、関係人口が注目されるこれからの地方創生でも大きな役割を果たします。

そうした東北各地のコーディネーターが一堂に会し、それぞれの取組と今後の展望を共有し、今後に向けて連携するためのフォーラムを開催します。

## オープニングトーク

株式会社 sotokoto online 代表取締役 指出 一正 氏

## クロストーク

石井 重成 氏(釜石市役所)

指出 一正 氏(株式会社 sotokoto online)

米田 大吉 氏(NPO法人プラットフォームあおもり)

田中 麻衣子 氏(ヤマガタ未来 lab)

藤沢 烈 氏(一般社団法人RCF)

渡辺 一馬 氏(一般社団法人ワカツク)

東北経済産業局のポスト復興創生に向けた関係人口創出に関するWGの委員により、東北内外の視点により、関係人口とコーディネーターの関係、フォーラム開催の背景など、コーディネーター同士の場だからこそ話せることを全体で共有します。



## 情報共有セッション

コーディネーターの皆様でのグループセッション

東北各地のコーディネーターの皆様を取組を相互に交流できるセッションを行います。それぞれの取組や問題意識などを、少人数のグループに分かれて相互に共有した後に、グループごとの内容について全体で共有します。

申込・問い合わせ：<https://questant.jp/q/FRH82CGF>  
主催：東北経済産業局（事業受託者：信金中央金庫）

# 東北が持つ新たな価値の可能性 TOHOKUリブランディング会議

定員100名  
参加無料

2021年3月18日(木)

13:30~15:15

オンライン(Microsoft Teams)開催

## 今こそ、東北のサステイナブルな価値を考えよう

東北が誇る地域資源を活用した新たな取組により、地域レベルでのブランド価値向上に繋げている好事例をご紹介し、それらの取組を通じて培われた「東北の新たな価値」の可能性について考えるキックオフイベントです。

ニュー・ノーマル時代やその先にある持続可能な地域・人・モノづくりや、それらを可能とする好循環な仕組みづくりについて参加者の皆さんと一緒に考えます。

### 第1部 取組紹介

有限会社マイティー千葉重  
代表取締役 **千葉 大貴 氏**



次世代につなげる  
共有・共感・参加型の  
地域づくり

タヤマスタジオ株式会社  
代表取締役 **田山 貴紘 氏**



ないではなく、  
あるという視点でみた  
南部鉄瓶の  
ブランディング

### 第2部 クロストーク

東北工業大学大学院  
ライフデザイン学研究所  
デザイン工学専攻長・教授  
**大沼 正寛 氏**



株式会社東北博報堂  
MD戦略センター  
クリエイティブディレクター  
東北6県研究所所長  
**加勇田 亮二 氏**

一般社団法人東の食の会  
事務局代表  
**高橋 大就 氏**



申込・お問合せ先  
3/17(水) 締切

事務局委託先 信金中央金庫

申込みはコチラから

<https://questant.jp/q/60X9113E>



開催前日までに、参加URLを事務局よりご連絡いたします。